

# 音叉によるセルフヒーリングテキスト

## 入門編 前編（理論編）

JIN HIROSE



宇宙の叡智の祕密の一端を知るための入門書  
音叉ヒーリングを通して人と宇宙の繋がりを知ること  
無限に等しい宇宙の仕組みと人間の仕組み  
その祕密の扉の「一つ」を開きます

## スピリチュアリズムの地球人類救済計画の一翼、星信仰の復活

## はじめに

人生で一番大切なことは「<sup>デヴィック</sup>靈的成長」であり、<sup>デヴィック</sup>靈的成長は「<sup>デヴィック</sup>DEVIKの實踐」を通してでしか果たされません。しかし、<sup>デヴィック</sup>眞の意味でDEVIKを實踐している地球の地上世界の人間は殆どいません。

なぜなら、<sup>デヴィック</sup>眞のDEVIKを實踐するには「<sup>靈の心</sup>EXA PIECO優位」になった状態で<sup>デヴィック</sup>DEVIKを實踐する必要があるからです。<sup>デヴィック</sup>DEVIKとは宇宙語の一つですが、<sup>デヴィック</sup>DEVIKの眞の意味とは「<sup>デヴィック</sup>靈的成長に繋がるサポート」を意味します。

利他、奉仕、分かち合い、協調關係、平和、これらはすべて<sup>デヴィック</sup>DEVIKの意味に含まれます。人生とは<sup>デヴィック</sup>DEVIKを通して<sup>靈性</sup>靈性を進化させていく、これが神の自然法則です。その<sup>デヴィック</sup>DEVIKをするためには、日常すべてを「<sup>靈の心</sup>EXA PIECO優位」で生きることが必須条件になります。

人間は、「<sup>靈</sup>FUNEKON」という「<sup>大靈</sup>FUGEHUKON」の<sup>わけみたま</sup>分靈で成り立っており、<sup>たいれい</sup>靈的成長とは「<sup>たいれい</sup>大靈の<sup>わけみたま</sup>分靈が成長し神聖化していくこと」を意味しています。要するに、<sup>たいれい</sup>大靈に近づいていくことが<sup>靈的成長</sup>靈的成長の意味なのです。

人間は<sup>靈</sup>FUNEKONという<sup>大靈</sup>FUGEHUKONの<sup>わけみたま</sup>分靈を核に、「<sup>靈の心</sup>EXA PIECO」という本質的な意識と意志と、「<sup>肉の心</sup>DIKAG」という<sup>にくたい</sup>肉體を管理、維持、<sup>うんえい</sup>運營する心が、「<sup>心臓脳</sup>心臓脳」と「<sup>大脳</sup>大脳」を通して<sup>いったいか</sup>一體化して存在しています。

そして、<sup>EXA PIECO</sup>靈の心が「<sup>れいたい</sup>靈體」をつくり、<sup>DIKAG</sup>肉の心が「<sup>にくたい</sup>肉體」をつくり、<sup>れいたい</sup>靈體と<sup>にくたい</sup>肉體が<sup>ゆうたい</sup>幽體を通して<sup>いったいか</sup>一體化しています。これが人間を構成する5つの本質的要素です。現代地球文化は「人間とは何か？」という本質をまったく分かっておりません。そして、誰しもが地上世界に生まれてくる意味とは「<sup>靈的成長</sup>靈的成長」という本質さえもまったく分かっておりません。

惑星地球文化は、全宇宙の中でも靈的進화가最下位の惑星であり、これは「靈的無知」による「利己主義」、「物質中心主義」による悲劇が根本原因です。それが地上世界のあらゆる悲劇、問題を生み出しているのです。

この悲劇を食い止めるためにナザレのイエスは地球人類救済計画を 6000 年前に立案し、そして現在も地球の靈的世界すべての高級靈がイエスを総指揮者として地球人類救済計画を遂行しています。

それはスピリチュアリズムという靈界主導による靈的真理の普及により、靈的無知から地上世界を暗黒の世界にしてしまった人類を救う計画であり、それは靈的成長による救いを与える計画なのです。

その地球人類救済計画の中核は「靈的真理の普及」であり、それはイエスの教えである『シルバーバーチの靈訓』と、スピリチュアリズムを通した靈的真理の教えを地上世界側で整理整頓し、『スピリチュアリズムの思想體系』として「信仰」と「實踐」の内容を明確化した教えを通して初めて可能になります。

スピリチュアリズムを通した靈的實踐論では、「<sup>EXA PIECO</sup>靈の心優位」の生き方を最初に説きますが、それは「日々の心の在り方を正すための<sup>いの</sup>禱り」、「靈的真理の徹底した學習」、「<sup>D I K A G</sup>顯在意識の欲望を最小限にする」、「靈的真理を土台とした仲間づくり」、「スピリチュアリストとしての心構えの確立」を通して可能になります。

そこから、<sup>DEVICK</sup>DEVICKの實踐が可能になるのです。<sup>DEVICK</sup>DEVICKとは、「奉仕、利他」のことであり、靈的成長を目的とする必要があります。また、<sup>DEVICK</sup>DEVICKは「<sup>SEPOUW</sup>背後靈への道具意識」、「<sup>タイミング</sup>時期の来た人のみ<sup>DEVICK</sup>DEVICKする」、「コミュニケーション能力の向上」を通して行っていくものであり、その試行錯誤を通して人は「學び」を深めていくのです。



EXA PIECO <sup>デヴィック</sup> 霊の心優位でのDEVIK（※奉仕、利他）を通して、その<sup>じったいけん</sup>實體験から人は気づき、学びを深めていき、改善を繰り返していくことで<sup>たいけい</sup>霊的進化をしていく、これが<sup>たいれい</sup>大霊の自然法則です。その<sup>EXA PIECO</sup>霊の心優位で生きるために必要なことが「<sup>いの</sup>禱り」であり、<sup>いの</sup>禱りとは「<sup>EXA PIECO</sup>霊の心の所作」であり、心を正すための行為なのです。

スピリチュアリズムの<sup>たいけい</sup>思想體系が明らかにした霊的実践論は主に4つの項目が存在します。その中で、<sup>EXA PIECO</sup>音叉によるセルフヒーリングは<sup>いの</sup>霊の心優位の努力をするための「<sup>いの</sup>禱り」に該当します。なので、本来は地球人類全員に必要なことなのです。

#### 【スピリチュアリズムが明らかにした日常の霊的実践論】

- ① <sup>EXA PIECO</sup>霊の心優位の努力（<sup>いの</sup>禱り、霊的真理の学習、欲望のコントロール）
- ② 調和（<sup>デヴィック</sup>DEVIK、<sup>あ い</sup>神意、奉仕、利他、分かち合い、協調）の実践
- ③ 霊的真理に適った苦しみへの正しい対処
- ④ 自然法則に適った正しい生活習慣を身につける

スピリチュアリズムを通して明らかにされた霊的真理の中で、高級霊は必ず<sup>いの</sup>禱りを強調します。そして、<sup>いの</sup>その禱りの中で「音」は特に重要な意味を持ちます。あらゆる時代、あらゆる<sup>くに</sup>國の、あらゆる民族の文化において、「音」は<sup>いの</sup>禱り、<sup>れいはい</sup>禱拜、賛美として、聖なる宇宙と繋がるために使われていました。

イエスの教えである『シルバーバーチの霊訓』が登場する以前の高級霊界通信（カルデックの『霊の書』やモーゼスの『霊訓』など）では、高級霊たちが、霊界において常に<sup>いの</sup>禱りをしていることが<sup>つた</sup>伝えられています。しかし、実際に高級霊がどのような<sup>いの</sup>禱りをしているのかということについては『シルバーバーチの霊訓』以外では詳細が述べられていません。

シルバーバーチ以外の高級霊界通信でも、<sup>いの</sup>禱りの意義やその重要性は繰り返し説かれていますが、<sup>いの</sup>禱りの本質的な内容については、聖書の中にイエスの<sup>いの</sup>禱りがわずかに見られる程度にとどまっています。

イエスの教えである『シルバーバーチの霊訓』は、数々の霊的眞理を地球人類に解き明かしてくれました。それは地球人類にとって最高の霊的な宝であり眞のダイヤモンドと言うべきものですが、それに加えてシルバーバーチは、高級霊たちが行っている「本質的な<sup>いの</sup>禱り」の<sup>ぐたいてき</sup>具体的な手本を地上人に示してくれたのです。

古代霊シルバーバーチは、常に神の偉大さを賛美し、神が造られた自然法則の見事さを称賛しています。神に対する賛美と畏敬の念にあふれた<sup>いの</sup>禱りは、人々の心に深い感動を与えます。そして、<sup>D I K A G</sup>肉の心優位から、<sup>EXA PIECO</sup>霊の心優位の状態に一気に引き上げてくれます。

シルバーバーチは、高級霊ならではの霊的視野からの考え方を、地上世界の人間に示してくれているのです。シルバーバーチの<sup>いの</sup>禱りによって、地上人類は初めて高級霊の深くて<sup>けいけん</sup>敬虔な神への信仰心を、實感を持って知ることができるようになったのです。

そして、音叉によるセルフヒーリングは、それを更に高めるために必要な<sup>ツール</sup>道具なのです。惑星とは、「霊的世界」と「地上世界」が<sup>いったいか</sup>一體化して存在しています。そして、宇宙の法則はすべて「意志」と「意識」によって成り立っています。

意志とは「<sup>あい</sup>神意」であり、意識とは「調和」です。

<sup>あい</sup>神意とは「<sup>チューニング</sup>發振」であり、調和とは「<sup>タイミング</sup>受振」です。

<sup>チューニング</sup>發振とは「原因」であり、<sup>タイミング</sup>受振とは「結果」です。

原因とは「本質」であり、結果とは「現象」です。

本質とは「時間」であり、現象とは「空間」です。

音叉は英語で「チューニングフォーク」といいます。音叉の本質とは「靈的世界と地上世界を繋げる<sup>ツール</sup>道具」であり、古代人は「音」を通して靈的世界と繋がることを直觀的に理解していました。音叉は地球人類の<sup>いの</sup>禱りのレベルを飛躍的に高めるために必要なものです。

現代地球文化の問題の一つ、「健康と病氣」の問題も、「心」の問題が90%です。それは、地球人類が<sup>DIKAG</sup>肉の心に支配され、<sup>EXA PIECO</sup>靈の心とのバランスが崩れているから病氣になるのです。なので、<sup>いの</sup>禱りによって<sup>EXA PIECO</sup>靈の心優位を保っていれば、健康は維持できる仕組みになっています。

「<sup>EXA PIECO</sup>靈の心」と「<sup>DIKAG</sup>肉の心」は「心臓腦」と「<sup>しょうかたい</sup>大腦（※松果體のシルバーコード）」を通して繋がっています。そして「<sup>れいたい</sup>靈體」と「<sup>にくたい</sup>肉體」は「<sup>にくたい</sup>臍臓（※太陽神經叢のシルバーコード）とチャクラ」を通して繋がっています。それらすべてを統括するのが「<sup>霊</sup>FUNEKON」なのです。

「<sup>霊</sup>FUNEKON」がすべてであり、「<sup>霊</sup>FUNEKON、<sup>霊の心</sup>EXA PIECO」から「<sup>れいたい</sup>靈體」に靈力が流れると、そこから<sup>にくたい</sup>肉體にもエネルギーが流れることで生命力が蘇生し、病氣が治ります。これがヒーリングの原理です。

「<sup>霊</sup>FUNEKON、<sup>霊の心</sup>EXA PIECO」から「<sup>肉の心</sup>DIKAG」に靈力が流れると「直觀」というガイダンスをもらえます。直觀とは、「<sup>霊</sup>FUNEKON」を中心とした、「<sup>霊の心</sup>EXA PIECO」と「<sup>霊の心</sup>EXA PIECO」による<sup>SEPOUW</sup>テレパシー通信が本質です。これを<sup>霊</sup>背後靈と常に二人三脚ですることが必要なのです。

どちらにせよ、眞の健康學に置いても音叉によるセルフヒーリングは重要度が高いということです。現代地球文化の<sup>かがく</sup>現代科學と<sup>いがく</sup>現代醫學は、<sup>にくたい</sup>肉體のみしか見ていません。目に見えるもののしか信じないという唯物思想に染まっています。

しかし、「<sup>霊</sup>FUNEKON」を中心とした「<sup>霊の心</sup>EXA PIECO」と「<sup>肉の心</sup>DIKAG」は目に見えませんが、確實に存在しています。靈、心を中心とした健康學を確立していない現代地球文化は、本当の意味での健康とは縁遠い状態なのです。

音叉によるセルフヒーリングは、<sup>EXA PIECO</sup>「靈の心優位」で生きるという<sup>D I K A G</sup>顯在意識の強い<sup>決 心</sup>「意志」が必要不可欠であり、もし<sup>D I K A G</sup>肉の心の強い<sup>エ ゴ</sup>EGH0意識で音叉を使ってしまった場合、そのマイナスの影響が広範囲に及びます。

スピリチュアリズムが明らかにした靈的真理には、地上人類のひとりひとりに<sup>SEPOUW</sup>「背後靈」が存在し、守り、人生を導こうとしている事実があります。<sup>SEPOUW</sup>背後靈は、「守護靈」と「指導靈」の2種類が存在し、守護靈は生涯に渡る自分専属のサポーターです。

音叉によるセルフヒーリングは、<sup>EXA PIECO</sup>靈の心の所作であり、心を正すための行爲であり、正した心を通して<sup>EXA PIECO</sup>「靈の心（※自分自身）」と<sup>EXA PIECO</sup>「靈の心（※<sup>SEPOUW</sup>背後靈）」のテレパシー通信が可能になります。

その<sup>SEPOUW</sup>背後靈からのテレパシー（※インスピレーション）は、無償、滅私奉公の利他を要求してきます。利他、奉仕、分かち合い、協調関係、平和、人生とは<sup>デヴィック</sup>DEVICKを通して靈性を進化させていくことが法則だからです。

それを可能な限り最善を尽くして実行し、地上世界をより善い世界にしていき、自分自身の靈性を進化させていく、これが何のために生まれ、何のために生きるのかの目的です。そのためには『シルバーバーチの靈訓』、『スピリチュアリズムの思想<sup>たいけい</sup>體系』を人生のバイブルとした信仰実践が必要です。

なので、「靈的真理の学習」と「音叉セルフヒーリングを通した<sup>いの</sup>眞の禱り」は絶対にセットであり、それを通した日常の信仰実践をすることが大切になります。皆さまが靈界からの導きにより、こうして靈的真理の世界に出会えたことを歓迎いたします。

**資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は強く禁じます。もし發覺した場合、法的処置を持って対処をさせていただきます。**

## 古代靈シルバーバーチの眞の「いのり」

調和と神意<sup>あ い</sup>の力によって、わたし達の意識を可能なかぎり高いレベルに一致させましょう。心配や不安の念をすべて追い払いましょう。そしてわたし達の魂を顕在化させ、全存在の創造主、全創造物の統治者である大靈<sup>たいれい</sup>に近づき、その力と榮光<sup>えいこう</sup>による祝福<sup>しゅくふく</sup>を賜ることができるように禱<sup>いの</sup>りましょう。

ああ、眞白<sup>まいはく</sup>き大靈<sup>たいれい</sup>よ。わたし達はあなたの子どもであり、あなたに似せて造られました。そのわたし達が、より多くの叡智<sup>けいけん</sup>を求めて、敬虔<sup>けいけん</sup>にして眞摯<sup>しんし</sup>に、熱意と誠意とを持って、あなたに近づこうとしているのでございます。

これまでに學んだ知識によってわたし達は、あなたについての間違っただ認識を改め、無限なる靈であるあなたに、よりいっそう近づくことができるのです。あなたの造られた攝理<sup>せつり</sup>が、この宇宙に存在するすべてのものを統制し、規制し、維持しているのでございます。

あなたによって造られたあらゆる存在、あらゆるどうぶつ、あらゆる鳥、そして自然界のすべてのものが、あなたの攝理<sup>せつり</sup>の恒常性と正確さに敬意を表しております。あなたの攝理<sup>せつり</sup>によって、この果てしなき宇宙の全存在に完璧な配慮がなされております。

自然界の全側面が、そのすべての活動を支配している自然法則に従って、協調性とリズムを持って動いているのでございます。

軌道にそって正確に運行する星たち、地軸上<sup>じてん じく</sup>を自轉し續ける地球、規則正しく巡りくる四季、野菜・果物・花・樹木などの成育、そしてあなたの神性をミニチュアの形で宿している人間の活動—これらのすべてが、あなたの無限の神意<sup>あ い</sup>によって導かれる崇高な靈力に賛辞を捧げております。あなたの無限なる神意<sup>あ い</sup>が、全宇宙を抱擁しているのでございます。



わたし達は、それと同じ<sup>せつり</sup>攝理の働きを、物質界を超越した高き靈的次元の領域において見てまいりました。わたし達は、さらなる賛美を捧げます。時の経過とともに、あなたの<sup>せつり</sup>攝理に対する賛嘆の念は薄れるどころか、ますます強烈さを増しております。

それが、この宇宙的な大機構の中であって、自分たちの役割を果たさなければならないとの思いを湧き立たせるのでございます。わたし達は、教訓を説き、範を垂れ、知識を広めることによって、聞く耳を持つ者・受け入れる用意のある者たちに、永遠不滅の眞理を届けようと努めております。

その眞理を手にした人々は、あなたに近づき、また、互いに近づき合い、<sup>こうき</sup>光輝と威厳と尊厳と氣高さの中に生きることができるようになるのでございます。

こうしてわたし達は、無知と頑迷と憎しみを生み出す暗黒を驅逐し、混乱と無秩序、敵意と貪欲を追い払い、破滅へと導く利己的な物質万能主義を排除し、<sup>あいの</sup>神意が支配し靈的眞理が根付き、平和の中で暮らすことができる地上天國<sup>てんごく</sup>を招来するために努力しているのでございます。

シルバーバーチは、<sup>こうれいかい</sup>交靈會の始まりと終わりに必ず神への賛美と<sup>いの</sup>禱りを捧げていました。靈的眞理を受け入れたスピリチュアリストにとって、<sup>いの</sup>禱りは欠かすことができない重要な信仰實踐です。<sup>いの</sup>禱りは、日常生活の中で<sup>肉の心にくたい</sup>DIKAGと肉體に閉じ込められ薄らいでしまった靈的意識を取り戻すための純粋な靈的行爲です。

神と靈界の人々とのつながりを緊密にし、靈的エネルギーを充電する大切な時間です。<sup>いの</sup>禱りによってわたし達地上世界の人間は、自らを<sup>靈の心</sup>EXA PIECO優位の状態にすることが可能になり、靈的存在としての基本ラインに立つことができるのです。



## 惑星地球文化の現状について

惑星地球の「地上世界」は、宇宙の中でも人類の靈的成長が最下位の惑星であり、それは「靈的無知」による「利己主義」と「物質中心主義」が根本的原因です。それは、「死」について、「死後世界」についての正確な情報が欠如しているのが一つの原因です。

また、宗教で必ず扱う「神」について、「神の法則」について、「人間」について、「生きる意味」について余りにも無知であり、地上世界すべての宗教が間違った教えを説いていることも原因です。

惑星地球文化の中核は、「<sup>かがく</sup>科学」、「<sup>いがく</sup>醫學」、「政治」、「経済」、「教育（※宗教）」になりますが、すべての分野が「<sup>大</sup>FUGEHUKON」の「<sup>靈</sup>FUGEHEKIN」の「<sup>自然法則</sup>」に反した文化を築いており、それが地上世界を地獄のような世界にしています。

イエスを<sup>リーダー</sup>総指揮にした靈界の総力を結集した「地球人類救済計画」を「スピリチュアリズム」と呼びますが、それは「靈的真理の普及」により、利他、奉仕の心を地上人類に根付かせることが一つの目的です。

イエスは「スピリチュアリズム<sup>ふきゅうかい</sup>普及會」というサークルを通して 2021 年 4 月に「地上再臨」を果たし、地上世界から地球人類救済計画の指揮をしています。靈界の何百億という存在は、全員が「神の代理人」であるイエスに従って地球人類救済計画を進めています。

その地球人類救済計画の 2 大テーマが「靈的真理の普及による地上世界の宗教を改革すること」、そして「心霊治療により靈力の存在を証明すること」であり、音叉によるセルフヒーリングは「心霊治療」の分野に属します。そして、治療の大原則は「<sup>セルフヒーリング</sup>自己治療」であり、病氣は自分で治せることを実証させる必要があるのです。

### 【地上世界の悲劇の内容】

- ① 小規模と大規模の戦争
- ② 教育のマインド・コントロールによる魂の牢獄
- ③ 精神性の退廃、墜落による顕在意識のEGHO意識の増大
- ④ 分かち合い意識の欠如による飢餓、貧困
- ⑤ 地球環境破壊、どうぶつ虐待
- ⑥ 調和の攝理に反した行為による病人の激増

地上世界の悲劇の内容の一つ、病人の激増の問題は如何に地球人類が不調和なのかを表しています。現代社会は病人社会であり、年々病気で苦しむ人が増え続けています。現代社会は病气社会であり、ほとんどの方が、心かカラダのどちらかを病んでいる状態です。それには明確な理由が存在します。

それは、万物の生命を尊ばない現代社会の在り方による弊害であり、大霊の自然法則に反した不調和な文化を築いてしまっているのが一番の理由です。それは、戦争、飢餓、貧困、地球環境破壊、どうぶつ虐待の問題を見ても明らかなる事実です。

しかし、それらは大霊の自然法則に適った調和と神意の生き方にシフトし、DEVIKを実践することで自分自身で治せます。音叉をお伝えする目的の一つが、霊的真理と音叉によるセルフヒーリングを通したホリスティック医学、ホリスティック健康学の普及になります。

病气は、自らが治すものであり、醫者に治してもらうものでもなければ、薬が治すわけでもありません。自分自身の心、言動、行動を一致させることで、病气は自分自身で治せるのです。そこを知るだけでも、世の中には助かる人が大勢いるのです。

地球の「靈的世界」の人々から見れば、「地上世界」は地獄に等しい世界です。苦しみに喘いでいる人、生きる目的を失って絶望の中にいる人、悲しみと怒りしか持つことができない人々が数え切れないほどいるという事実が、まさに地上世界が「暗黒の世界」であることを物語っています。シルバーバーチは地上世界をこのように述べています。

<sup>ひかり</sup> 光もなく活気もなく、うっとうしくて単調で、生命力に欠けています。たとえてみれば弾力性のなくなったヨレヨレのクッションのような感じで、何もかもだらしく感じられます。どこもかしこも陰気でいけません。したがって当然、生きるよろこびに溢れている人はほとんど見当らず、どこを見渡しても絶望と無關心ばかりです。（中略）この地上に見る世界は幸せがあるべきところに不幸があり、<sup>ひかり</sup> 光があるべきところに暗闇があり、満たされるべき人々が飢えに苦しんでおります」

『シルバーバーチの靈訓 靈的新時代の到来』 p.96

地上世界の人間は、肉の心<sup>D I K A G</sup>優位による欲望、肉體<sup>にくたい</sup>的快樂を最優先して求め、地位、名譽、財産の多さが幸福を左右するという「物質中心の考え方」に心を支配されています。欲望を滅却した聖人と言えるような人間は殆ど存在しません。

地上世界の人間は靈的無知から利己主義に支配され、苦しみ、悲しみ、悲劇を蔓延させるようになっています。それらの悲劇は、靈界にも反映され、靈界最下層である地上世界、幽界という世界に「地縛靈」という悲劇を發生させます。

地上人生にとって重要なことは肉體<sup>にくたい</sup>生命の維持、健康ではなく、地上人生の間に、どれほど靈的成長をするかだけです。長生きをすることや物質的に豊かになることが問題ではなく、靈的成長という地上人生の最大の目的を達成できるかどうかだけが一番大切なのです。

地上人類は本来、常に靈的成長という地上人生の最大の目的を意識して生活を送らなければなりません。そうでないと、的外れの方向にエネルギーと時間を費やし、人生をすべて無駄にしてしまうことになります。

残念なことに、地上で生活している大半の人間は、靈的成長を目的とした生き方をしていません。それどころか、靈的成長が地上人生の目的であるということさえ知らない人がほとんどです。

地上人の多くは、靈的成長の手段として与えられた<sup>にくたい</sup>肉體、健康、物質的なモノを重要視し、それを最も価値あるものと錯覚しています。そして<sup>D I K A G</sup>肉の心の欲望、<sup>にくたい</sup>肉體の満足と物質的な豊かさだけを追い求めて、地上人生を無意味に過ごしているのです。

音叉によるセルフヒーリングの普及は、こうした地上世界のマイナスな現状を打破することも目的の一つになります。「靈的真理の普及」と「<sup>セルフヒーリング</sup>自己治療」、そして「<sup>いの</sup>眞の禱り」による「<sup>EXA PIECO</sup>靈の心優位」を確立させ、「<sup>SEPOUW</sup>背後靈との二人三脚による調和の實踐」が出来る人間を増やすことも目的です。

スピリチュアリズムを通して「靈的真理」と「<sup>セルフヒーリング</sup>自己治療」が確立し、イエスが地上再臨した靈的新時代は、暗黒の地上世界を救うために、自分自身の生き方を本気で「靈的新生」させる必要があります。靈や魂などの見えないものを基盤とした、眞の文化を築く架け橋に、自分自身が本気で取り組んでいく必要があります。

そのサポートツールの一つが音叉によるセルフヒーリングになります。様々な問題が地上世界を覆っている中でわたし達が出来ることは、自分自身の<sup>霊</sup>FUNEKONが決めてきた人生のテーマを思いだし、そこに<sup>ひかり</sup>命懸けで取り組んでいき、皆さんの希望の<sup>ひかり</sup>光となるように生きていくことです。

## 音叉セルフヒーリングを学ぶにあたって

本テキストは、音叉ヒーリング入門編テキストになります。現在、世界中で音叉を含むサウンドツールの数は限りなく多く存在します。あまりにも多くのサウンドツールがあるため、どのツールにどのような効果があるのか分からない部分も沢山あります。

そのため、本テキストでは、そのように膨大にあるサウンドツールから、実践的かつ効果のあるツールを選び、魂心身<sup>こんしんしん</sup>すべての調律が可能かつ、なるべく一般の方々が日常生活に使用できるように簡単な方法<sup>つた</sup>をご紹介します。

基本的に、日本や世界で音叉ヒーリングを普及しているスクールなどでは、セルフケアの方法をお伝え<sup>つた</sup>していません。対面ヒーリングでの学びが中心であり、家庭で使える音叉によるセルフケアをお伝え<sup>つた</sup>しているスクールは皆無といってもいいかもしれません。

※あるにはありますが、メソッド<sup>メソッド</sup>じたいに問題がある。敢えて誤解を恐れずにいうならば、音叉を単体<sup>たんたい</sup>、単品でしか使わない方法では、効果があるにはあるが薄い。

しかし、そうしたプロしか生み出せないようなスクールの制度には非常に問題があります。音叉セルフヒーリングは「禱り<sup>いのり</sup>」を更にレベルアップするために必要な道具<sup>ツール</sup>であり、出来る限り多くの方々に必要なものであり、施術家だけに必要な道具<sup>ツール</sup>ではありません。

お金の問題はまず第一に、非常に高額な受講料が問題です。ヒーリング関係の講座、ワークは、だいたい本気で學ぼうとしたら、数十万円～数百万円はかかりますが、これは「詐欺」といえる悪質な問題です。そんな講座、ワークで得れるものなど殆どありません。

治療家は、自分自身が生まれる前に役割として決めてきていない限り、絶対にしてはなりません。簡単に鑑者<sup>いしゃ</sup>になれる方法などありません。すべては地道な努力で培う他はありません。



第二に、日本ではサウンドツールを購入するのが高額という問題です。音叉の必要な道具<sup>ツール</sup>を一通り揃えるだけでも数十万円～数百万円はかかります。お金がないと購入が難しく、必要な人に音叉という道具<sup>ツール</sup>が届けられないのです。

第三に、それだけの高額な受講料、サウンドツールの購入金額がかかっても、セルフケアを學べない。これが最大の問題であると感じます。

一部の裕福層しか學べない。更には自分自身にサウンドツールを使用し、自分自身を整えるという根本的な部分が欠けている現状には非常に違和感を感じます。一般のヒーリングスクールでは、いくら言葉では素晴らしいことを謳っていても、言動と行いに矛盾があるのです。

どれもお金に関する問題であり、現代日本の金銭面の貧困者が増えている現状で、お金がなければ學べない制度には非常に問題があると言えます。そのため、「自己表現プロジェクト」では、お金に關しての問題の解決策も明示しております。

それは、「ユーワード」という「應援<sup>おうえん</sup>コミュニティ」の存在、そして「定期購入メニュー」として「月々6000 円」の月会費という形で解決策を明示しております。そのシステム以外ですと、「年間 72000 円」を年会費という形で皆さんに提示しております。

應援<sup>おうえん</sup>コミュニティは、「紹介者」に対する「お礼」というシステムがあり、皆さんが音叉によるセルフヒーリングの定期購入コースの紹介者を何人か出せたならば、月々6000 円が「實質 0 円」で學べる人も出てきます。月々無料で繼續<sup>けいぞく</sup>して學べるようにするためのシステムであり、それを活用するも活用しないも自由です。

「必要な時に、必要な場所で、必要な誰もが分かち合える」ようにするための仕組みを導入しているのです。自然法則<sup>FUGEHEKIN</sup>の大原則、分かち合い、それを地上世界で如何に具現化するかが課題だからです。



## 音叉セルフヒーリング入門編について

音叉によるセルフケアは、自分自身へのセルフケアという手段を通して、自分自身でスピリチュアル的<sup>へんよう</sup>變容、氣づきを促し、宇宙の仕組みを「自ら」が學んでいくというものです。音叉によるセルフヒーリングを學ぶステップは主に6つのクラスが存在します。

- ・ 音叉によるセルフヒーリング 導入編
- ・ 音叉によるセルフヒーリング 入門編
- ・ 音叉によるセルフヒーリング 初級編
- ・ 音叉によるセルフヒーリング 中級編
- ・ 音叉によるセルフヒーリング 上級編
- ・ 音叉によるセルフヒーリング マスター編

導入編は、「528Hz 倍音トライアルセット」という<sup>ツール</sup>道具の使い方をお<sup>つた</sup>傳えています。基本的に月一回のオンライン講座は「無料」です。入門編から本格的に音叉セルフヒーリングについてを學んでいく形になります。

しかし、忘れないで頂きたいのは、当スクールは音叉の使い方、音叉のメソッドをお<sup>つた</sup>傳えたい訳ではありません。音叉を通して宇宙の仕組みを學び、自分自身の本質の人生、眞の生き方に向かうための<sup>つた</sup>叡智をお<sup>つた</sup>傳えしたいのです。

すなわち、スピリチュアリズムが明らかにした「<sup>霊</sup>靈的眞理」をお<sup>つた</sup>傳えし、FUNEKON、EXA <sup>霊</sup>PIECOを<sup>霊</sup>優位にする努力をし、<sup>デヴィック</sup>DEVIKを實踐し、この惑星地球文化を少しでも蘇生していき、人生の目的である「<sup>霊</sup>靈性の進化」をして頂くことが最大の目的です。

入門編からは、「人間についての本質と構造」を中心に、人間の5つの構成要素を「スピリチュアリズムの思想<sup>たいけい</sup>體系」、奇經八脈、十二經絡、經穴を「中<sup>ちゅう</sup>醫<sup>い</sup>學」から<sup>つた</sup>お傳えしていき、<sup>いがく</sup>予防<sup>い</sup>醫<sup>がく</sup>學、ホリスティック健康學を學んでいきます。

人間のカラダも、エネルギーフィールド理論でいうならば、誰しもが樂器であり、樂器では調律することで美しい音色、旋律を奏でます。いのちの調律をし、自分自身の魂を輝かせる方法を知っていくことを願います。

しかし、音叉によるセルフヒーリングの入門編の講座じたいは、なるべく皆さんに分かりやすく、そして楽しく音叉についてを學んでいただけるように配慮しております。何事においても「理論」と「實踐」の兩方から成り立っており、實踐じたいは簡単に出来ます。

音叉がどんなに素晴らしい<sup>ツール</sup>道具でも、使い方が難しいなら使わなくなります。自ら使いたくならないなら意味がないからです。そして、大半の方がセルフヒーリングに音叉を使わなくなり、結局音叉という<sup>ツール</sup>を活かすことが出来ずにいる現実があります。

音叉をせっかく購入しても使わない方が非常に多く、それでは音叉を購入した意味がありません。音叉をなるべく毎日使いたくなる、こういう状態になることが大切なのです。それによりEXA PIECO<sup>霊の心</sup>優位になり、靈的向上の道が始まるからです。

そして音叉をセルフヒーリングに使うことによる目的の一つが、自分自身が<sup>F A L F</sup>パワースポットになる目的が挙げられます。場所が<sup>F A L F</sup>パワースポットではなくなり、<sup>ひと</sup>靈<sup>F A L F</sup>止がパワースポットになる時代を築いていく必要があるのです。

音叉によるセルフヒーリングを通して、自分自身が「<sup>F A L F</sup>FALF」として甦る、それは「<sup>たいれい</sup>大靈<sup>わけみたま</sup>の分靈が成長し神聖化していくこと」と同じ意味であり、それは自分自身の<sup>D I K A G</sup>顯在意識の強い<sup>決心</sup>意志次第で可能なのです。

## 音叉セルフヒーリング導入編のツール



### 【528Hz 倍音トライアルセット】

¥68,000（輸入税別途）

528Hz ヒーリングパイプ

528Hz エナジーバー

132Hz ヘヴィーフォーク（2 オクターブ下）

264Hz ヘヴィーフォーク（1 オクターブ下）

528Hz ヘヴィーフォーク（ゴールドタイプ）

1056Hz エナジーバー（1 オクターブ上）

2112Hz エナジーバー（2 オクターブ上）

528 Hz 倍音トライアルセットは、「倍音」という「超音波」を発生させることにより、物理次元を超えた作用を及ぼします。音によるヒーリングは「倍音」を操ることで、靈的次元と繋がる事が可能になります。

基本的に、どの周波数だろうが、影響を及ぼせるのは「<sup>しんたい</sup>身體（<sup>れいたい</sup>靈體、<sup>ゆうたい</sup>幽體、<sup>にくたい</sup>肉體）」のいずれかの部位ですが、倍音を駆使することで、<sup>しんたい</sup>身體すべてに影響を及ぼすことが可能になり、限りなく「スピリット・ヒーリング」に近いことが可能になります。

そもそもヒーリングは基本的に3種類に分類されます。「<sup>霊</sup>FUNEKON、<sup>霊</sup>EXA <sup>の</sup>PIECO」に直接刺激を送るのが「スピリット・ヒーリング」、自分自身の<sup>れいたい</sup>靈體のオーラを使用し、相手の<sup>れいたい</sup>靈體を癒す「サイキック・ヒーリング」、自分自身の<sup>にくたい</sup>肉體のオーラを使用し、相手の<sup>にくたい</sup>肉體を癒す「マグネティック・ヒーリング」の3種類です。

音叉は基本的に「マグネティック・ヒーリング」の位置づけですが、倍音を扱うことで「サイキック・ヒーリング」のレベルを行うことが出来ます。倍音を活用することで<sup>しんたい</sup>身體すべてに<sup>りったいてき</sup>立體的に作用し、深い癒しの効果を与えてくれるのです。

## 音叉セルフヒーリング入門編のツール



### チャクラバー（レギュラータイプ）七個セット

チャクラバー七個セットは、外面からの音の刺激により、皮膚を通してチャクラを活性化させるツールであり、基本ツールの効果を数倍以上高める上でも重要なサウンドツールです。



### 聖なるソルフェジオ音階9本セット

入門編サウンドツールの中で、一番効果のあるサウンドツールになります。使い方次第ですが、<sup>霊</sup>FUNEKON、EXA PIECO DIKAG 霊の心、肉の心の3つを調和のとれた方向に調律し、霊的な進化を促すツールになります。

音叉セルフヒーリング入門編セットは、オットーチューナー、オームチューナー、そしてチャクラバー（レギュラータイプ）7個セット、聖なるソルフェジオ音階9本セットになります。入門編セットは全部、和音での音の構成になっております。

音叉によるセルフヒーリング導入編と入門編のサウンドツールの基本は「128Hz」、「132Hz」、「136.1Hz」であり、音階は「<sup>ド</sup>C」および「<sup>ド</sup>C<sup>♯</sup>」が基<sup>ホームトーン</sup>音になります。その基<sup>ホームトーン</sup>音との「<sup>インターバル</sup>音程」というのがヒーリング理論としても大事な部分です。

初級編セット、中級編セットから本格的に様々な音の「倍音」や和音を複合させ、「多重波」を発生させることにより、眠っていた神聖意識を目覚めさせるような使い方になっていき、上級編セットでようやく「惑星音叉」を學んでいく形になります。

音叉セルフヒーリングの本質は「心霊治療」、「星信仰の復活」なのです



## 宇宙語一覧表

宇宙語	翻訳	意味
フ ゲー ウ コン FUGEHUKON	たいれい 大霊	たいれい 大霊、神、創造主 森羅万象すべての存在の創造主であり、父であり母。宇宙最高の力であり、無限の叡智、神意、慈悲、あらゆる霊的本質の総合的化身。
フ ゲー エ キン FUGEHEKIN	自然法則	「微生物≡精霊」、「ソマチッド≡妖精」が自然界の管理、維持、運営をしている。光、空気、土、水、すべての元。時空を構成するものは全てフゲーエキンで成り立っている。
フ ネ コ ン FUNEKON	霊	日本語で大霊の「分霊」を表す。本質的な意識。永遠に存在し続けるミニチュアの神。霊的成長し、大霊に近づくように神に設計された。人間のみ大霊の分霊が与えられている。
エ ハ ビー コ EXA PIECO	霊の心	日本語で「魂」を表す。本質的な意志。EXA PIECOが霊体を構成している。誰しもが本来備えている「良心」であり、霊を感知するセンサーの役割。
ディカグ DIKAG	肉の心	日本語で「顕在意識」を表す。肉の心が肉体を構成している。肉体を維持、管理、運営するための役割。
フィック FIK	しんたい 身体	日本語で「潜在意識」を表す。霊体、幽体、肉体の総称。シルバーコードを通して霊体と肉体を繋ぎ、過去の情報を記録し、肉体の殆どの生命維持の働きを担っている。
デヴィック DEVIK	サポート	日本語で「霊的成長のためのサポート」を表す。霊的成長の原点は「調和」であり、「分かち合い」、「協調関係」が原則。別な表現だと「利他」、「奉仕」の実践であり、自然法則を学ぶという意味も含まれる。
セ ポー SEPOUW	背後霊	背後霊は「守護霊」と「指導霊」の2種類が存在する。より重要なのは守護霊であり、生涯に渡る専属の教師。指導霊は自分自身の霊性の状態に入れ替わったり増加したりする。高次の入れ替わりが「入神」、低次の入れ替わりが「憑依」であり、本人の周波数次第。

宇宙語	翻訳	意味
ファルフ FALF	パワースポット	<p>エネルギー蘇生装置・エントロピー減少装置</p> <p>本来の時空から生み出される、自然の仕組みに違って調和のとれた存在物。自然法則である「微生物≡精霊」、「ソマチッド≡妖精」を蘇生させるもの。精霊と妖精は自然法則そのものであり、その頂点が霊の大海、すなわち<sup>たいれい</sup>大霊になる。</p>
トゥニング TUNING	チューニング	<p>チューニングの真の意味は「直観」であり、直観の真の意味は「霊と霊のテレパシー通信」になる。チューニングの本質とは、霊的世界の波長に合わせ、より高次の存在から課題を乗り越えるためのヒントをもらうための行為。</p>





はじめに	3
古代霊シルバーバーチの眞の「いのり」	9
惑星地球文化の現状について	11
音叉セルフヒーリングを学ぶにあたって	15
音叉セルフヒーリング入門編について	17
音叉セルフヒーリング導入編のツール	19
音叉セルフヒーリング入門編のツール	20
宇宙語一覧表	21
 第一章 天球の音楽、歴史の系譜	 28
天球の音楽、 <sup>マクロコスモス</sup> 大宇宙と <sup>ミクロコスモス</sup> 小宇宙の神祕を紐解く暗号	29
<sup>シンパシー</sup> 共感力の拡大（利他主義）と、 <sup>シンパシー</sup> 共感力の欠如（利己主義）	33
<sup>てんたい</sup> 天體と <sup>じんたい</sup> 人體の <sup>しょうおう</sup> 照應関係はスピリチュアリズムでも重要なテーマ	35
超古代文明から音叉は使われていた事実	37
奇跡の世代、ギリシャのピタゴラスとプラトン	39
儒家の始祖「孔子」と道教の始祖「莊子」	43
歴史を紡いできたヒルデガルト、ケプラー、クストー	45
人類史上最大の靈的新時代の到来	48

第二章 失われし古代の叡智、奇經八脈	50
天球の音楽と奇經八脈の復活による星信仰の復活	51
スピリチュアリズムが目指す新しい世界に必要なもの	53
奇經八脈の全貌の解明に必要なだった情報	55
マインド重視の生き方からハート重視の生き方へのシフト	61
奇經八脈は 12 螺旋 DNA に DNA を進化させる鍵	65
第三章 432Hz と 528Hz とオーム	68
528Hz とオームの <sup>ホームトーン</sup> 基音	69
第3の <sup>ホームトーン</sup> 基音「128Hz」と「432Hz」	73
すべての <sup>ホームトーン</sup> 基音を通した <sup>たいれい</sup> 大霊、宇宙、靈的世界との繋がり	75
フィボナッチ数列と黄金比について	77
生命の中に見られる黄金比	81
地球の音「オーム」の重要性について	83
第四章 チャクラエナジーバー	84
各エナジーバーの種類と意味について	85

各チャクラバーの使い方の一例	88
スピリチュアリズムが明らかにしたチャクラの本質	92
第五章 聖なるソルフェジオ音階	97
聖なるソルフェジオ音階9本セット	98
ソルフェジオ音階の組み合わせによる効果	104
ソルフェジオ音叉の基本的な使い方について	106
第六章 <sup>FUNEKON</sup> 霊 優位の努力、眞のいのり	113
アメリカインディアンの神聖なる <sup>いの</sup> 禱り	114
眞の「いのり」のことを「 <sup>いのち</sup> 生命の調律」という	117
<sup>EXA PIECO</sup> 霊の心優位で生きる大切さを理解しよう	119
<sup>いの</sup> 禱りは、霊的世界からの <sup>ガイダンス</sup> 導きを得る手段	121
人の役に立つとは、人の霊性の進化のために役に立つことが本質	122
正しい動機での「いのり」が眞のスピリチュアル能力を開花させる	125
日々の <sup>いのち</sup> 生命の調律をすることでの効果、恩恵	127
人間はそもそもインスピレーションの <sup>ばいだい</sup> 媒体である	129
人生の <sup>ブループリント</sup> 青写真に導かれるために日々の <sup>いのち</sup> 生命の調律をする	131

第七章 ホリスティック健康學、予防 <sup>いがく</sup> 醫學	138
音叉セルフ學は、地上世界最先端の健康學であり予防 <sup>いがく</sup> 醫學である	139
自然法則に反した健康學による病人の蔓延	143
ホリスティック健康學に必要な人生觀と實踐論	145
惑星音叉は <sup>ふかつせい</sup> 賦活性を持った放射線そのもの	147
<sup>自然法則</sup> FUGEHEKINは、精靈と妖精によって自然界、生命界を管理している	149
靈的世界の地上世界へのサポート形態	151
細胞の中の水が受ける「音＝波動、周波數」の調整で病氣は治る	153
星々の音による <sup>いのち</sup> 生命の調律という新次元の健康學	155
第八章 最先端 <sup>かがく</sup> 科學、周波數の叡智	158
靈的眞理の適用について	159
シャーマンという地上世界の靈的指導者	163
宇宙は音で始まり、やはり最後は宇宙は音で満ちている	165
サイマティクスから明らかになる波動の世界	167
音は「倍音」により物質次元を超えた影響を及ぼす	175
惑星地球と地球人類を甦らせるために	179





## 第一章

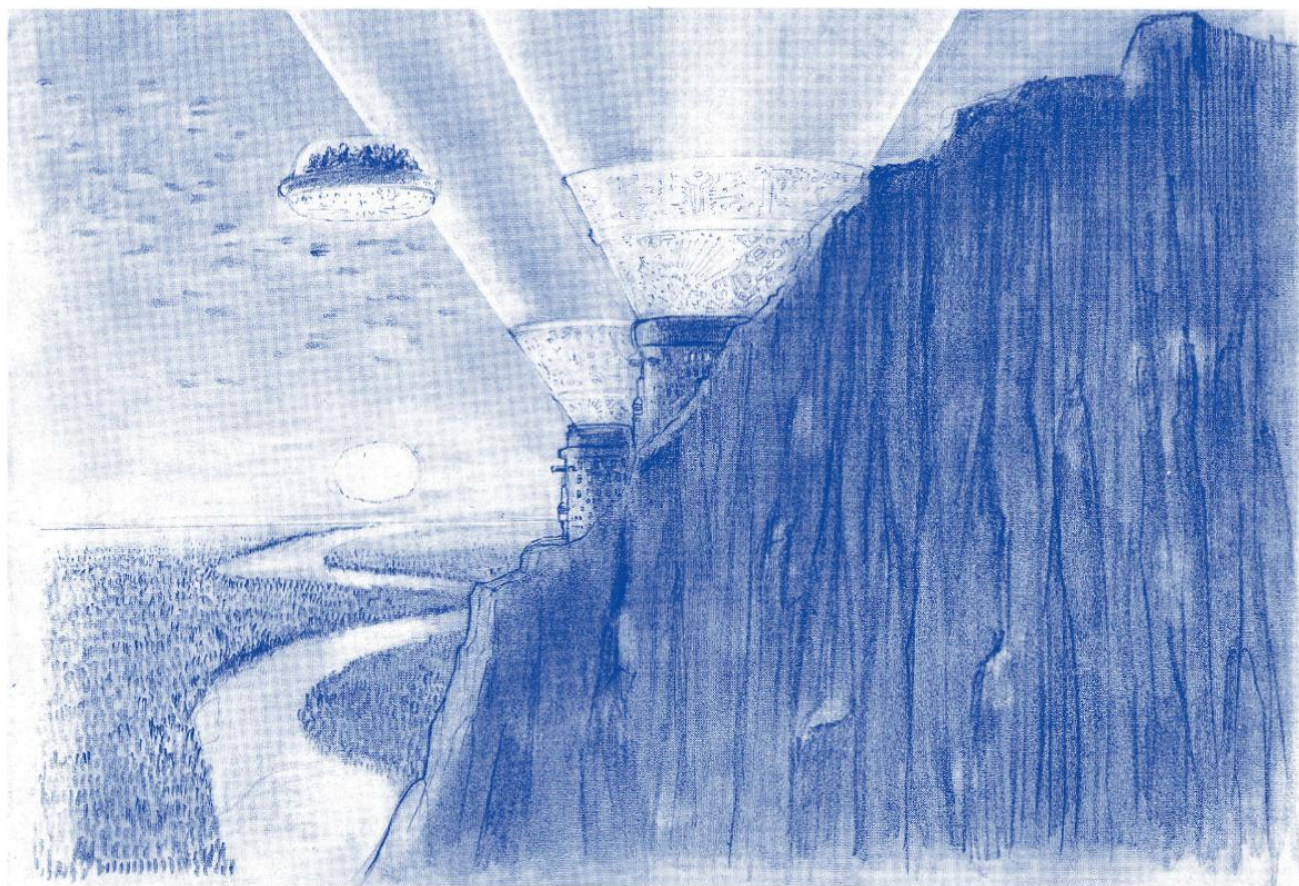
### 天球の音楽 歴史の系譜

スピリチュアリズムの目標である  
地球人類救済計画  
その2大テーマ  
「宗教の統合」と「星信仰の復活」





マクロコスモス ミクロコスモス  
天球の音楽、大宇宙と小宇宙の神祕を紐解く暗号

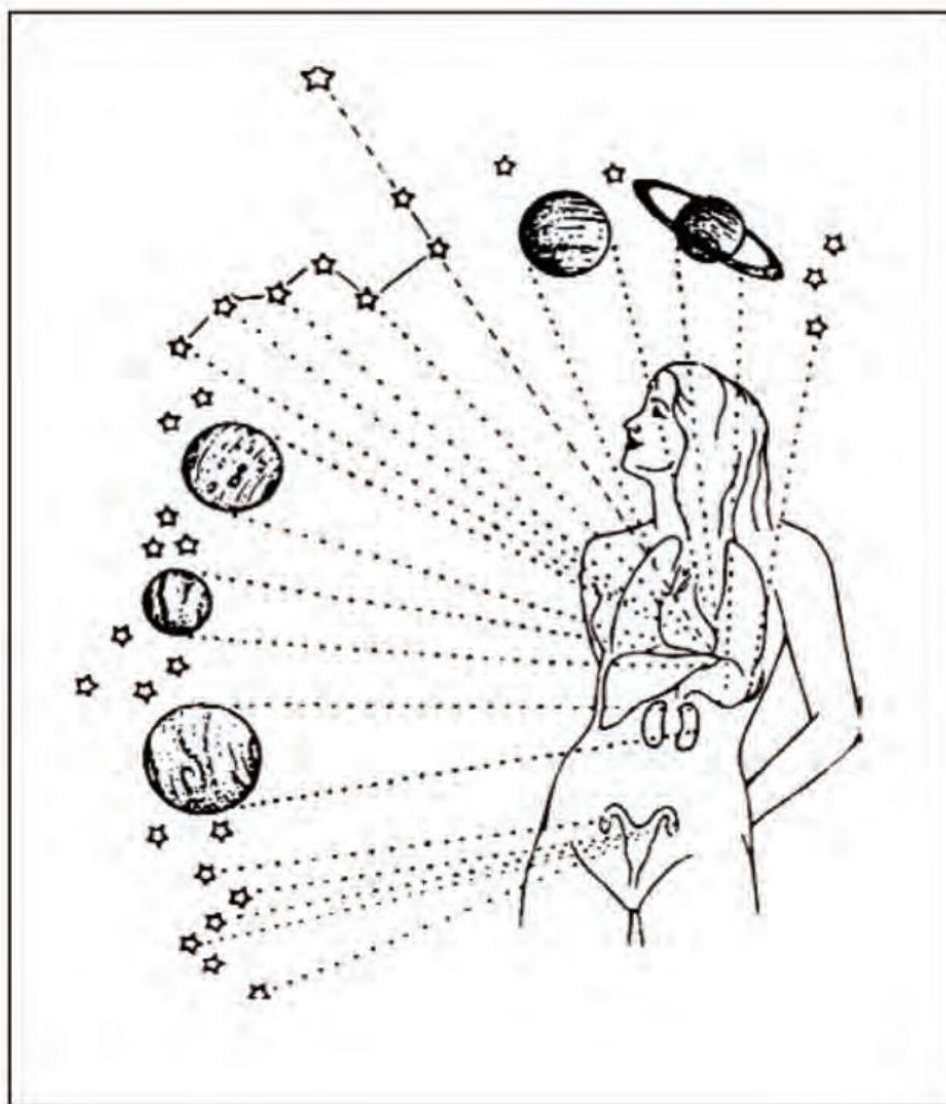


音叉ヒーリングは、「<sup>ミステイカル</sup>神祕主義」と「<sup>サイエンス</sup>現代科学」を融合した「真の科学」であり、イエス主導の地球人類救済計画の2大テーマ、「宗教の統合」と「星信仰の復活」の中で、星信仰の復活に關係するものです。

古代よりの叡智では、<sup>マクロコスモス</sup>大宇宙と<sup>ミクロコスモス</sup>小宇宙は「<sup>しょうおう</sup>照應關係」にあると言われており、大宇宙と<sup>ひと</sup>靈止は同じ創りであると信じられてきました。<sup>マクロコスモス</sup>大宇宙は「<sup>たいれい</sup>大靈」であり宇宙を表し、<sup>ミクロコスモス</sup>小宇宙は「<sup>しゆくず</sup>靈」であり人間を表します。人間とは宇宙の縮圖なのです。

<sup>てんたい</sup>天體と<sup>じんたい</sup>人體は必ず<sup>しょうおう</sup>照應關係にあり、<sup>てんたい</sup>天體とは大宇宙、宇宙、星座、銀河、恒星、惑星を表し、その映し鏡が<sup>ひと</sup>靈止、人間、元素、原子、中性子、陽子、分子を表します。

天のエネルギーのエッセンス —Essence of the Stellar Energies—

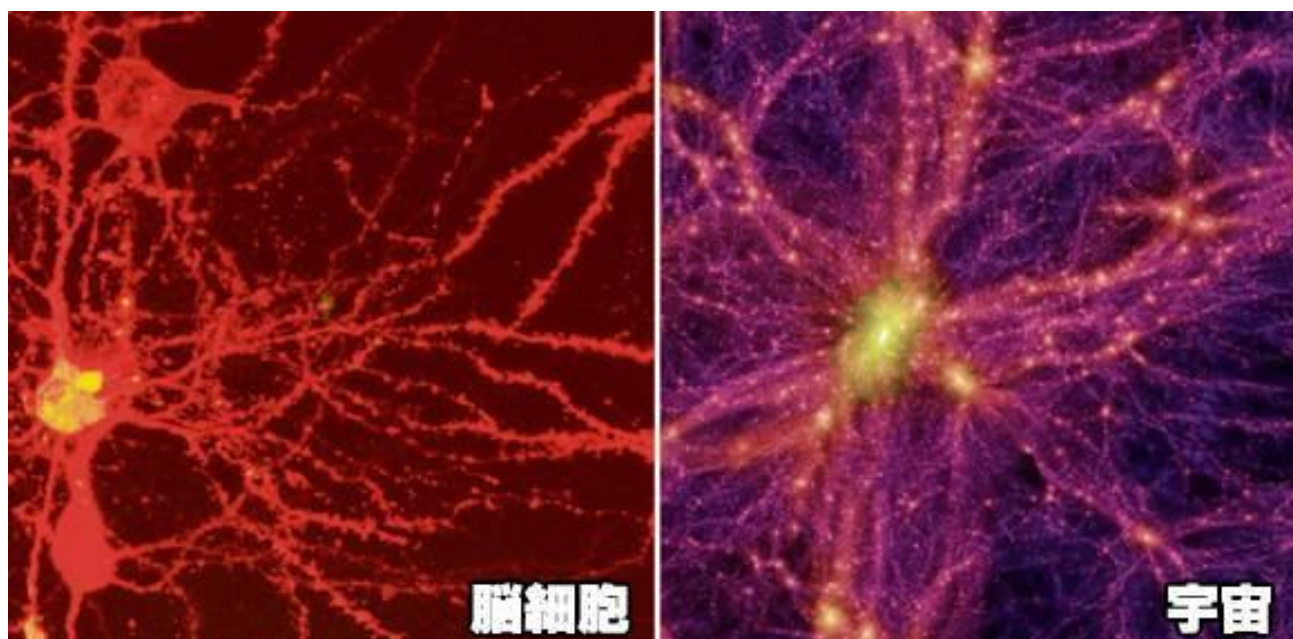


宇宙の天體<sup>てんたい</sup>は必ず「靈的世界」と「物質世界」が存在します。日本語で靈的世界のことを靈界、物質世界のことを地上世界と呼びます。この靈的世界と物質世界を繋ぐ暗号が「星々の音」であり、星々の音は靈的世界と地上世界を繋ぐ架け橋なのです。

内臓は、恒星(中性子)、惑星(陽子)のエネルギーを受け取る眞髓であり、大宇宙<sup>マクロコスモス</sup>(靈的世界)と小宇宙<sup>ミクロコスモス</sup>(物質世界)を繋ぐ「接續点<sup>せつぞくてん</sup>」です。チャクラは銀河(原子)を構成するものであり、靈體<sup>れいたい</sup>と肉體<sup>にくたい</sup>を繋ぐ「接合点<sup>せつごうてん</sup>」です。靈體<sup>れいたい</sup>と肉體<sup>にくたい</sup>を繋ぐ役割は「電子」であり、わたし達は靈的世界と物質世界を繋いでいる存在なのです。



NASA の研究所は、彗星核から放出される原子物質とその間にある物質 —— エネルギー —— を懸命に分析しています。そうした NASA の研究により、**脳細胞と宇宙の形は酷似**していることや、更には臓器や骨、筋肉や細胞の周波数と天體<sup>てんたい</sup>の周波数はリンクして一緒であると判明しています。



わたし達のカラダが宇宙塵<sup>うちゅうじん</sup>で出来ていることは、科学的<sup>かがく</sup>にも証明されています。星屑や隕石のミネラル成分と、人體<sup>じんたい</sup>のミネラル成分は 99%一緒であり、宇宙と人はコズミックダストとして繋がっていることも、NASA の研究で明らかになっています。

このように、現代科学<sup>サイエンス</sup>の研究において、人體<sup>じんたい</sup>の構成要素は宇宙の星を構成している物質と同じであることを裏づける論拠が次々と見つかっています。この相關關係<sup>そうかんかんけい</sup>が分かってくると、大靈<sup>たいれい</sup>と大靈<sup>たいれい</sup>の創造した自然法則<sup>FUGEHEKIN</sup>の完璧性が分かり始めます。

大宇宙は極大<sup>マクロ</sup>、極微<sup>ミクロ</sup>のあらゆるものが自然法則<sup>FUGEHEKIN</sup>によって生かされ、動かされ、規律正しくコントロールされていることが分かります。そうした全生命を創造した存在こそが「神」なのです。この神との繋がり<sup>つなぎ</sup>の暗号、鍵が「星々の音」なのです。



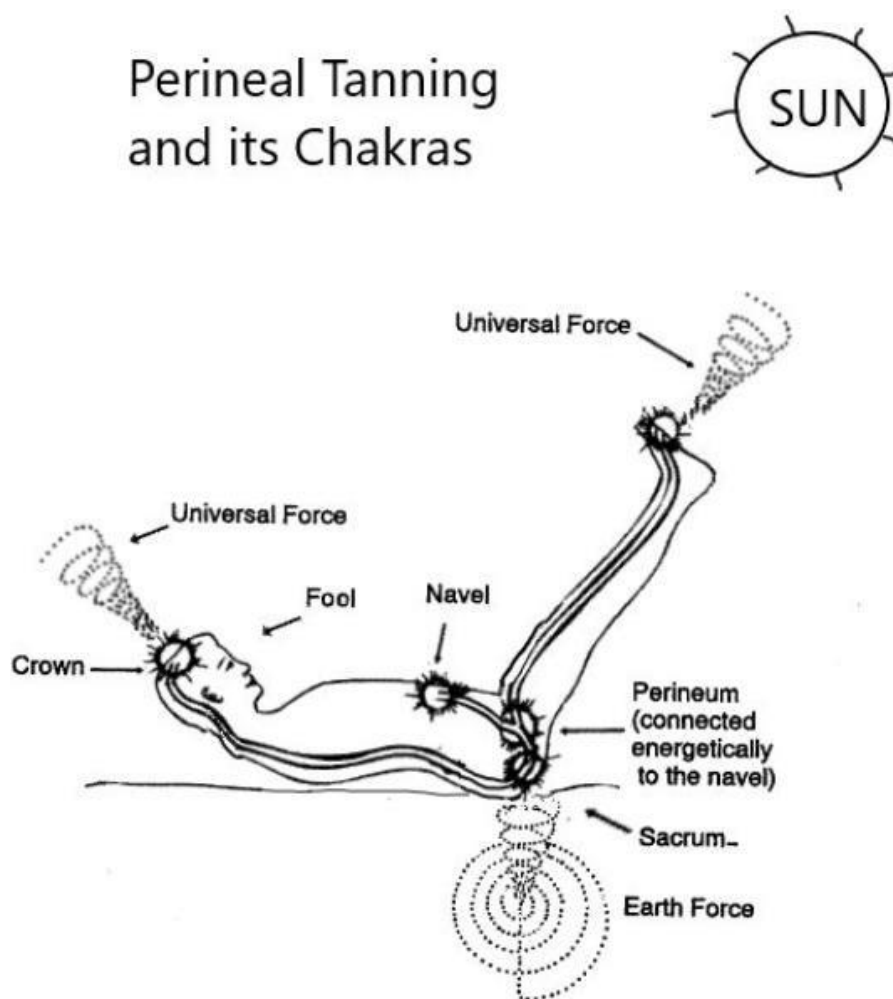
てんたい じんたい  
天體と人體を繋ぐのは「音」であり、闇から ひかり 光を生むのも音であり、星々の音が ひかり 光の源泉です。星々の音にもランクがありますが、大宇宙の音、星座の音、銀河の音、恒星の音、惑星の音、衛星の音であり、これらの「<sup>コスミックダスト</sup>星屑の集合體」が森羅万象を構成するものの中核です。

音楽は、「樂器の音楽」、「人間の音楽」、「天球の音楽」という3種類が存在します。音叉ヒーリングは「天球の音楽」に該当し、現代地球文化で忘れ去られてしまった音楽です。天球の音楽は、神の學問であり、その本質は細胞レベルに働きかけるものです。

音叉ヒーリングは、細胞レベルに刻まれた星々の記憶を呼び覚まし、再び<sup>スピリチュアルジャーニー</sup>靈的巡礼の旅を始めるために必要な叡智です。<sup>D I K A G</sup>顯在意識では忘れてしまっても、<sup>F I K</sup>潜在意識（細胞レベル）には何のために生まれ、何のために生きるのか、自分自身とは何者か、さらなる靈的向上のために何が必要なのかの情報が刻まれています。

シンパシー  
共感力の拡大（利他主義）と、シンパシー  
共感力の欠如（利己主義）

## Perineal Tanning and its Chakras



音叉ヒーリングは、靈的エネルギー(宇宙エネルギー)と生命エネルギー(大地エネルギー)を  
じんたい 人體に取り入れるためのメソッド画期的な方法論です。

靈的エネルギーとは、「人の役に立つ想い（利他、奉仕の心）」であり、生命エネルギーとは「生命力を増強させること、健康になること」であり、両方が融合し、調和した状態こそが、<sup>EXA PIECO</sup>「本質優位」の状態であり、人々が目指すべき状態になります。

人々が生まれてくる意味、<sup>EXA PIECO</sup>靈性の進化とは「共感力」が鍵であり、<sup>EXA PIECO</sup>靈性の進化とは「共感力の拡大（利他主義）」、<sup>EXA PIECO</sup>靈性の退化とは「共感力の欠如（利己主義）」を表します。



EXA PIECO

## 霊性の進化とは？

共感力の拡大 ⇔ 共感力の欠如

利他主義 ⇔ 利己主義

共感力を英語で「<sup>シンパシー</sup>Sympathy」と言います。共感とは、共鳴し合い、まるでひとつのものであるかのように関連し合い、<sup>しょうおう</sup>照應している状態です。共感能力とは日本語で言うならば、思いやりであり、<sup>あい</sup>神意です。

EXA PIECO

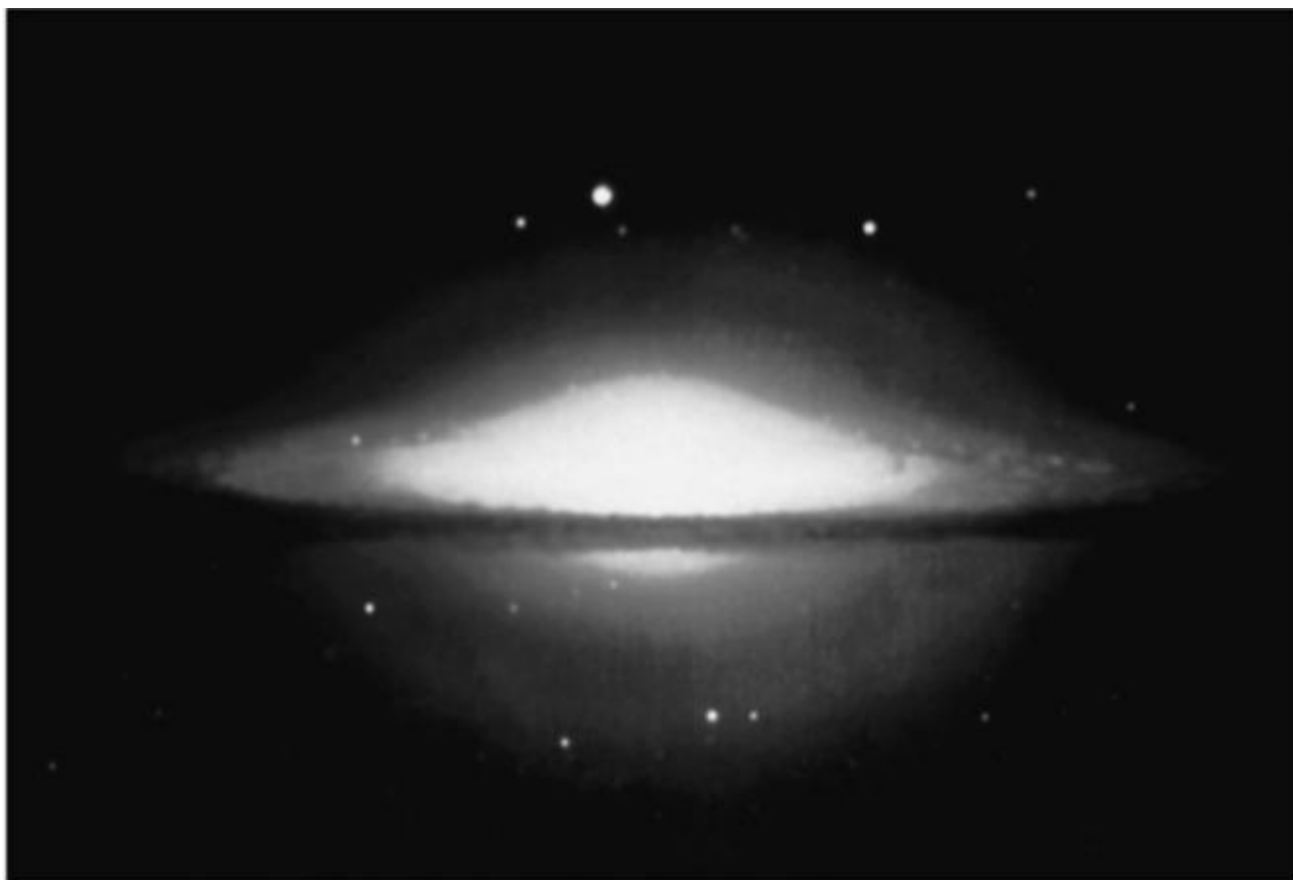
共感能力とは、<sup>シンパシー</sup>霊性の進化に比例して拡大していきます。「Sympathy能力」が拡大すると、チャクラが自然に開いて<sup>テレパシー</sup>「Telepathy能力」が生まれます。眞の教育とは、「思いやり、<sup>あい</sup>神意、慈しみの心を育む」ことであり、それは「共感力の拡大」を表します。

現代地球文化の地球人類は、利己主義という共感力の欠如が地球の地上世界での様々な問題、悲劇を生み出していることを知ってください。それは霊的無知によって、分かち合いの心を忘れてしまったから起こることなのです。

地球上の戦争、宗教（ニューエイジ系含む）による洗脳、利己主義者の増大、貧困、飢餓、地球環境破壊、どうぶつ虐待、病人の激増、こうした問題は、霊的無知による利己主義、唯物主義によって引き起こされています。

<sup>D I K A G</sup>顕在意識の<sup>エゴ</sup>EGHO意識（依存、自我、恐れ、欲望）は際限がありません。しかし<sup>F I K</sup>潜在意識（細胞レベル）では宇宙の聖なる原則の記憶は眠っています。音叉ヒーリングは、その眠っている<sup>F I K</sup>潜在意識（細胞レベル）を目覚めさせ、<sup>EXA PIECO</sup>霊性の進化のためにすべき方向性の<sup>ガイダンス</sup>導きを授かるためのシステムです。

てんたい じんたい しょうおう  
天體と人體の照應關係はスピリチュアリズムでも重要なテーマ



音が宇宙の始まりに深く關与し、小さな微振動から全てが始まっています。天體と人體は微振動という形で繋がっており、その微振動の集まりが星々や大きな惑星に成長していきましたが、わたし達を構成する身體の成分と、宇宙を漂う星屑の成分が 99%一緒なのは偶然ではありません。

靈體、幽體、肉體を総称して「身體」と言いますが、身體とは「天體の神殿」であり、靈の宿る神聖なる宿であり、大切に管理しなければなりません。天體とわたし達の各臓器や個々の細胞、エネルギーポイントなどの關係性を知れば知るほど、生命の神祕に感嘆します。

宇宙のはじまりも、星々の誕生も、音で始まっていると言われていますが、音はエネルギーであり、人間の細胞レベルに直接響く膨大な情報量を持っています。



てんたい じんたい しょうおう  
天體と人體の照應關係は、靈界主導の地球人類救済計画であるスピリチュアリズムの中  
でも重要なテーマの一つですが、その中でも、じんたい  
人體のメカニズムについてを勉強している方は  
あまりいません。結論から言うならばてんたい じんたい  
天體と人體はセットで学ぶ必要があります。

音を知ることは、自然界の法則、宇宙の叡智を知ることにつながり、高時空元への祕密に繋がる扉にも通じます。このことは、音によって「直観」、「感覚」、「感性」を磨いていくことが可能であることを示しています。

音叉ヒーリングの「統合的なヒーリングシステム」と、「靈的眞理」の「融合」は、音叉ヒーリングの「理論」と「手法」を高時空元のいしきたい意識體と二人三脚で生み出していくのに必要なことでした。単なる思いつきではなく、守護靈、指導靈と二人三脚で開発したものなのです。

地球人類救済計画の一翼を担う音叉ヒーリングは、靈的存在の協力が必要不可欠です

## 超古代文明から音叉は使われていた事実



1997 年、アメリカの<sup>ケリーネット</sup>keelynetという考古学者が、エジプトの考古学者と共に、エジプトの博物館倉庫の 8 フィート×10 フィートの扉の内部で、音叉と名付けられた 398 本もの音叉が隠されているのを発見しました。

エジプトで見つかった音叉は、鉄ではない金属製のワイヤーのようなものが巻かれ、そのワイヤーを引き抜くと、その音叉は突然振動し始めて、長時間の間、振動したと報告されています。現代の商用音叉とは明らかに違う作りになっていました。

古代エジプト時代には、約 400 本も音叉を使っていたということですが、それだけの数があればウイルス、細菌を始めとした病氣、神経細胞に関わる病氣など、あらゆる病氣に素早く対処できます。



また、二つの古代文明の遺跡から発見された、石からの音叉により、かなり古くから音叉が地球の歴史上使われていたことが明らかになりつつあります。考古學者によると、スコットランドにあるピクト人の遺跡の石繪に描かれたハンマーと音叉はかなり大きいものとのことです。

このように、音叉の起源は少なくとも数万年以上も前であり、超古代文明から使われていたことが明らかにされています。それぞれ東南アジア、<sup>ちゅうごく</sup>中国、ギリシャ、エジプトなどの地域で、精神的な癒しや、宗教的な儀式や祭事、<sup>いりょう</sup>医療などに用いられ、重要な楽器とされてきました。

しかし、こうした情報が表に公表されることはなく、権力者の都合によって情報を隠蔽されています。なので、一般の方がこうした情報に触れる機会は殆どなく、音叉によって人々を癒せること、病気を治せることを知らない方が殆どです。

ニューエイジ系で有名な人物の一人にエドガー・ケイシーという人物がいます。20 世紀の予言者、心霊診断家の一人であり、エドガー・ケイシーは存命中に、「音は未来の治療となる」と述べておりました。

音叉ヒーリングというのは、ただなんとなく気持ちいいとか、波動とか、そういう非<sup>かがく</sup>科学的なものではありません。ちゃんと科学的な裏付けのあることなので、例えば骨を折ったときとか、そのままやるより、サウンドセラピーを加えた方が治りが速いのは明らかです。それを信じるか信じないかは皆さん次第です。

1960 年代は、メディテーション(瞑想) が心身に良いだなんて、誰一人として言ってませんでした。しかし昨今、ようやくそれは一般的に認知されるようになってきました。音を使った施術や治療も、いずれ必ずそうなります。



## 奇跡の世代、ギリシャのピタゴラスとプラトン



ピタゴラス  
Pythagoras

BC570～490 年

ギリシャ

ここ 5000 年の近代地球文化で音について最初に研究をした人物は、「ピタゴラス」です。イエス主導による地球人類救済計画は 6000 年前からスタートし、3000 年前から 2000 年前は靈的指導者が相次いで地上世界に誕生し、奇跡の時代と言われる時代でした。

イスラエル地方にはメルキゼデク、モーゼ、エリヤ、エリシャが降誕し、ギリシャ地方にはピタゴラス、ソクラテス、プラトン、ヒポクラテスが降誕し、<sup>ちゅうごく</sup>中国地方には老子、孔子、莊子、孟子が降誕し、世界各地に靈的指導者が存在していました。

ナザレのイエスは、地上へ降誕した一連の予言者ないし靈的指導者の系譜の、最後を飾る人物でした。そのイエスにおいて、靈の力が空前絶後の顯現をしたのでした。

『シルバーバーチの靈訓 地上人類への最高の福音』p.262

これは靈界主導の地球人類救済計画が関係し、イエスにおいて完遂される計画でした。しかし、それが当時完遂されることはなく、当時の計画は失敗に終わりました。

当時、地球人類救済計画の、「星信仰の復活」に関係していた人物は、西洋だと「ピタゴラス (BC570～490)」、「プラトン (BC427～347)」、東洋だと「孔子 (BC551～479)」、「莊子 (BC 369～286)」になります。

ピタゴラスは、哲學者<sup>てつがくしゃ</sup>であり、神祕家であり、賢者であり、預言者でもありました。調和的かつ科學的<sup>かがく</sup>な宇宙觀を標榜し、宇宙の聖なる調和の原則に従って生きた人物の一人でした。宇宙を「コスモス」と初めて呼んだのはピタゴラスでした。

コスモスの語源はギリシャ語の「kosmos」からであり、「調和」と「秩序」の両方の意味があります。大宇宙<sup>マクロコスモス</sup>と小宇宙<sup>ミクロコスモス</sup>は調和と秩序によって成り立っていることを本質的に理解していました。それが、ピタゴラスが靈的指導者の一人であることを裏付ける理由です。

ピタゴラスは、振動する肉體<sup>にくたい</sup>の動きにより音が生まれるのと同様に、天體<sup>てんたい</sup>の重力の動きも振動し、音を生み出し、そこにわたし達には聞こえない「天體<sup>てんたい</sup>のハーモニー」が生じていると述べています。數學者<sup>すうがく</sup>であるピタゴラスにとって、自然界は、すべて周波數<sup>数</sup>や周波數<sup>数</sup>と類似した形（共通性）で表され、そのすべてが調和していると考えていました。

ピタゴラスは、エジプトで神聖幾何學<sup>きかがく</sup>を學び、密儀のイニシエーションを受け、占星術に長けたカルデア人から天文學<sup>てんもんがく</sup>を學び、フェニキア人からは算術と比率を學びました。更には世界最古の宗教であり、「星信仰」の原型であるゾロアスター教の信徒から、自然の神祕<sup>たいれい</sup>、大靈の自然法則の原理、美しさを學びました。

ピタゴラスは、カルデア人やシュメール人から受け継いだ天文學<sup>てんもんがく</sup>（惑星）の知識を元に、靈的世界と地上世界とは「星々の音」によって繋がっていることを説きました。ピタゴラスは後世<sup>すうがくしゃ</sup>では數學者としての功績が知られていますが、實は星信仰を初めて地上世界に普及した人物なのです。



ピタゴラスは惑星が回轉運動する時に音が鳴り、各惑星の音が「調和の取れた旋律」を奏でているという「インスピレーション」による論理的仮説を立てました。惑星の回轉運動によって發せられる音が、宇宙の調和だと考えたのです。

ピタゴラスは算術と幾何學の定理を發見したことで有名ですが、音樂理論にも重要な功績を残しています。調和のとれた「音程」の間には數學的關係である「比率」が存在する、つまり「音」と「數字」には照應關係が存在することを發見したのです。

ギリシャ語で比率を表す單語は「ロゴス」です。ロゴスという單語には「理」、「言葉」、「思考」という意味があります。ピタゴラスの門下は、宇宙の秩序の聖なる原則（天球の音樂）と音程の比率は同じであると考えました。その流れがプラトンに繼承され、プラトンは人間の魂と音樂の照應關係を解き明かしていきました。



プラトン  
Plato

BC427～347 年

ギリシャ

ソクラテスは、靈魂は不死であり、人間にとって最高に価値のあるものであることを証明しようとした。ソクラテスの弟子であった哲學者<sup>てつがくしゃ</sup>プラトンは、師ソクラテスが主張した靈魂の徳（アレテー）の根拠づけをはかりました。その結果成立したのが「イデア論」です。

ソクラテスやプラトンの「靈肉問題」の基本的な考え方は、スピリチュアリズムと共通しています。そんなプラトンは、<sup>すうがくてき</sup>數學的調和に基づく「音樂的宇宙」の概念について、ピタゴラス派の考えに賛同していました。

スピリチュアリズムのもたらした靈的眞理と基本的な考え方が一致していたプラトンは、西洋の哲學思想の手法と、實用的枠組みを確立しました。そんなプラトンにとって、音樂は人間の魂の謎を解き明かす鍵でした。人の調整と啓蒙に利用できる最もパワフルな<sup>ツール</sup>道具が音樂だったのです。

プラトンは、その著書『ティマイオス』において、宇宙の創造と、宇宙靈魂から發する宇宙の万物についてを著し、宇宙靈魂を音樂的なものとして明確に定義しています。また、著書<sup>こっか</sup>『國家』の中で、音樂が人間の魂に影響を及ぼすこと、音と音の間の様々な<sup>コード</sup>和音や<sup>メロディー</sup>旋律が心理的な作用を及ぼすことを認めていました。



## 儒家の始祖「孔子」と道教の始祖「莊子」



孔子  
(Confucius)  
紀元前 551～479 年  
中国



莊子  
(Chuang Tzu)  
紀元前 369～286 年  
ちゅうごく  
中国

一番古い<sup>ちゅうごく</sup>中国の<sup>てつがくしゃ</sup>哲学者は老子であり、老子は「魂の奏でる音楽は、大いなる宇宙で奏でられる音楽の内にある」と記しました。晩年残した言葉の数々からは、大いなる神祕の宇宙の真理は超越した叡智であり、その調和に満ちた自然な在り方が、東洋の思想の原点であると説いています。

儒家の始祖である孔子は、春秋時代の<sup>ちゅうごく</sup>中国の<sup>てつがくしゃ</sup>思想家、哲学者です。孔子の時代、古詩（『詩経』等）は、人の心（情緒）を豊かにする大切な教材の一つでした。当時は、音楽が政治の場面においても重要な役割を持っていました。

しかし、それ以上に孔子自身が音楽を愛し、楽しんだことが知られています。音楽も文学と同じく人の情操、情緒や徳を育てる大切な教養であると感じていたのです。また、孔子は星信仰の復活に關係する「北極星」と「北斗七星」を尊んでいます。

「徳による政治は北極星に喩えられるだろう。天の中心にじっとして、諸々の星々はそれを共ぐる」

孔子にとって音楽は天に通じるものであり、礼に通じるものであり、政治に通じるものであり、人間の魂に通じるものだったのです。





莊子は<sup>ちゅうごく</sup>中<sup>せんごく</sup>國・<sup>そうごく</sup>戦國時代の<sup>ちゅうごく</sup>宋國の思想家、老子と同じく道教の始祖の一人です。<sup>ちゅうごく</sup>中<sup>ちゅうごく</sup>國古典『莊子』の著者とされている人物ですが、『太上助國救民總真祕要』という書物には、「<sup>とうと</sup>踏斗」と呼ばれる北斗七星の形に歩く技法が載っており、現在でも道教で使われています。

また、道教では<sup>てんたい</sup>天體としての「天」の存在において、太陽や太陰（月）よりも、天の中心・北極星、すなわち「太一」を尊び、これを道に仮託する場合があります。北極星を祀る者、もしくは、北極星を神格化したものを、道教では<sup>てんのうたい</sup>「天皇大帝」と呼びます。

安倍<sup>せいめい</sup>晴明を祀る「<sup>せいめい</sup>晴明神社」には、以前井戸の前に北斗七星が描かれていました。「太陽信仰である」と解釈されやすい神道ですが、新年最初の儀礼で、歴代の天皇は初日の出を拝まず、北斗七星を尊んだという記録が残っています。

---

古今東西の宗教的思想の大半が「太陽信仰」か「月信仰」であり、クリスマスとイースターも元々は様々な宗教の「太陽信仰」をキリストの誕生、キリストの復活の日とした背景があります。しかし、星信仰は歴史から消されてしまった状態であり、その名前さえ知らない人が沢山います。

<sup>マクロコスモス</sup>大宇宙と<sup>ミクロコスモス</sup>小宇宙は相關關係にあります。太陽は「心」、月は「意識」、地球は「氣持ち」と相關關係にあり、星は「精神」と相關關係にあります。太陽も月も星も、すべて「<sup>たいれい</sup>大靈」が生み出したものであり、宇宙と繋がり生きることは「自然」なことなのです。そして<sup>たいれい</sup>大靈を象徴していると考えられているのが古代では「北極星」だったのです。

## 歴史を紡いできたヒルデガルト、ケプラー、クストー



ヒルデガルト フォン ビンゲン  
Hildegard of Bingen

1098～1179 年

ドイツ、ビンゲン

他にも天球の音楽に携わっている歴史上の人物は各時代にいます。アウグスティヌス、エックハルト、アッシジの聖フランチェスコ、シュタイナー、ケプラーなどの人物が挙げられますが、西暦時代で天球の音楽を復活させようとした偉大なる人物だとヒルデガルトになります。

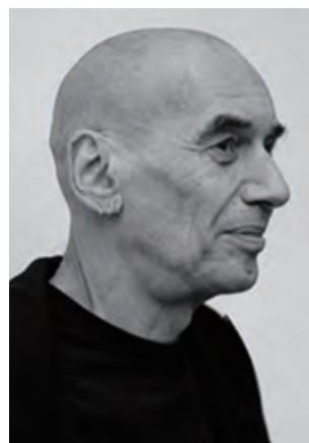
ヒルデガルトは中世ドイツの修道女であり、2012 年にその素晴らしい功績が認められて、没後 833 年もたって聖者に認定された存在です。ヒルデガルトは修道女という枠に収まらず、ヒーラーであり、神学者であり、神祕家であり、音楽家でした。

彼女は、靈的世界と地上世界、宇宙と地球、星々の世界の「調和」に関する學説を打ち立てただけではなく、ピタゴラスやプラトンと同様、天球の音楽を地上世界に具現化し、宇宙の音楽の「ハーモニー」と、そこに内在する秩序、法則を、人間の生き方に反映させて実践しました。

しかし当時、中世の女性蔑視の<sup>きょうかい</sup>教會内でそうした靈能力の高さゆえに随分と迫害を受けていた記録も残っており、先覚者は地上世界で歓迎されないことを物語っています。



ヨハネス・ケプラー  
(Johannes Kepler)  
1571～1630 年  
ドイツ



ハンス・クストー  
(Hans Cousto)  
1948 年～  
スイス

ヒルデガルトは作詞作曲家、画家、ハーバリスト（ハーブ・薬草を巧みに使いこなせる人）など、いくつもの才能をもち、どの分野でも精神性の高い作品や功績を残しています。特に<sup>てんたい</sup>天體の<sup>シンフォニー</sup>交響曲をあらわす曲の数々や、宇宙をあわらすアートがとても美しく、人間と<sup>てんたい</sup>天體や星々との深い繋がりを認識することの重要性を著している記述は素晴らしいものです。

こうして、天球の音楽を様々な歴史上の人物が探求してきた系譜がありますが、それを近代で完成させたのは「ヨハネス・ケプラー」と「ハンス・クストー」であり、それは 1848 年からスピリチュアリズム運動の地上世界での開始によって完成された経緯があります。

それはケプラーの「惑星の楕円軌道の発見（従来円軌道の否定）」、そこから「音楽的比率」と「惑星の運行の間」の「<sup>しょうおう</sup>照應関係」の<sup>かがく</sup>科学的証明がなければ不可能でした。そこからクストーがケプラーが発見した惑星軌道の速度を「音」に置き換えたのです。

星信仰の復活に關係する「惑星音叉」は、クストーが 1978 年に発見した太陽系の<sup>てんたい</sup>天體の様々な周波数を音叉にしました。クストーはスイスの<sup>すうがくしゃ</sup>数學者で音楽學者の<sup>がくしゃ</sup>「ハンス・カイザー」の研究に基づいて、惑星の<sup>こうてん</sup>公轉周期に基づいて惑星の周波数を計算する公式を開発しました。つまり、<sup>てんたい</sup>天體の<sup>こうてん</sup>公轉周期を可聴域の周波数に換算したのです。これが、地球人類救済計画のもうひとつのテーマ、「星信仰の復活」の具現化に繋がります。





靈的世界で高級靈と呼ばれる地上世界の存在は沢山存在しますが、「アインシュタイン」が靈界の<sup>かがくしゃ</sup>科学者グループのリーダーであり、その指揮下にピタゴラスがいます。そして、星信仰はピタゴラス派と呼ばれる系譜が紡いできた歴史の結實なのです。

ケプラーは、16 世紀に<sup>かがく</sup>科学が合理化という名の「物質中心主義」の一途を辿り、宗教の意義が失われ、宗教と<sup>かがく</sup>科学の溝が決定的になる時代の岐路にいた人物です。ケプラーは、唯物思想に染まる現代地球文化に警鐘を鳴らし、なんとか靈的世界との繋がりを維持させた人間です。ケプラーは、多くの自然法則と<sup>てんたい</sup>天體の運行を律する法則を発見し、<sup>たいれい</sup>大靈のことを解き明かそうとしました。

そして、ピタゴラス、プラトン、ケプラー、カイザー、クストーと<sup>れんめん</sup>連綿と紡がれて天球の音楽が完成するピースが揃ったのです。そして、星信仰の復活の最後のピースが「奇經八脈」の叡智の復活になり、すべてのピースが揃った現代、2021 年にイエスの地上再臨によって靈的新時代の到来を迎えました。

この靈的事實をどう捉えるのかは皆さん次第です

## 人類史上最大の靈的新時代の到来

音叉によるセルフヒーリングは、クストーが 1978 年に発見した太陽系の天體の様々な周波数を音叉にしたことが大きな轉換期になりました。それを更に進化させたのがアメリカのニューメキシコ州に本部のある「acutonics統合醫學研究所」です。

Acutonics統合醫學研究所の設立は 1998 年です。そこではクストーの成果に留まらず、東洋醫學と西洋醫學の融合をしました。宇宙の音程、奇經八脈、十二經絡、チャクラ思想をベースに、古代より東洋醫學は「東洋“精神”醫學」だったことを踏まえ、見事に科學と宗教の統合を成し遂げました。

21 世紀の現代、クストーの功績により天球の音樂を聴き、そして肉體と五感で體感できる地上世界最高峰の「ヒーリングツール」と「自己治療の手法」が誕生しました。靈的眞理と音叉によるセルフヒーリングが正しく人々に傳われれば、それは人類への希望の光となるでしょう。

それは音叉というよりも、「天球の音樂」という概念が最重要だということを忘れてはなりません。音叉が凄いのではなく、大靈の自然法則である星々の運行を、肉體に、五感に、地球人類の誰しもが受け取れる時代に突入したことが凄いのです。

シルバーバーチは心霊治療を「靈的眞理普及」のための重大な仕事であると示唆しており、これは嚴密には「自己治療」についてを述べております。「星信仰の復活」とは結論から言えば自己治療のこと、シルバーバーチのいう「心霊治療」のことを述べています。

スピリチュアリズムの目指す靈的新時代は、「靈的眞理の普及」によって果たされますが、裏テーマと言うべき内容は「天球の音樂」なのです。



(質問)——これからは心霊治療<sup>ヒーリング</sup>がもっとも重大な分野となるように計画されているのでしょうか？

迷うことなく“そうです”と申し上げます。これからは、病気に苦しむ人々の治療の分野に靈力を顯現させていく計画が用意されています。病氣や障害のために人生が<sup>わび</sup>侘しく、陰うつで、絶望的にさえ思っている人々に、靈的な治癒エネルギーが存在することを証明してあげるのです。

靈力——生命力そのものであり、数多くの治療家を通して注入される無限のエネルギーは、病氣や障害によって痛めつけられ苦しめられている<sup>しんたい</sup>身體に、新たなエネルギーを注ぎ込んで活気づけ、いかに疑り深い人間でも、地上の用語では説明できない力が存在することを認めざるを得なくしてしまいます。

皆さんが生きておられる今の時代にぜひ必要だからこそ、そう計画されているのです。

『シルバーバーチの靈訓 靈的新時代の到来』 p.224

これから、地上世界に正しく自己治療<sup>セルフヒーリング</sup>の概念が行き渡ることが大切であり、大靈<sup>たいれい</sup>の自然法則に従っていれば病氣も異常も発生しないことを悟る人間が段々と増えていくでしょう。<sup>にくたい</sup>肉體に異常が生じるのは自然法則に反した生き方をしているからです。

それは、「靈」と「心（※靈<sup>EXA PIECO</sup>の心と肉<sup>D I K A G</sup>の心）」と「身體（※靈體<sup>しんたい</sup>と肉體<sup>れいたい</sup>）」の調和が乱れていることを意味します。そして、靈<sup>EXA PIECO</sup>の心と肉<sup>D I K A G</sup>の心を繋いでいるものが「精神」であり、精神と星は連動関係にあります。

星とは精神<sup>またた</sup>の瞬<sup>きらめ</sup>きの煌<sup>EXA PIECO</sup>めきのこと、靈<sup>D I K A G</sup>の心と肉の心を繋ぐものなのです

## 第二章

### 失われし古代の叡智、奇經八脈

原初のプレリュードと宇宙のオクターブ

星々の叡智が地上世界に甦り、地球人類は  
靈的新時代を迎える



## 天球の音楽と奇經八脈の復活による星信仰の復活



奇經八脈の叡智の復活は、天球の音楽の追窮の最後の課題でした。近代の地球文化になる前に奇經八脈を研究し、著書に残した最後の人物は李時珍<sup>りじちん</sup>です。

中国<sup>ちゅうごく</sup>古代四大名醫<sup>めいい</sup>でも、扁鵲<sup>へんじゃく</sup>、張機<sup>ちようき</sup>、華佗<sup>かだ</sup>、李時珍<sup>りじちん</sup>として名を連ねている人物であり、李時珍<sup>りじちん</sup>（1518 年～1593 年）は当時、西洋のレオナルド・ダ・ヴィンチに匹敵する有名な<sup>いがくしゃ</sup>醫學者でした。

中国<sup>ちゅうごく</sup>本草學<sup>ほんそうがく</sup>の集大成とも呼ぶべき『本草綱目』<sup>ほんそうこうもく</sup>や、奇經や脈診の解説書である『瀕湖脈學』<sup>ひんこみやくがく</sup>、『奇經八脈考』<sup>ちゅういがく</sup>を著しており、中醫學<sup>ちゅういがく</sup>を發展させた人物の一人であるのは間違いありません。その李時珍<sup>りじちん</sup>は奇經八脈について、このように述べています。

『奇經を用いぬ醫者は中醫學<sup>ちゅういがく</sup>の究極の奥義を眞に實踐しているとはいえない』と当時、李時珍<sup>りじちん</sup>が語ったと記されている。

~Leon Hammer, MD

李時珍<sup>りじちん</sup>は『奇經八脈考』に多くの奇經八脈に関するヒントを残しました。しかし、74 歳の時、自宅の近所を散歩中、同業の<sup>いし</sup>醫師らに暗殺され、不完全な形で後世に奇經八脈の情報を残すに留まり、奇經八脈の全貌が判明するのが 21 世紀まで持ち越される結果になりました。

李時珍<sup>りじちん</sup>は、その著書である「奇經八脈考」において、「八脈散在群書者、略而不愁」（奇經八脈についての記述は、多数の本に散在しているが、いずれも簡略であって詳細に述べているものはない）と述べています。

この記述からも分かるように、昔から奇經八脈に関する文献は簡略な記載しかありません。そのため、現代においても奇經八脈に対する論文や著作はあまり見かけません。この奇經八脈は歴史から抹消されてしまった學問であり、星信仰の復活の最後の關門でした。

そのため、東洋醫<sup>いがく</sup>學に携わり、經絡や經穴を學んでいる方の大半が、臨床上は正經<sup>せいけい</sup>十二經絡による施術で十分だと考えており、奇經八脈について本氣で追窮している方は殆どいないのが現状です。これは即ち、東洋醫<sup>いがく</sup>學において一番重要な情報が抜け落ちていることを表しています。

奇經八脈は別名「北斗八星」であり、「北極星」や「北斗七星」などを尊ぶ「道教」の思想が反映されています。星信仰の復活とは「天球の音楽」と「奇經八脈」という失われた叡智の復活のことです。

星信仰の復活とは、「奇經八脈と音叉ヒーリングの融合」により可能になります。これらを復活させたのが「Acutonics<sup>アキュトニクス</sup>統合醫<sup>いがく</sup>學研究所」になります。そして、それを「自己治療<sup>セルフヒーリング</sup>」の次元まで高め、地球人類救済計画の一環として普及しているのが当スクールになります。

あくまでも心<sup>ヒーリング</sup>靈治療は「自己治療<sup>セルフヒーリング</sup>」の實踐と普及が前提であり、ヒーラーを育成させるためではないからです。そもそも、一部の特別な人間しか扱えない状態では、地球人類を正しく靈的向上させるのは不可能です。これらが「靈的真理の普及」と連動して正しく地球人類に<sup>つた</sup>傳わることが大切です。

そして一番大切なことは、イエス主導の地球人類救済計画であるスピリチュアリズム運動を通して、奇經八脈の叡智と音叉ヒーリングの叡智が地上世界に復活した事実です。これは、ヒーリングが特別なものではなくなる時代の到來を意味しています。



## スピリチュアリズムが目指す新しい世界のために必要なもの



聖徳太子コードという著書の中で、聖徳太子が眞に成したかったことは2つあると示唆されています。

### 「宗教の統合」と「星信仰の復活」

この2つは、2021年4月のイエス再臨のために必要な準備であり、聖徳太子はイエスの指示に従って「未前記」と「未来記」という予言書を残しています。

宗教の統合とは、イエス主導の下に、地上の宗教を靈界の宗教に入れ替えることを意味しております。

聖徳太子はイエス再臨のための準備として靈界から派遣された存在の一人だったということです。宗教の統合の意味とは、イエスの教えである『シルバーバーチの靈訓』と『スピリチュアリズムの思想體系』<sup>たいけい</sup>による人生のガイドラインであり、その最先端を「スピリチュアリズム普及會」<sup>ふきゅうかい</sup>の「讀書會」<sup>どくしょかい</sup>が行っています。

イエスの教えは、<sup>ぐたいてき</sup>具體的には、「親（父）なる神とその<sup>あい</sup>神意」「神の<sup>あい</sup>神意に倣った利他、奉仕（隣人への<sup>あい</sup>神意・人類への<sup>あい</sup>神意）の實踐」「物質にとらわれない生き方」「形式的・外面的でなく内面からの素直な信仰」「口先だけでなく實踐のともなった信仰」、こうした内容から成り立っています。

地球の靈的世界は、こうしたイエスの教えを信仰實踐する宗教であり、宗教の本質とは「人の役に立つこと」です。その人の役に立つ、これは何よりも「靈性の進化」を最優先させるのが靈界の宗教なのです。

霊性の進化、これは別な表現をするならば「有機的<sup>にくたい</sup>肉體の再構成（DNA/RNA を新しい次元の細胞に入れ替える）」による「霊的アップグレード」を意味します。ここで情報を一旦整理します。

スピリチュアリズムが目指す新しい世界のために必要なもの		
	地球人類救済計画のキーワード	補足事項
①	イエスの地上再臨	イエス主導の地球人類救済計画の最大の鍵
②	シルバーバーチの霊訓	イエスの教えを先に地上世界に示す必要があった
③	スピリチュアリズムの思想 <sup>たいけい</sup> 體系	イエスの教えを地上世界で整理整頓し、 <sup>たいけいか</sup> 體系化した叡智
④	天球の音楽	ピタゴラスから始まった別ベクトルの計画
⑤	惑星音叉	クストーで完成した天球の音楽の具現化
⑥	ソルフエジオ音叉	レオナルド博士が提唱した、もうひとつの天球の音楽
⑦	奇經八脈、仙骨八仙洞	失われた古代の叡智、 <sup>てんたい</sup> 天體と <sup>じんたい</sup> 人體を繋ぐ最大の鍵
⑧	<sup>せいけい</sup> 正經十二經絡	東洋“精神” <sup>いがく</sup> 醫學として、まだ微かに残された叡智
⑨	波動の法則（足立育朗）	周波数に関する正確な情報、もうひとつの最大の鍵

『シルバーバーチの霊訓』と『スピリチュアリズムの思想<sup>たいけい</sup>體系』は、「スピリチュアリズム普及<sup>ふきゅうかい</sup>會」の「讀書<sup>どくしょかい</sup>會」が行っているので本テキストでは情報を省略しますが、あくまでも霊的真理の普及が地球人類救済計画の最優先事項です。

そして、本テキストでは別ベクトルの計画、「天球の音楽」による「生命<sup>いのち</sup>の調律」について語っています。それは、惑星音叉、ソルフエジオ音叉、奇經八脈、仙骨八仙洞、<sup>せいけい</sup>正經十二經絡、波動の法則、すべての情報が必要であり、これをすべて網羅した音叉のスクールは現時点、当スクールしか存在しません。

**星信仰の復活は、靈界からの援助により完成した地上世界最先端の叡智です**

## 奇經八脈の全貌の解明に必要なだった情報

そもそも、なぜ奇經八脈は歴史から抹消されてしまったのか？どのような役割が奇經八脈にはあったのか？十二經絡と何が違うのか？そこが最重要ポイントですが、結論から述べるとこのようになります。

2 大脈	管理しているもの	反映される臓器、器官	別名
奇經八脈	EXA PIECO 靈の心、靈體、靈體オーラ	腎臓 心臓脳	ミラー オブ ソウル Mirror of soul 本質を映し出す鏡
十二經絡	D I K A G 肉の心、肉體、肉體オーラ	脾臓 大脳	リアル オブ ソウル Real of soul 現実を映し出す鏡

「<sup>EXA PIECO</sup>靈の心」の別名は「魂」、「ソウル」ですが、奇經八脈は「<sup>Mirror of soul</sup>魂を映し出す鏡」と呼ばれており、最も「<sup>靈</sup>FUNEKON」という本質に近いものです。地上世界で最も「スピリット・ヒーリング」に近いことが可能になるのが奇經八脈への刺激となります。

奇經八脈の完全なる解明には『<sup>いがく</sup>タオ人間鑿學』という著書が鍵でした。仙骨八仙洞が宇宙を司る8つの力である「先天八卦」の形をしており、奇經八脈も先天八卦と連動していることが分かったことが奇經八脈の全貌の解明に繋がりました。

そして「奇經八脈」と<sup>たいおう</sup>対応しているものは「仙骨八仙洞」であり、仙骨八仙洞と奇經八脈はセットになります。どちらも失われた叡智であり、仙骨の8つの穴は「<sup>しょうおう</sup>北斗八星」と<sup>しょうおう</sup>照應関係にあると『<sup>いがく</sup>タオ人間鑿學』にはっきりと記載されています。

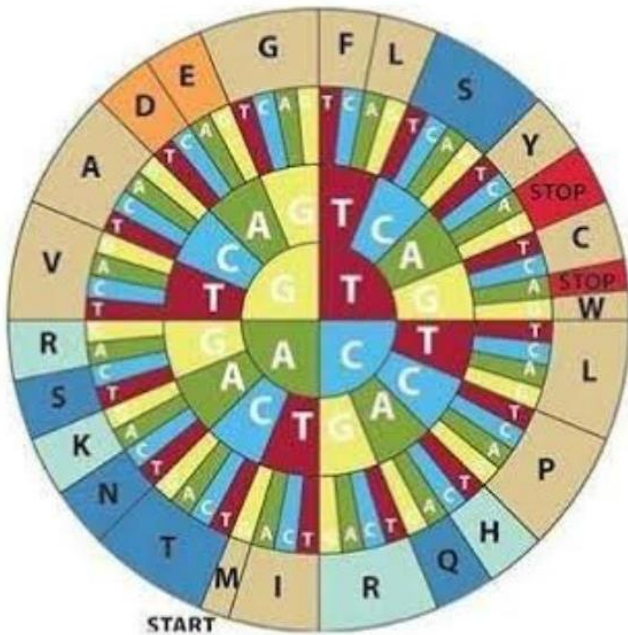
奇經八脈、仙骨八仙洞が「<sup>しょうおう</sup>北斗八星」と<sup>しょうおう</sup>照應関係にある事実が、星信仰の復活の最後の鍵だったのです。どれかひとつのピースが欠けても全貌の解明には至らなかったでしょう。

## 八卦と奇經八脈

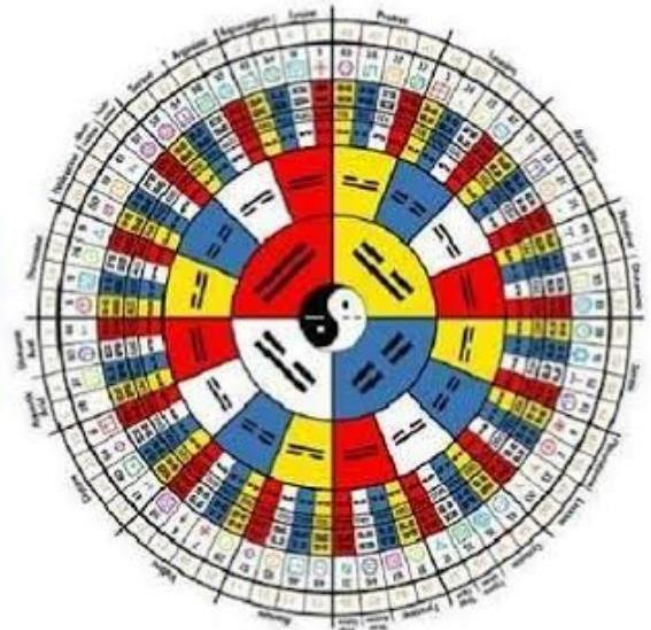
奇經八脈	八卦の圖	自然界	八卦の意味
とくみやく 督 脈  こうけい しんみやく 後谿—申 脈	 乾 けん	天	光と影の表れ方
にんみやく 任 脈  れっけつ しょうかい 列缺—照 海	 坤 こん	地	なぜ、あいてるか？ 女性性、子宮
しょうみやく 衝 脈  こうそん ないかん 公孫—内關	 震 しん	雷	男性性と女性性の組み合わせ
たいみやく 帶 脈  あしりんきゅう がいかん 足臨泣—外關	 兌 だ	澤	結ぶ、つなげる、統合させる
ようきょうみやく 陽 蹻 脈  しんみやく こうけい 申 脈—後谿	 艮 こん	山	男性性と女性性
いんきょうみやく 陰 蹻 脈  しょうかい れっけつ 照 海—列缺	 離 り	火	女性性が男性性の中に保たれている
いんいみやく 陰 維 脈  ないかん こうけい 内關—後谿	 坎 かん	水	因果をつなげる、すべての陰經をつなげる
よういみやく 陽 維 脈  がいかん あしりんきゅう 外關—足臨泣	 巽 そん	風	すべての陽經をつなげる



# COINCIDENCE

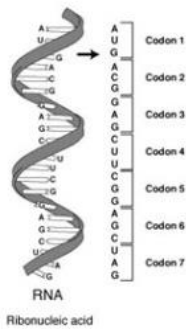


DNA codon wheel

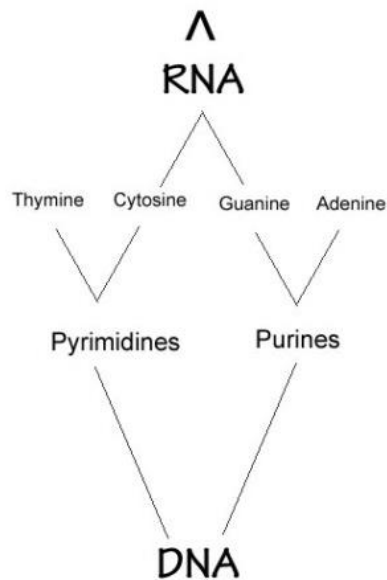


ANCIENT CHINESE  
ASTROLOGY CHART

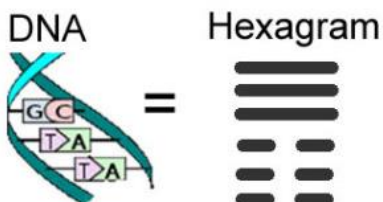
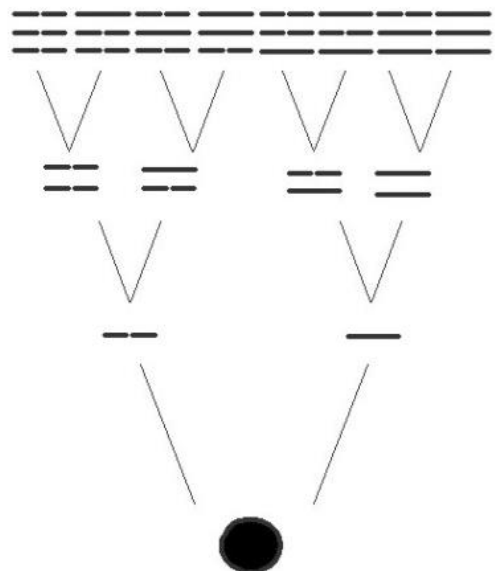
RNA > Codons



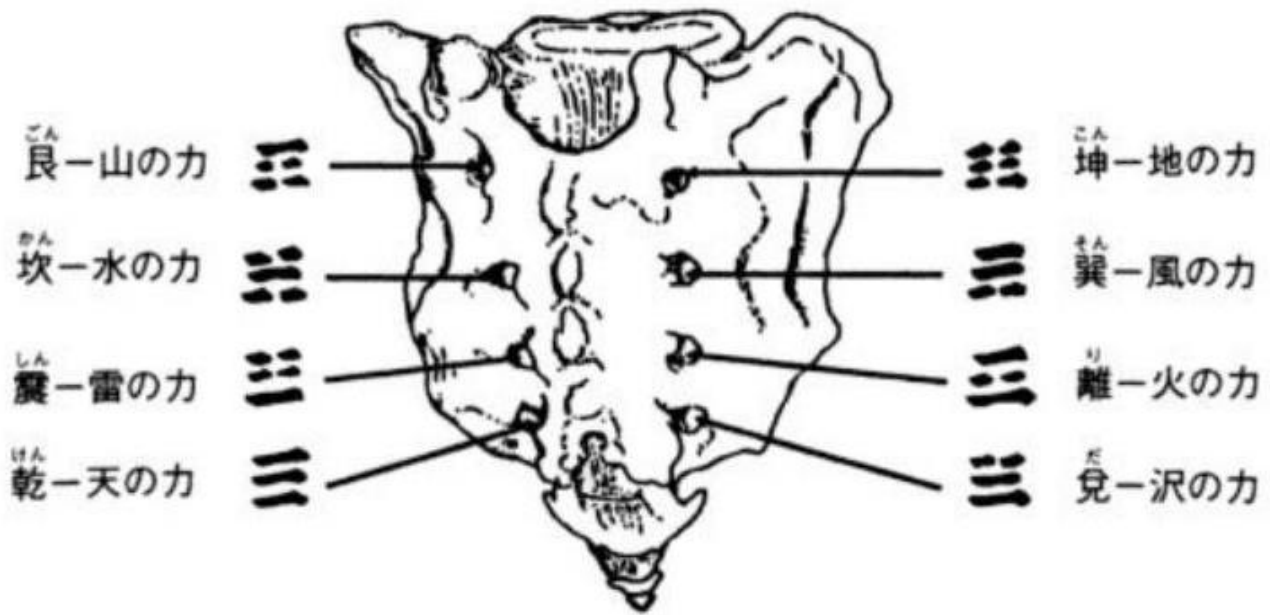
64 Codons



64 Hexagrams



そして「先天八卦」と「<sup>コードン</sup>遺傳暗号」との相關關係の解明も大きな後押しになりました



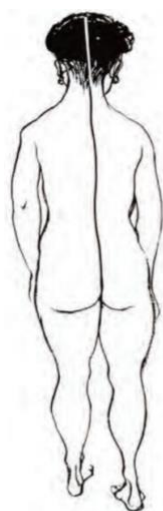
生命の暗号を「遺傳子<sup>いでんし</sup>」、「DNA/RNA」と呼びますが、これは「神の設計圖」、「生命の設計圖」であり、こうした遺傳子情報<sup>いでんし</sup>にアクセスするのが奇經八脈です。それは地上に誕生する前に、どのように生きるのかを決めてきた「人生の青写真<sup>ブループリント</sup>」にアクセスするという意味でもあります。

また、奇經八脈は「DNA を進化させる」ことが可能です。破壊と創造はセットであり、破壊を起こすのが「仙骨八仙洞」であり、創造を起こすのが「奇經八脈」です。「闇」と「光<sup>ひかり</sup>」はセットであり、「闇とは光<sup>ひかり</sup>を生む源泉」であり、「光<sup>ひかり</sup>とは闇の住人」です。

靈的世界と地上世界、この関係性に似ているかもしれません。仙骨八仙洞はスピリットを天に引き上げる役割に対し、奇經八脈はスピリットを地上に具現化する役割です。なので、今の現状を破壊し、新しい世界の創造のためには2つとも必要です。

星信仰の復活の最大最後の關門であった奇經八脈と仙骨八仙洞、これは先天八卦と遺傳暗号<sup>コードン</sup>の情報により解明されるに至りました。「八卦」と「RNA」の圖が一緒なのは、天體<sup>てんたい</sup>と人體<sup>じんたい</sup>の照應<sup>しょうおう</sup>關係の証明であり、これは現代科學<sup>かがく</sup>の進歩による功績です。

# 音叉によるセルフヒーリングテキスト入門編 前編（理論編）



督脈 (Du Mai/Governing Vessel)

別名: 陽経の海

ハーモニクキーノート: 始める



督: 物事の始まり

八卦: 乾 (Ch'ien)/天/南



六十四卦: 1. 乾 (Ch'ien) — 物事の始まり



オープニングポイント: SI 3 後谿 (Back Ravine)



バランスポイント: UB 62 申脈 (Extending Vessel)



任脈 (Ren Mai/Conception Vessel)

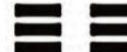
別名: 陰経の海

ハーモニクキーノート: 受け入れる、反応する



任: 受容

八卦: 坤 (K'un)/地/北



六十四卦: 2. 坤 (K'un) — 受容



オープニングポイント: LU 7 列缺 (Broken Sequence)



バランスポイント: KID 6 照海 (Shining Sea)



帶脈 (Dai Mai, Girdle Vessel)

別名: 横方向に流れる経脈 (Horizontal vessel)

ハーモニクキーノート: つなげる、喜ばしい



帯: 喜ぶ

八卦: 兌 (Tui)/沢/南東



六十四卦: 58. 兌 (Tui) — 喜ぶ



オープニングポイント: GB 41 足臨泣 (Near to Tears)



バランスポイント: SJ 5 外関 (Outer Gate)



衝脈 (Chong Mai, Penetrating Vessel)

別名: 血海、十二経の海

ハーモニクキーノート: 震 わせる、衝撃を与える、すべてを包み込む



衝: (傷が残るほどの) ショックトラウマ

八卦: 震 (Chen)/雷/北東



六十四卦: 51. 震 (Chen) — (傷が残るほどの) ショックトラウマ



オープニングポイント: SP 4 公孫 (Grandparents/Grandchild)



バランスポイント: P 6 内関 (Inner Gate)





## スピリチュアリズムの地球人類救済計画の一翼、星信仰の復活

**陽蹻脈** (Yang Qiao Mai, Yang Heel Vessel/Yang Motility Vessel/Yang Supervising Channel)

別名: 陽蹻経の別脈  
ハーモニックキーノート: 上昇する、生命を吹き込む

艮

陽蹻: 静止  
八卦: 艮 (Ken)/山/西北  
六十四卦: 52. 艮 (Ken) — 静止

オープニングポイント: UB 62 申脈 (Extending Vessel)

バランスポイント: SI 3 後谿 (Back Ravine)

**陰蹻脈** (Yin Qiao Mai, Yin Motility Vessel/Yin Supervising Channel)

別名: 腎経の別脈  
ハーモニックキーノート: 上昇する、輝かせる、天の意志に沿う

離

陰蹻: 光  
八卦: 離 (Li)/火/東  
六十四卦: 30. 離 (Li) — 光

オープニングポイント: KID 6 照海 (Shining Sea)

バランスポイント: LU 7 列缺 (Broken Sequence)

**陽維脈** (Yang Wei Mai, Yang Linking Vessel/Yang Uniting Channel)

別名: 諸陽の会  
ハーモニックキーノート: ネットワーク化する、外側に出る

巽

陽維: 穏やかに進む  
八卦: 巽 (Sun)/風/西南  
六十四卦: 57. 巽 (Sun) — 穏やかに進む

オープニングポイント: SJ 5 外関 (Outer Gate)

バランスポイント: GB 41 足臨泣 (Near to Tears)

**陰維脈** (Yin Wei Mai, Yin Linking Vessel/Yin Uniting Channel)

別名: 諸陰の会  
ハーモニックキーノート: ネットワーク化する、内側に入る

坎

陰維: 湿潤  
八卦: 坎 (K'an)/水/西  
六十四卦: 29. 坎 (K'an) — 深部の湿潤

オープニングポイント: P 6 内関 (Inner Gate)

バランスポイント: SP 4 公孫 (Grandparents/Grandchild)



## マインド重視の生き方からハート重視の生き方へのシフト

奇經八脈の「<sup>こうえけつ</sup>交会穴」という、奇經八脈と十二經絡の交わる8つのツボ、これは<sup>EXA PIECO</sup>靈の心という魂という存在の最も奥深くにあるエッセンスが記憶されています。それは、輪廻再生という幾度もの地上への再生を経て受け継がれた記憶のことです。

奇經八脈のエネルギーの源は「腎臓」であり、十二經絡のエネルギーの源は「脾臓」です。腎臓は「先天の氣」という、生まれる前の記憶であり、脾臓は「後天の氣」という、生まれた後の記憶を管理しています。

先天の氣は奇經八脈と仙骨八仙洞によって循環し、つながり、後天の氣と融合します。しかし、現代地球文化では奇經八脈と仙骨八仙洞は封印され、<sup>たいれい</sup>大靈と<sup>ひと</sup>靈止、<sup>マクロコスモス</sup>大宇宙と<sup>ミクロコスモス</sup>小宇宙を繋いでいた靈的な8本の川の流れが途絶えてしまっています。

それにより、<sup>D I K A G</sup>顯在意識の<sup>エゴ</sup>EGHO意識、要するに<sup>D I K A G</sup>肉の心が肥大していき、地球は<sup>たいれい</sup>大靈に<sup>かんのう</sup>感應する力を損ない、内なる直観、良心、<sup>あい</sup>神意との繋がり宇宙の普遍的法則に従って行動する力が奪われました。これが、現代地球文化のあらゆる問題に繋がってしまっているのです。

イエスの教えの眞髓は「<sup>靈</sup>FUNEKON優位、<sup>靈の心</sup>EXA PIECO優位の努力」と「<sup>デヴィック</sup>DEVIKの實踐」です。それによる「靈性の進化」こそが幸福であり、自分で自分を救済する考え方です。それには<sup>靈</sup>FUNEKON優位による利他、奉仕の實踐が絶対条件です。

<sup>靈</sup>FUNEKON優位、<sup>靈の心</sup>EXA PIECO優位の努力のために眞の<sup>いの</sup>禱り、<sup>いのち</sup>生命の調律が存在します。それは「<sup>靈</sup>靈的眞理の學習」という方法以外だと「奇經八脈と音叉ヒーリングの融合による<sup>いのち</sup>生命の調律」という方法が<sup>靈</sup>FUNEKON優位の生き方を高める最高峰の方法論になります。

それにより創造的な源泉の世界、癒し、統合、バランスの世界への扉が開かれるのです

イギリスの詩人、画家、銅版画職人であった「ウィリアム・ブレイク（1757年～1827年）」は、人は「無垢」の状態から「経験」の状態を経て、超越した「無垢」の状態に至り、より完全な叡智の状態に回帰すると考えました。

無垢とは奇經八脈であり、経験とは十二經絡であり、超越した無垢とは奇經八脈と再び合流することを表しています。しかし地上人類は「靈の大海」、すなわち「大靈」<sup>たいれい</sup>に最も近い奇經八脈にアクセスすることが出来ないため、超越に至ることが出来ません。

地上世界で様々な経験をしても靈的に進歩することが出来ないということです。人間は年齢を重ねても靈的に進化する訳ではないということです。実際のところ、<sup>D I K A G</sup>顯在意識で知識を得れば得るほど、<sup>D I K A G</sup>顯在意識で學べば學ぶほど、調和から遠ざかる可能性が高まります。

ブレイクは<sup>たいれい</sup>大靈の自然法則、宇宙のエネルギーと個々のスピリットのエネルギーを信じてました。そして、<sup>D I K A G</sup>肉の心を脱して<sup>EXA PIECO</sup>靈の心にアクセスする方法を模索していました。要するに「<sup>マ イ ン ド</sup>顯在意識」を脱して「<sup>ハ ー ト</sup>心臓脳」にアクセスできる方法を探していたのです。

地上人類は<sup>マ イ ン ド</sup>顯在意識で理解してから行動するという習慣により、<sup>たいけん</sup>體驗をすればするほど無垢との繋がりを失っていきます。地上人類は<sup>たいけん</sup>體驗するだけで、<sup>たいれい</sup>靈的眞理、<sup>たいれい</sup>大靈の自然法則を學んでないのです。

わたし達は自然法則を學び、調和を實踐し、<sup>あい</sup>神意を成就することで靈性を進化させるために生まれてきたのに、それを<sup>D I K A G</sup>顯在意識では完全に忘れています。しかし、<sup>EXA PIECO</sup>心臓脳は生まれる前に決めてきた人生を自覺しており、<sup>F I K</sup>潜在意識では再び思い出されるのを待っています。

奇經八脈の<sup>こうえけつ</sup>交会穴および仙骨八仙洞に「天球の音楽」を取り入れると、<sup>EXA PIECO</sup>靈の心と<sup>しんたい</sup>身體は再び宇宙の音を思い出し始め、「無垢」との「合流」が促されます。その結果、<sup>マ イ ン ド</sup>顯在意識でこうなりたいたいと思込んでいた自分から離れ、<sup>EXA PIECO</sup>「靈の心」の自分へと人生がシフトしていきます。

## 奇經八脈のエネルギー・システムの表

奇經八脈	チャクラ	エレメント	OP	BP	ソルフエジオ	惑星の周波数
しょうみやく 衝 脈	8	ヴォイド 虚空	こうそん 公孫	ないかん 内關	174Hz、285Hz	ニビル
とくみやく 督 脈	7	コスモ 天空	こうけい 後谿	しんみやく 申 脈	963Hz	ウラナス 天王星
ようきょうみやく 陽 蹻 脈	6	メタル 金	しんみやく 申 脈	こうけい 後谿	852Hz	ネプチューン 海王星
よういみやく 陽維脈	5	アース 土	がいかん 外關	あしりんきゅう 足臨泣	741Hz	マーキュリー 水 星
いんきょうみやく 陰 蹻 脈	4	ファイア 火	しょうかい 照海	れっけつ 列缺	639Hz	サン 太陽、セドナ
たいみやく 帶 脈	3	ウッド 木	あしりんきゅう 足臨泣	がいかん 外關	528Hz	マーズ 火星、木星
にんみやく 任 脈	2	ガイア 大地	れっけつ 列缺	しょうかい 照海	417Hz	ブルー 冥王星、金星
いんいみやく 陰維脈	1	ウォーター 水	ないかん 内關	こうそん 公孫	396Hz	サターン 土星

## 基本的な奇經八脈の選定基準

奇經八脈	OP	BP	奇經八脈を使用する意味
とくみやく 督 脈 にんみやく 任 脈	こうけい 後谿 れっけつ 列缺	しんみやく 申 脈 しょうかい 照海	オーソドックスな奇經八脈。幽體へのアプローチを通し て靈體、肉體の双方のバランスを回復させる
いんきょうみやく 陰 蹻 脈 ようきょうみやく 陽 蹻 脈	しんみやく 申 脈 しょうかい 照海	こうけい 後谿 れっけつ 列缺	左右の靈體、肉體のアンバランスに使用し、左右のズレ から生じる違和感を消し去る。また、DNA/RNA の再編成 の時期にも用いる
いんいみやく 陰維脈 よういみやく 陽維脈	ないかん 内關 がいかん 外關	こうそん 公孫 あしりんきゅう 足臨泣	自分自身との対話、他者との対話、コミュニケーション 全般の問題に用いる
たいみやく 帶 脈 しょうみやく 衝 脈	あしりんきゅう 足臨泣 こうそん 公孫	がいかん 外關 ないかん 内關	前世、胎内記憶、インナーチャイルドなど、スピリチュ アル系全般の、魂や心の傷の問題に用いる

奇經八脈、十二經絡、チャクラ、惑星音叉、ソルフェジオ音叉の関係性はすべて解析しました。すべてが「連繋関係」にあります。この連繋関係を知り、日常生活に取り入れることが FUNEKON<sup>靈</sup>優位、EXA PIECO<sup>靈の心</sup>優位の努力、音叉による生命<sup>いのち</sup>の調律になります。

陰陽を統括するもの、「FUNEKON」 <sup>靈</sup>		
2 大脈	奇經八脈	十二經絡
隠された祕密	8 つの原型細胞	12 螺旋 DNA
管理する部位	EXA PIECO <sup>靈の心</sup> 、 <sup>れいたい</sup> 靈體、 <sup>れいたい</sup> 靈體オーラ	D I K A G <sup>にくたい</sup> 、 <sup>にくたい</sup> 肉體、 <sup>にくたい</sup> 肉體オーラ
管理する臓器	腎臓	脾臓
管理する器官	心臓脳	大脳
管理する記憶	生まれる前の記憶	生まれた後の記憶
影響する周波数	ソルフェジオ音叉	惑星音叉
フィボナッチ	ウォーター・フィボナッチ音叉	オーム・フィボナッチ音叉

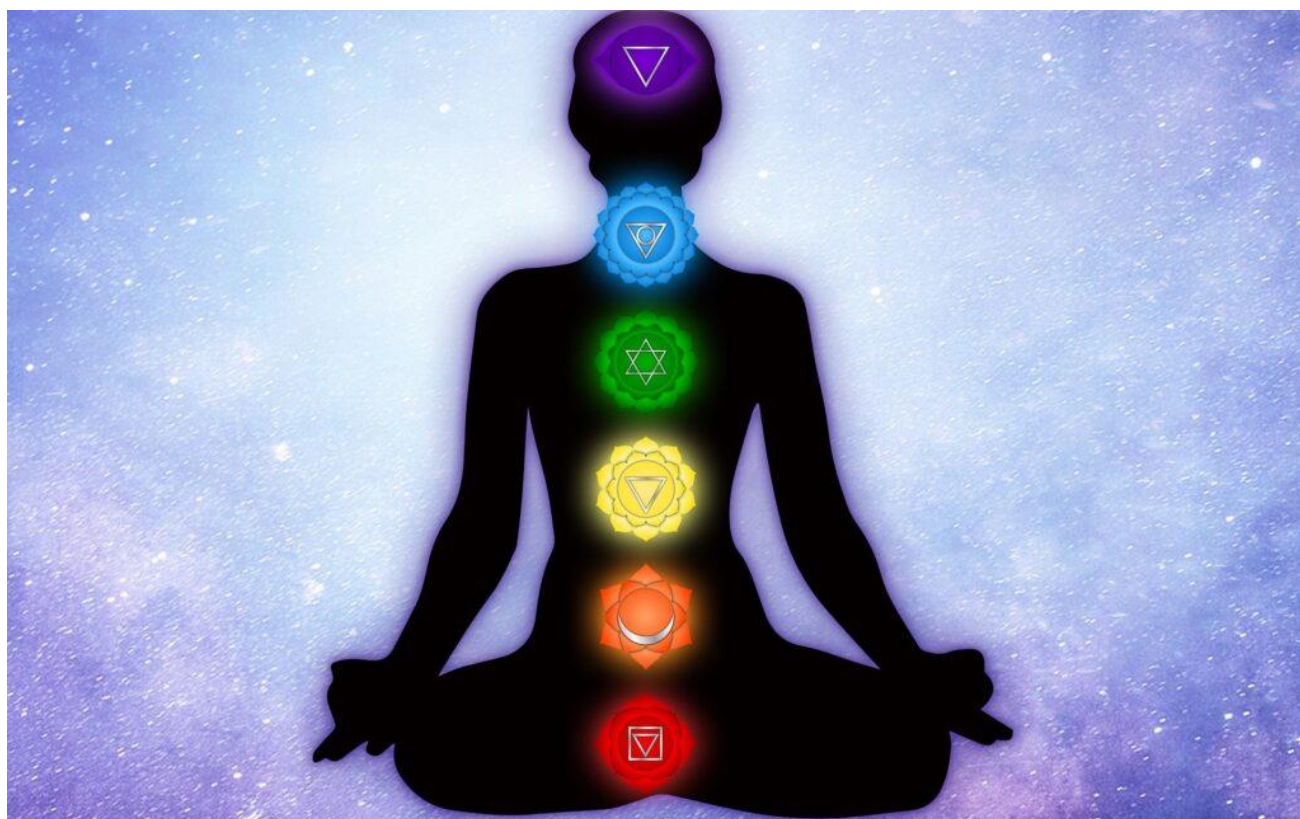
わたし達の<sup>EXA PIECO</sup>靈の心、<sup>れいたい</sup>靈體、そして<sup>しんたい</sup>身體をコントロールしている<sup>F I K</sup>潜在意識は、奇經八脈のエネルギーの流れを覚えており、<sup>F I K</sup>潜在意識の深い部分で<sup>どうけい</sup>憧憬を抱いています。その流れが記憶されているのが、十二經絡の<sup>げんけつ</sup>「原穴」です。

奇經八脈と十二經絡は「スピリットと物質を繋げる<sup>いっつい</sup>一対の関係」であり、切り離して考えるのではなく、スピリットと物質、靈的世界と地上世界を再び統合するための「道」と捉えるのが正解です。

奇經八脈は「FUNEKON」に最も近いものであり、「原型細胞」という不死の細胞が眠っており、そこから原初の DNA の 12 本の螺旋構造を映し出す 12 本の DNA の流れが進化して<sup>せいけい</sup>正經十二經絡と呼ばれるエネルギーの通り道となりました。



## 奇經八脈は 12 螺旋 DNA に DNA を進化させる鍵



霊<sup>れいたい</sup>體と肉<sup>にくたい</sup>體との間には、2つの異質の身<sup>しんたい</sup>體を結びつける接着剤のような部分があります。この部分を「幽<sup>ゆうたい</sup>體」、「結<sup>けつごうたい</sup>合<sup>ごう</sup>體」、「中<sup>ちゅうかんたい</sup>間<sup>かん</sup>體」と呼びます。幽<sup>ゆうたい</sup>體と呼ばれる結<sup>けつごうたい</sup>合<sup>ごう</sup>體は「半物質・半幽質」によって形成され、その材質の特殊性によって2つの異質の身<sup>しんたい</sup>體を結びつけ、両者の間のエネルギーの交換を可能にしています。この結合部の別名を「チャクラ」と言います。

チャクラは、「シルバーコード」と「脊<sup>せき</sup>髓<sup>ずい</sup>」を通して霊<sup>れいたい</sup>體と肉<sup>にくたい</sup>體を繋いでおり、脊<sup>せき</sup>髓<sup>ずい</sup>を通して「DNA」のように「螺旋<sup>らせん</sup>状」に霊<sup>れいたい</sup>體と肉<sup>にくたい</sup>體を結んでいます。ヒンドウー教<sup>でんとう</sup>の傳統では、このカラダを流れる天のエネルギーを「クンダリーニ」と呼びます。

この霊<sup>れいたい</sup>體と肉<sup>にくたい</sup>體を繋いでいるシステムが「髓<sup>ずい</sup>液<sup>えき</sup>」であり、髓<sup>ずい</sup>液<sup>えき</sup>を正常に働かせるのが「ミネラル」であり、ミネラルにより「自律神<sup>しん</sup>經<sup>けい</sup>」を通して霊<sup>れいたい</sup>體と肉<sup>にくたい</sup>體を繋ぎます。これが人間の身<sup>しんたい</sup>體構造の祕密の一部です。

人間を構成する本質と、ネットワーク関係			
人間の <sup>しんたい</sup> 身体構成	<sup>れいたい</sup> 霊體	<sup>ゆうたい</sup> 幽體	<sup>にくたい</sup> 肉體
管理する器官	奇經八脈	チャクラ	十二經絡
分泌液	リンパ液	髄液	血液
分泌液の作用	<sup>れいたい</sup> 霊體オーラ	自律神経	<sup>にくたい</sup> 肉體オーラ
エネルギーの触媒	ホルモン	ミネラル	酵素
健康との関連	細胞、睡眠、休息	骨、食事、水	筋肉、運動、散歩

これらの上位が「<sup>霊</sup>FUNEKON」と「心（<sup>EXA PIECO</sup>霊の心と<sup>D I K A G</sup>肉の心）」です。要するに、霊と心が一番大切なものです。そして「魂」とは「<sup>EXA PIECO</sup>霊の心」のことであり、わたし達地上世界の人間は霊、魂に沿った生き方をする必要があります。

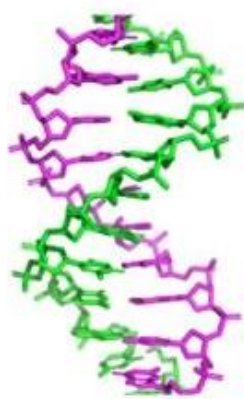
しかし、地上世界の人間は<sup>D I K A G</sup>顯在意識の<sup>エゴ</sup>EGHO意識に支配されています。これを「<sup>D I K A G</sup>肉の心」と呼びます。星信仰の復活とは、再び霊、魂の道に向かうための叡智を地上世界に復活させることです。

心を繋ぐのが「精神」であり、人間は「<sup>霊</sup>FUNEKON」という本質を見ず、心と心を繋ぐ精神を失うことでの心のアンバランスにより<sup>D I K A G</sup>顯在意識の<sup>エゴ</sup>EGHO増大、要するに利己主義、物質中心主義によりあらゆる地上世界の問題が生まれています。

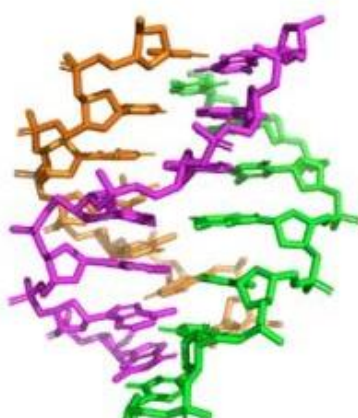
現代地球文化では、<sup>EXA PIECO</sup>霊の心と<sup>D I K A G</sup>肉の心が分離しているのが当たり前の状態になっているからです。奇經八脈、仙骨八仙洞により入り口が開くと、ハート、細胞、骨、筋肉に蓄積している記憶が開放されます。

8本の川である奇經八脈に音が溢れ、その音は十二經絡を満たし、新たに奇經八脈と合流することで新しいパターンを形成します。それがDNAを進化させる鍵なのです。

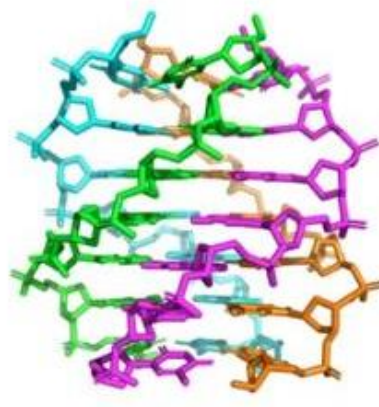
## 二重らせん



## 三重らせん



## 四重らせん



人間は、奇經八脈により「<sup>EXA PIECO</sup>靈の心、<sup>れいたい</sup>靈體、<sup>れいたい</sup>靈體オーラ」を管理、コントロールし、十二經絡により「<sup>D I K A G</sup>肉の心、<sup>にくたい</sup>肉體、<sup>にくたい</sup>肉體オーラ」を管理、コントロールしている。兩方を繋ぐのが「チャクラ」であり、人間は靈と肉を同時に備えた存在です。

生まれる前の記憶は「8つの原型細胞」が有し、そのコピーとして「12 螺旋 DNA」が存在しています

奇經八脈、仙骨八仙洞にアクセスすると「有機的<sup>にくたい</sup>肉體の再構成（DNA/RNA を新しい次元の細胞に入れ替える）」という「<sup>いでんし</sup>遺傳子の<sup>へんかん</sup>構造變換」により、二重螺旋、三重螺旋という風に DNA の進化が始まります。

奇經八脈の8つの<sup>こうえけつ</sup>交会穴は、十二經絡上にあり、それぞれがいずれかの奇經と交わっています。あらゆるものに「靈的世界」と「物質世界」がありますが、それらを繋ぐのは「8」であり「<sup>メビウス</sup>∞」です。「<sup>メビウスかいてん</sup>∞ 回轉」は宇宙の普遍的なパターンであり、すべてを繋ぐものです。

原初靈である妖精、別名「ソマチッド」は、「<sup>メビウスかいてん</sup>∞ 回轉」により活性化し、宇宙からのエネルギーを取り入れることが<sup>かがく</sup>科學で解明されています。





## 第三章

### 432Hz と 528Hz とオーム

3つの「基音」が奏でる旋律が

自己改革の前奏曲になる

始まりの音が、靈的人生をスタートさせる





## 528Hz とオームの<sup>ホームトーン</sup>基音



音叉によるセルフヒーリング導入編セットは「528Hz 倍音トライアルセット」で「528Hz（※132Hz）」が<sup>ホームトーン</sup>基音になり、音叉によるセルフヒーリング入門編セットは「オーム倍音セット」で「136.1Hz」が<sup>ホームトーン</sup>基音になります。

「528Hz 倍音トライアルセット」と「オーム倍音セット」により、「奇経八脈プロセス ver」のセルフヒーリングをすることが、「FUNEKON<sup>霊</sup>優位」の努力の一つになります。

いの<sup>霊</sup>禱りとは「FUNEKON」と「EXA PIECO<sup>霊の心</sup>」と「DIKAG<sup>肉の心</sup>」を一致させ、「FUGEHUKON<sup>大霊</sup>」と繋がるための「EXA PIECO<sup>霊の心</sup>の所作」です。

そのためには早朝に『シルバーバーチの<sup>いの</sup>禱り』を<sup>よ</sup>読み上げること、「音叉によるセルフヒーリング」を通した<sup>いの</sup>禱りで、<sup>いの</sup>禱りのレベルを強化することが理想です。

自然界は「<sup>ハーモニー</sup>調和」と「<sup>バランス</sup>均衡」で成り立っておりますが、これを音の理論に当てはめると、<sup>ホームトーン</sup>「基音」こそが「<sup>ハーモニー</sup>調和」であり、「<sup>和音</sup>和音」こそが「<sup>バランス</sup>均衡」になります。この「<sup>ハーモニー</sup>調和」と「<sup>バランス</sup>均衡」が崩れると、病氣、不快、異常というメッセージが始まるのです。

音によるヒーリングは、異なる周波数による和音や倍音を奏でることにより、<sup>こんしんしん</sup>魂心身のバランスを整え、<sup>F I K</sup>潜在意識の奥深くに隠された感情を浮かび上がらせ、<sup>へんよう</sup>成長や變容を刺激し、内なる自分自身の調和と、宇宙との繋がりをもたらします。

物質とエネルギーを繋げているのは「周波数」であり、日本語で「波動」や「振動」といわれるものになります。そして、その周波数との「<sup>レゾナンス</sup>Resonance」が「<sup>シンパシー</sup>SYMPATHY」の現象を生み出します。

「<sup>レゾナンス</sup>共鳴 (Resonance)」と同じ原理に、「<sup>シンパシー</sup>共感 (SYMPATHY)」があります。共感能力とは、「靈性の進化」に比例して拡大していきます。共感とは、共鳴し合い、まるでひとつのものであるかのように関連し合い、<sup>しょうおう</sup>照應している状態です。共感能力とは、日本語で言うならば、<sup>あい</sup>思いやりであり、神意です。

宇宙のあらゆるものは波動を發しており、人の耳に聴こえるかどうか、感じられるかどうかは別として、万物は固有の共鳴周波数を持っています。

ミクロでいえば原子核、マクロでいえば銀河や惑星も波動を放っています。それらのミクロとマクロ、宇宙と人を繋げている周波数の中心は「528Hz」になります。

528Hz は「<sup>フィボナッチ数列</sup>フィボナッチ数列」や「<sup>黄金比</sup>黄金比」とも繋がっており、生命の螺旋構造を表す美しい波長である 528Hz は、サウンドヒーリングの理論にとって外せない周波数です。528Hz が二つ以上の音（二つ～無限大 $\infty$ ）による和音や倍音を發する際、共鳴共感を生み出し、まるでひとつのものであるかのように関連し合います。



また、「オーム」も重要な周波数であり、ヒンドゥー教の宇宙論では、最初の動きによってオームという音が自然発生するまで、宇宙の胎内にあるのは闇と静寂だけであったとされています。

音叉によるセルフヒーリングで、オームはあらゆるヒーリングハーモニーを奏でるための基盤として使用されます。オームの音を聴くと、外部の騒音が気にならなくなり、内部のバランスが整います。

スピリチュアリズムを通して、地上世界は「騒音の地上世界」と呼ばれており、霊的世界は「静寂の霊的世界」と表現されておりますが、外部の騒音は高級霊にとって大敵であり、近づくことを不可能にさせます。

オームの音は、地球の1年のサイクル、「地球の公轉<sup>こうてん</sup>」のサイクルの周波数、地球の四季を通じて太陽の周りを公轉<sup>こうてん</sup>するのにかかる周期（365日）の音として計算されています。オームの音とひとつになると、地球の周期とシンクロします。



オームにまさるところなし

「There's no place like Ohm」

精神統一をなさることです。時には煩雑なこの世の喧騒を離れて魂の静寂の中へお入りになることです。静かで受身的で受容性のある心の状態こそ霊にとって最も近づき易い時です。静寂の時こそ背後霊が働きかける絶好機なのです。

片時も静寂を知らぬような魂は騒音のラッシュの中に置かれており、それが背後霊との通信を妨げ、近づくことを不可能にします。ですから、少しの間でいいのです。精神を静かに統一するよう工夫することです。すると次第に役に立つ良い考えが浮かんでくるようになります。

『シルバーバーチの靈訓（二）』 p.18

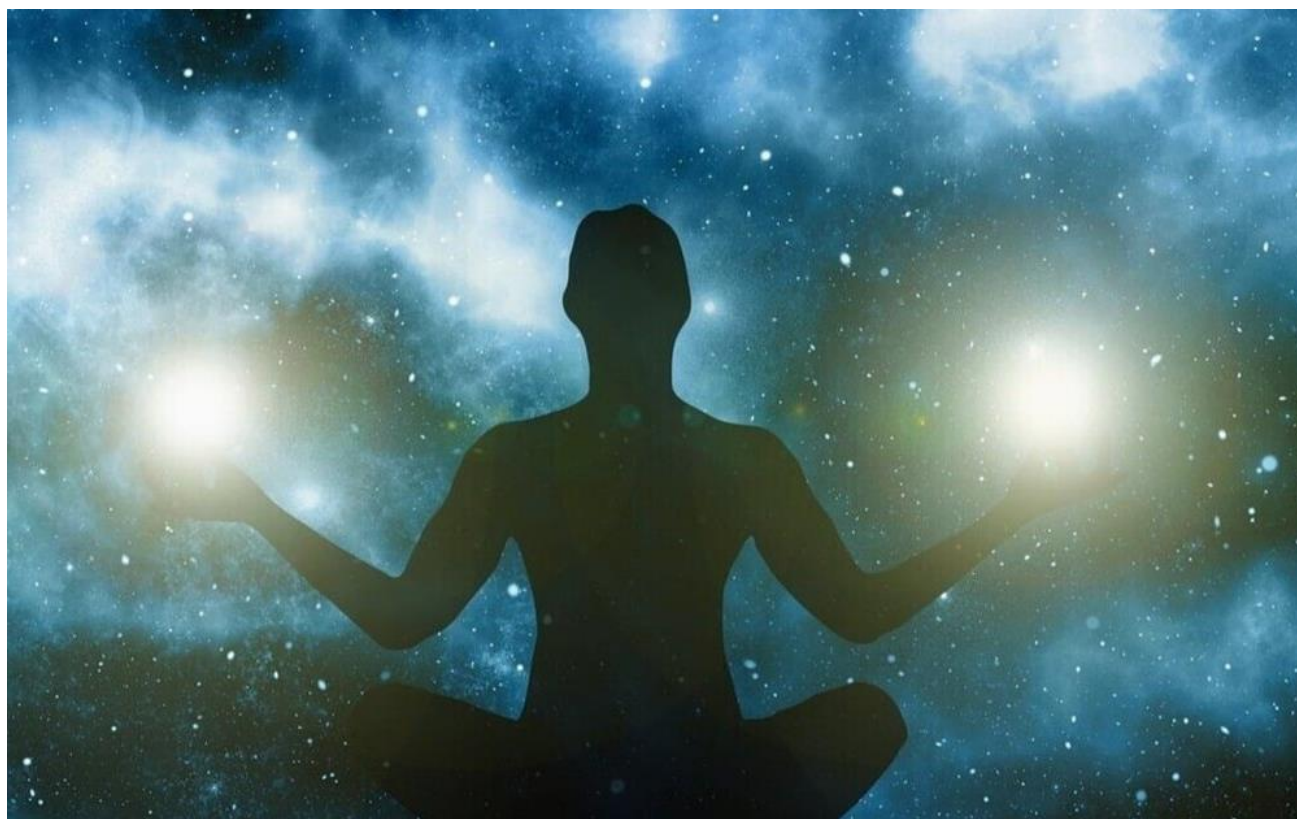
オームは、地球を、さらには宇宙を誕生せしめた「原初の<sup>バイブレーション</sup>振動」と言われており、生命の根源的なマントラであり、聖なる音です。<sup>ひかり</sup>光がすべての色を含むように、オームはすべての色を含んでいます。

古代の人々は、瞑想、<sup>いの</sup>禱りを通して靈的世界と繋がり、「直観」を通してオームの音を知りました。古代の人々は<sup>いの</sup>禱りによって靈界、他の星々、そして宇宙と繋がっていました。<sup>いの</sup>禱りは「<sup>霊</sup>FUNEKON優位」、「<sup>霊の心</sup>EXA PIECO優位」になるために必要な日常生活の實踐項目の一つであり、その<sup>いの</sup>禱りに必要な音が「オーム」だということです。

どうぶつ界も、オームの音と神祕的な繋がりを持っています。自然界に入って、鷲や鯨や狼の声を聴こうとした音楽家のポール・ウインターは、その鳴き声が「<sup>オーム</sup>アオウム」音で始まり、「<sup>オーム</sup>アオウム」音で終わることを発見しました。



### 第3の基音「128Hz」と「432Hz」



音叉によるセルフヒーリング入門編セットには「128Hz」がありますが、これは「 $\overset{\text{ド}}{C}=128\text{Hz}$ 」という音であり、 $\overset{\text{ラ}}{A}$ の音階だと「 $\overset{\text{ラ}}{A}=432\text{Hz}$ 」になります。<sup>ホームトーン</sup>基音の違いを簡潔にまとめると、以下のような違いになります。

【音叉によるセルフヒーリング導入編、入門編の <sup>ホームトーン</sup> 基音】		
第1の <sup>ホームトーン</sup> 基音	136.1Hz（地球の四季のサイクル）	<sup>D I K A G</sup> 肉の心、 <sup>にくたい</sup> 肉體に作用する
第2の <sup>ホームトーン</sup> 基音	132Hz（528Hzの2オクターブ下）	<sup>ゆうたい</sup> 幽體（靈肉兩方）に作用する
第3の <sup>ホームトーン</sup> 基音	128Hz（432Hzの音階違い）	<sup>EXA PIECO</sup> 靈の心、 <sup>れいたい</sup> 靈體に作用する

※厳密には色々な作用がありますが、敢えて<sup>ホームトーン</sup>基音の違いを明確化するために、このように違いを簡潔に説明にしていることに留意してください

128Hz は、「宇宙のリズムと一體化する 432Hz」の「音階違い」であり、區分として「432Hz」の周波数と思ってもらって構いません。128Hz はシュタイナーが言った言葉でも有名かもしれませんが。

「C=128hz (A=432hz での C 調) に基づいた音楽は、靈的自由へ人々を支援するでしょう。人間の<sup>ないじ</sup>内耳は C=128hz に基づき構築されます」      ルドルフ・シュタイナー

128Hz の倍音も非常に重要な意味を持ちますが、128Hz の 16 倍の周波数「2048Hz」は「<sup>フラワー</sup>Flower of Life」の周波数であり、128Hz の 32 倍の周波数「4096Hz」は「<sup>クリスタル チューナー</sup>CRYSTAL TUNER」の周波数になります。どちらもニューエイジ系には馴染みの深い周波数になります。

赤ちゃんが地上世界に誕生する際、「オギャー」と泣きますが、その声は 432Hz であり、この宇宙と繋がった<sup>ラ</sup>A の音、432Hz は、星々の周波数を全部受け取れるようにする周波数とも言われています。

要するに、太陽系の<sup>てんたい</sup>天體である<sup>水</sup>マーキュリー、<sup>星</sup>ヴィーナス、<sup>金</sup>マーズ、<sup>星</sup>ジュピター、<sup>火</sup>サターン、<sup>木</sup>天王星、<sup>土</sup>海王星、<sup>冥</sup>王星、<sup>星</sup>プルートなどの惑星の音を「<sup>れいたい</sup>靈體」に全部取り込めるのです。これは<sup>ド</sup>C の音である 128Hz でも理論上は同じです。

星と繋がり、星とともに生きる、宇宙の<sup>たいれい</sup>大靈の自然法則に適った生き方にシフトするための周波数が「128Hz」と「432Hz」であり、「432Hz エナジーバー」は音叉によるセルフヒーリング初級編セットに含まれます。

432Hz エナジーバーを鳴らすと、星々が共振共鳴し、<sup>しんたい</sup>身體に星のエネルギーの振動波を更に受け取れるようになり、<sup>いの</sup>禱りの靈的次元が更に高まります。

すべての<sup>ホームトーン</sup>基音<sup>たいれい</sup>を通した大靈、宇宙、靈的世界との繋がり



音叉によるセルフヒーリングは、このように3つの「<sup>ホームトーン</sup>基音」を基準に構築されています。  
敢えて表現するならば、「132Hz」は「<sup>ギャラクシー</sup>銀河」、「128Hz」は「<sup>プラネット</sup>惑星」、「136.1Hz」は「<sup>アース</sup>地球」と表現してもいいかもしれません。

これらの<sup>ホームトーン</sup>基音を通して、各音の和音や倍音を奏で、宇宙、地球の星々の<sup>バイブレーション</sup>振動<sup>じんたい</sup>を人體に取り入れると、各音の深みと情感が絡み合い、互いに響きを映し合い、単音をただ足しただけではない、<sup>たいれい</sup>靈の大海、すなわち大靈と再び融合する道がスタートします。

3つの<sup>ホームトーン</sup>基音<sup>インターバル</sup>からなる「音程」を通して、地上人類の生活は「自然法則」に適った世界へ導かれ、「自己」との関係、「他人」との関係、「<sup>たいれい</sup>靈界」との関係、「大靈」との<sup>か</sup>関係が變わり始めます。

聖なる音は、宇宙の起源、<sup>たいれい</sup>大靈と自己の靈的關係、感情的關係を表現するのに役立ちます

宇宙を管理、維持、<sup>うんえい</sup>運営する永遠不<sup>ふ</sup>變<sup>へん</sup>の自然法則は、人間ひとりひとりにも正確に働きます。  
スピリチュアリズムを通した靈<sup>しん</sup>的<sup>たい</sup>眞理では、身<sup>しん</sup>體<sup>たい</sup>が何かの影響を受けた場合、その源を辿れば大靈<sup>たいれい</sup>と宇宙に辿り着くことを教えてくれました。

身<sup>しん</sup>體<sup>たい</sup>を癒す方法を知るには、大靈<sup>たいれい</sup>と自然法則、そして「周波數」に答えを求めなければなりません。すべては「<sup>バイブレーション</sup>振動」であることをスピリチュアリズムでも明言しており、わたし達は大靈<sup>たいれい</sup>の周波數と一致させることが大切なのです。

靈の大海を「<sup>しんちがく</sup>神智學」で表現すると「<sup>デヴァチャン</sup>Devachan」と表現します。純粹なる音の世界、靈の眞の故郷と呼ばれています。毎晩、眠りにつき<sup>D I K A G</sup>顯在意識が記憶を失うたびに、わたし達は靈界を訪れています。その靈的な痕跡は、<sup>D I K A G</sup>顯在意識が再び目覺めても<sup>EXA PIECO</sup>靈の心には残ります。

3つの<sup>ホームトーン</sup>基音から發する音と<sup>インターバル</sup>音程は、靈の大海である<sup>デヴァチャン</sup>Devachanの世界に橋を架けます。そして、聖なる叡智が再び甦るのです。

そうした意味で、音叉セルフヒーリングは「ヒーリング法」という枠を超えた「聖なる鍊金術」であり、「音」と「<sup>バイブレーション</sup>振動」によって「<sup>靈</sup>FUNEKON」と「<sup>靈の心</sup>EXA PIECO」に根本的な<sup>へんよう</sup>變容を起こす地上世界最先端の「<sup>メソッド</sup>方法論」です。

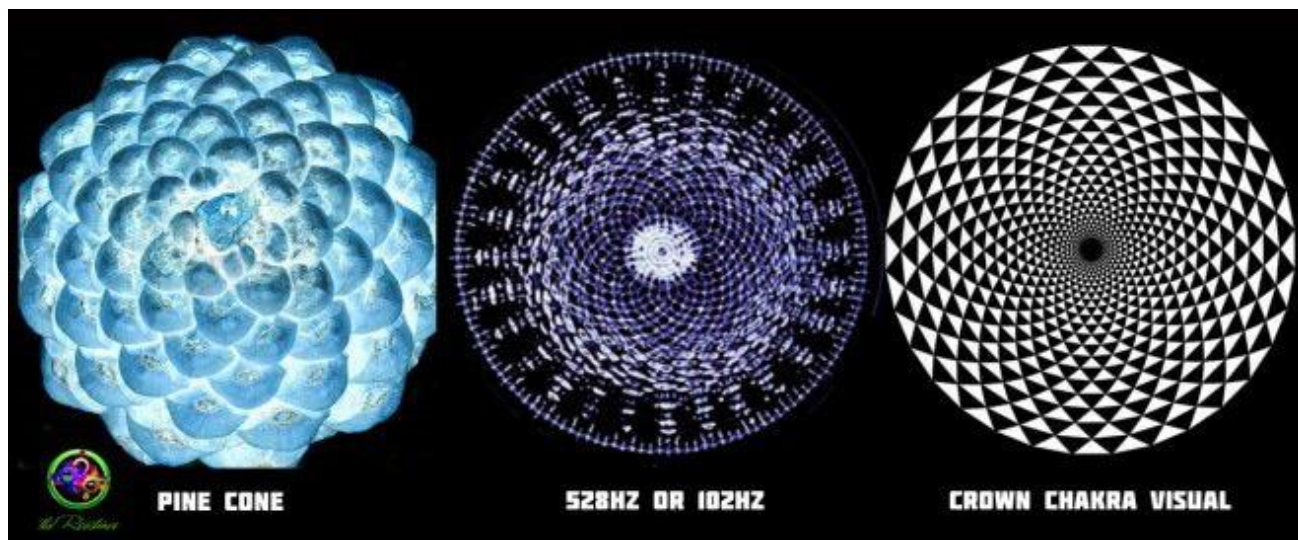
靈的眞理（シルバーバーチの靈訓とスピリチュアリズムの<sup>たいけい</sup>思想體系）による「在り方」に、音叉によるセルフヒーリングという「やり方」がマッチすることにより、<sup>靈</sup>FUNEKONを生まれる前に決めてきた「<sup>ブループリント</sup>人生の青写真」に再会させ、<sup>てんごく</sup>地上天國を實現させるための力になります。

わたし達の<sup>靈</sup>FUNEKON、<sup>靈の心</sup>EXA PIECOが「調和」と共鳴し、利他、奉仕を實行しようとする時、それと似た<sup>靈</sup>FUNEKONが相互に引き合い、相互に助け合い、奉仕し合います。その共振共鳴により、人間は存在の意味を<sup>D I K A G</sup>顯在意識で自覺し、さらなる靈性の進化が可能となるのです。

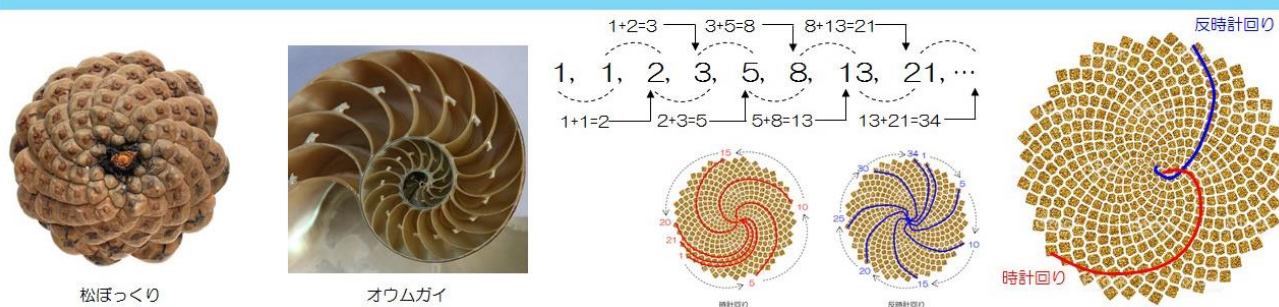


## フィボナッチ数列と黄金比について

一番の基本の周波数である 528Hz の周波数の波長は、「渦巻き」の波形を表し、フィボナッチ数列とも繋がってきます。自然界は面白いことに、数字と密接な関係がある植物がたくさんあります。自然界で生活する植物は、宇宙の仕組みを非常に美しく再現しています。



## ひまわりは黄金の花

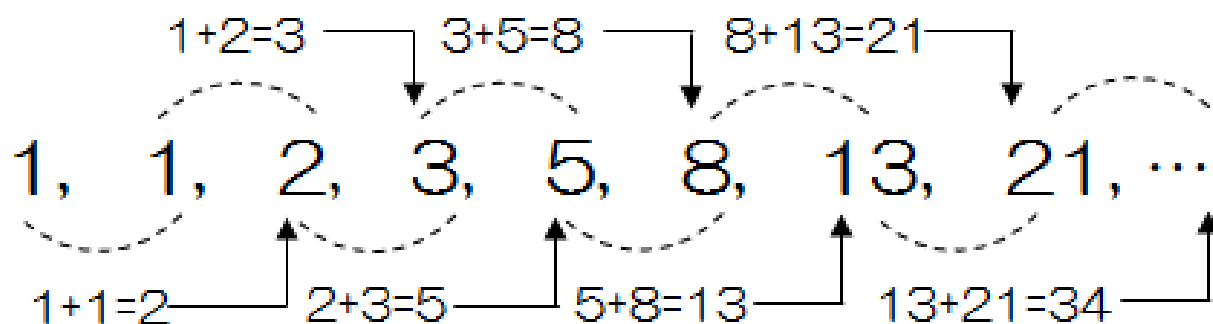


528Hz の特性に、人間が本来持っている神意<sup>あい</sup>の力を呼び覚まし、さらに高め、洗脳からの解放（情報氾濫<sup>はんらん</sup>する社会<sup>しゃかい</sup>の中で、正しい情報を選択する“判断力”を身に付ける）を促し、損傷した DNA の修復します。また、物質とスピリットを繋げる周波数ともいわれ、見えている世界と、見えない世界を結ぶ振動波でもあります。

## フィボナッチ数列を簡単にご紹介

$\Phi = 1.6180339\dots$ ( フィボナッチ数列 )			
目的の数	前の数	割り算	比率
1	1	1 / 1	1.0
2	1	2 / 1	2.0
3	2	3 / 2	1.5
5	3	5 / 3	1.6666
8	5	8 / 5	1.600
13	8	13 / 8	1.625
21	13	21 / 13	1.615384
34	21	34 / 21	1.619048
55	34	55 / 34	1.617647
89	55	89 / 55	1.618182
144	89	144 / 89	1.617978
233	144	233 / 144	1.618056

フィボナッチ数列とは、「1, 1」から始まり、前の二つの数字を足したものをドンドン並べていったものです。実際に書いてみると、1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, …となります。下の図のように、どの数字も前の二つの数字を足したものになっています。



例えば8に注目すると、その前二つの数字は3と5ですので、足すと8になります。これが、フィボナッチ数列のもっとも基本的な性質です。

## 隠された黄金比

そして、もう一つ重要な性質があります。<sup>すうれつ</sup>数列の隣り合った<sup>すうじ</sup>数字の比をとって並べてみましょう。つまり、二つの並んだ数字で右の数字から左の数字を割るのです。すると、

1	2	3	5	8	13	21
—	—	—	—	—	—	—
1	1	2	3	5	8	13

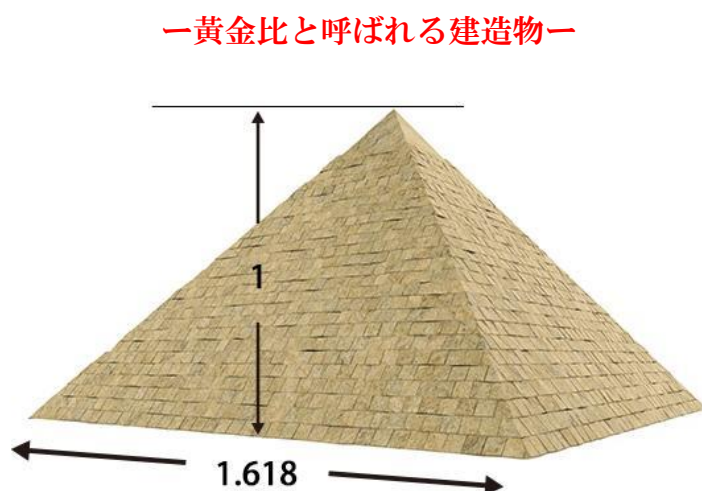
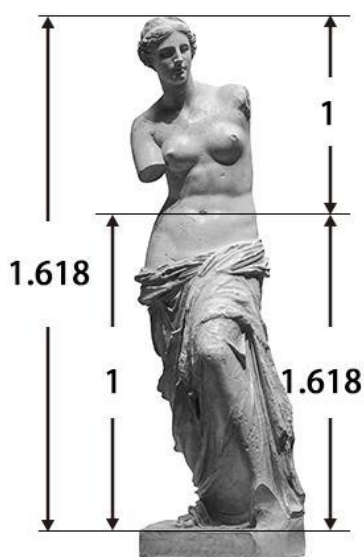
となり、これを計算して小数で表示すると、

1, 2, 1.5, 1.66..., 1.6, 1.625, 1.6153..., ...

となります。これは、右にいくほど何かある数に近づいていっているような感じがしますね。実は、これはフィボナッチ数列と繋がっています。

フィボナッチ数列の隣り合う比をとっていくと、黄金比(1.61803)に近づいていきます。

黄金比とは、この世の中で最も美しいと言われている比になります。



黄金比は「<sup>ファイ</sup>Φ 比率」とも言われる、非常に重要なものです

$$\frac{b}{a} = \frac{b+a}{b} = \frac{c}{b}$$

$$b^2 = a^2 + 1^2 = (\frac{1}{2})^2 + 1 = \frac{1}{4} + 1 = \frac{5}{4}$$

$$b = \frac{\sqrt{5}}{2}$$

$$c = a + b = \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{5}}{2} = \Phi$$

$$\Phi = 1.6180339...$$

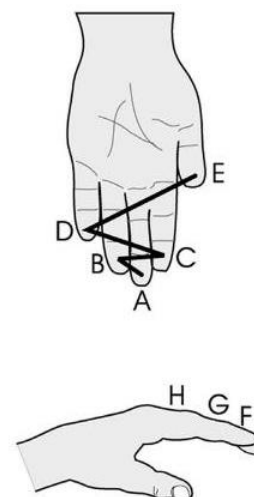
ファイ比率の方程式

$$\frac{BC}{AB} = \frac{AB + BC}{BC} = \Phi$$

$$\frac{DC}{BC} = \frac{BC + DC}{DC} = \Phi$$

$$\frac{DE}{DC} = \frac{DC + DE}{DE} = \Phi$$

$$\frac{GH}{FG} = \frac{FG + GH}{GH} = \Phi$$



人体に見られるファイ比率の例

ファイ比率の<sup>すうがく</sup>数学は、人間の一生に関わっているだけでなく、わたし達の知るありとあらゆる<sup>ゆうきたい</sup>有機體組織において見られるものです。どんな種であろうとも、いったん1つのサイズが特定されれば、その種における他のどの部分もファイ比率に従って割り出されます。そのファイ比率は「528Hz」によって生み出されています。

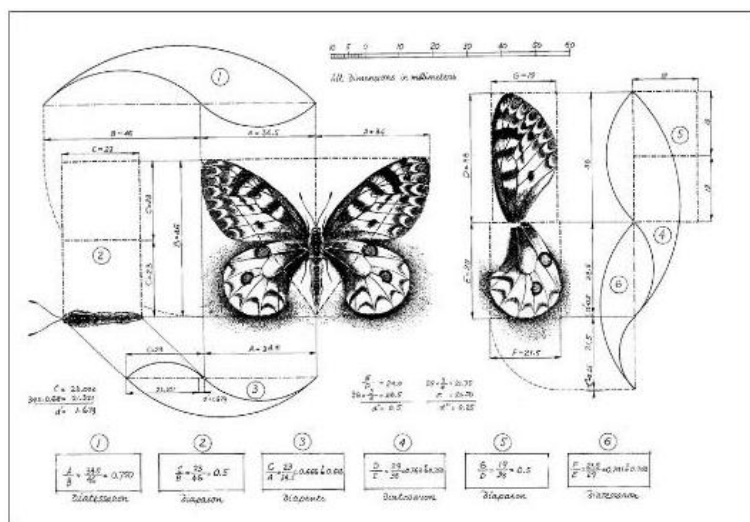
もう1つ、わたし達の生命が持っている<sup>きかがく</sup>神聖幾何學形状として「<sup>スパイラル</sup>螺旋」があります。みなさんはそれは<sup>いったい</sup>一體どこからやって来たものだろうと思うかもしれませんが、生命は全て<sup>スパイラル</sup>螺旋の中で生きています。

銀河の腕は渦巻つまり螺旋状ですし、人間の耳の中には小さな螺旋状の器官があって、その螺旋を使ってまわりの音を聞いているのです。自然界には螺旋がたくさん存在しています。探せばどんどん見つかります。松ぼっくり、ヒマワリ、どうぶつ達の角、鹿の角や貝殻や、デイジーその他多くの植物などの中に螺旋が見られます。

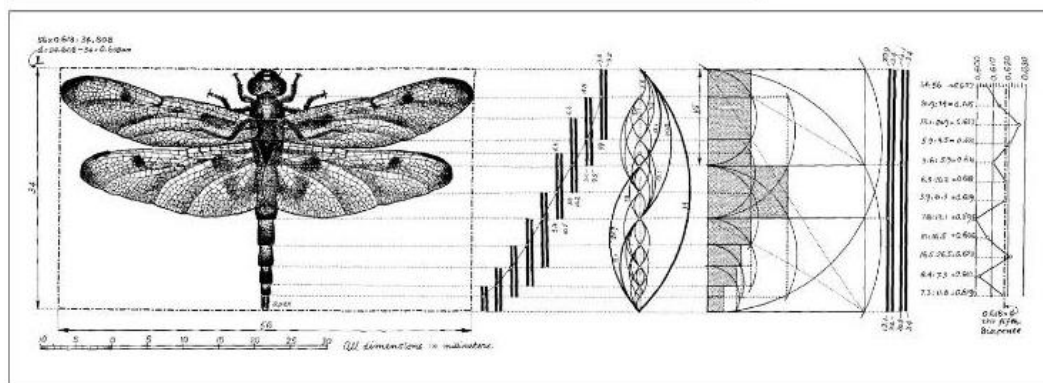
手のひらを開いたまま真っ直ぐ前に突き出して、親指が自分のほうを向くようにしてください。そのまま握りこぶしを作ると、その最初の動きは小指から始まります。それらはフィボナッチ螺旋を描いて動きます。そのフィボナッチ螺旋も「528Hz」が元になっています。



## 生命の中に見られる黄金比



蝶に見られるファイ比率

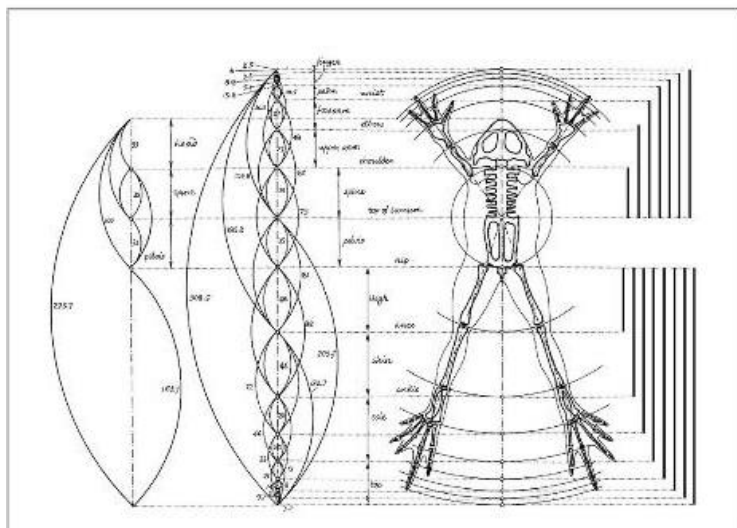


トンボに見られるファイ比率

蝶やトンボの尻尾の各部にもすべて「ファイ比率」を見出すことができます。トンボの尻尾の一関節ずつが「ファイ比率」なのです。同時に脚の小さな関節それぞれや、羽の長さ  
と幅、頭の幅と長さの対比など、いたるところに見受けられます。

カエルの骨格を見ると、いかにそれらすべてが人間同様に「ファイ比率」で構成されているかがわかります。魚には本当に驚かされます。なぜなら魚は一見、「ファイ比率」とはまったく無関係のように見えるからです。ほかにもそうした類のものは山ほどあります。けれどもよく調べてみると、あらゆる存在物に「ファイ比率」は存在しています。

ファイボナッチ数列、黄金比は「生命設計図」の根幹とも言えます

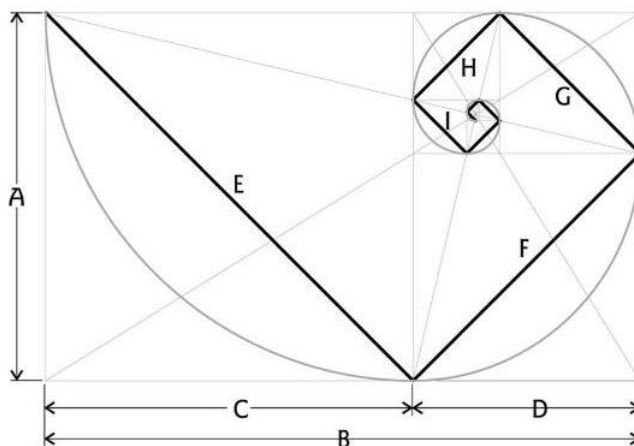
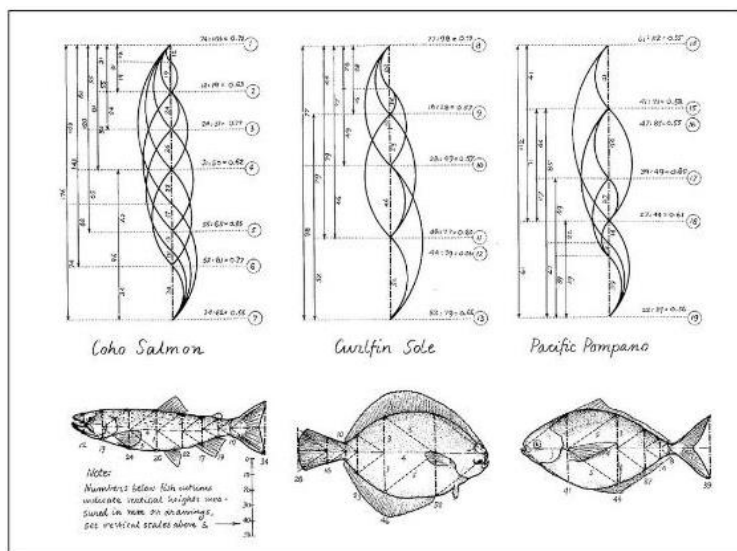


528Hz 倍音トライアルセットは、こうした生命の中に見られる「黄金比」に働きかけます。

EXA PIECO 霊の心 (心臓脳) と DIKAG 肉の心 (大脳) を一致させ、霊體と肉體にアプローチする 528Hz は、すべての周波数の基本であると言えます。EXA PIECO 霊の心 (心臓脳) と

DIKAG 肉の心 (大脳) を一致させ、霊體と肉體にアプローチする 528Hz は、すべての周波数の基本であると言えます。

万物とのコミュニケーションの鍵は「EXA PIECO 霊の心 (心臓脳)」であり、どれだけ 528Hz で心臓脳を活性化させられるかが大切です。



黄金分割長方形と女性螺旋・男性螺旋

## 地球の音「オーム」の重要性について

それとは<sup>か</sup>變わり、オームは「地球」の1年のサイクルであり、地面の音、根っこの音、どっしりした地球の音です。木がすくすくと育つためには根っこが必要なように、人には「<sup>オーム</sup>地球」が必要なのです。

「<sup>オーム</sup>地球」の音は、他の周波数との<sup>インターバル</sup>音程により、「<sup>スピリチュアルジャーニー</sup>靈的巡礼への旅」への支度を整えます。  
<sup>オーム</sup>地球の音は「バランス」を表し、<sup>D I K A G</sup>肉の心、<sup>にくたい</sup>肉體のエネルギー的なバランスの崩れを調和しようとしします。すなわち、十二経絡に大きく影響するということです。

宇宙の<sup>しんおう</sup>深奥とも言われるエネルギーを持つため、心身のバランスを整え、免疫機能を高め、<sup>にくたい</sup>肉體の不調和と緊張を取り除く波動を持っています。<sup>にくたい</sup>肉體において地球は、仙骨、臀部、肝臓、足全般を司ります。

音叉によるセルフヒーリングによる<sup>いのち</sup>生命の調律は、「星々」と「地球」の関係性から生まれる美しい<sup>インターバル</sup>音程を、イエス再臨後という靈的新時代に復活させました。その響きによって、わたし達地上世界の人間は、宇宙や自然のサイクルと再び同調することが出来るのです。

ヒンドゥー教の教典には、オームは「神祕のパワーの貯蔵庫」と書かれています。インドの聖者は、インドの<sup>ラーガ</sup>音階でいうところの「サ」の音が、オームの<sup>バイブレーション</sup>振動と共鳴すると信じられています。

オームの音は瞑想を深め、悟りと覚醒へと導くためのサポートの<sup>バイブレーション</sup>振動を持っており、シタールなどのインド楽器は、この音に調律することで瞑想状態を作り出します。

古代タントラ<sup>ぶっきょう</sup>佛教の經典には、オームは「最も強力な<sup>バイブレーション</sup>振動である」と書かれています。オームの音に関する太古の記述が世界各地にあることがオームの重要性を物語っています。





## 第四章

### チャクラエナジーバー

半霊半物質である<sup>ゆうたい</sup>幽體

<sup>霊的世界</sup>形而上と<sup>地上世界</sup>形而下を繋げる接合点

現実と本質を繋げる画期的ツール





## 各エナジーバーの種類と意味について



音叉セルフヒーリング導入編～音叉セルフヒーリング上級編まで、必ず使うサウンドツールは「各エナジーバー」になります。エナジーとは、「エネルギー」、「活力」、「元氣」という意味であり、各ステージの違いはこのようになります。

音叉セルフヒーリング 各ステージのエナジーバーについて		
ステージ	使用するエナジーバー	意味
導入編	528Hz エナジーバー	528Hz の倍音による心身の調律
入門編	チャクラ・エナジーバー（レギュラー）	チャクラ活性
初級編	チャクラ・エナジーバー（ハーモニック）	チャクラ活性を更にレベルアップ
	432 Hz エナジーバー	星々の周波数を身体 <small>しんたい</small> に取り入れる
	オーム・ロングエナジーバー	オームの効果を更に高める
中級編	ソルフェジオ・エナジーバー	聖なるソルフェジオ音階のレベルアップ
上級編	プラネタリー・エナジーバー	チャクラバー+プラネタリーバーによる チャクラ活性の更なるレベルアップを促す

エナジーバーというサウンドツールは、日本ではあまり普及していないタイプものですが、ただ鳴らすだけで外側からの刺激により<sup>れいたい</sup>靈體と<sup>にくたい</sup>肉體を活性化させてくれるものであり、非常に便利なサウンドツールになります。

エナジーバーは様々なタイプが存在しますが、導入編と入門編では「528Hz エナジーバー」と「チャクラ・エナジーバー（レギュラータイプ）」が使用するエナジーバーになり、ステージが上がるごとに「倍音」や「和音」が追加されていくようになります。

エナジーバーを<sup>たんたい</sup>単體で使用するよりも二つ同時での使用のほうが数倍の効果を得ることができます。なので、レギュラータイプも基本的に二つを同時に使用方法により、<sup>いのち</sup>生命の調律の効果を数倍以上にしていきます。

エナジーバーを二個同時に鳴らすことで、二つの音の間に存在する<sup>りったいてき</sup>立體的で振幅の大きな深い振動と、耳には聞こえない「超音波」が発生し、より心身の深部にまで「振動」が届くようになり、<sup>たいない</sup>体内の歪みも調整します。

チャクラ・エナジーバー（レギュラータイプ）七個セットは、音叉によるセルフケアでも必須のツールです。チャクラを活性化していき、<sup>EXA PIECO</sup>靈の心と<sup>D I K A G</sup>肉の心が一致することがセルフヒーリングの目的の一つになりますが、そのためには誰でも簡単にセルフケアが出来るチャクラバーが効果的になります。

エナジーバーは、「各周波数ごと」に存在し、「フォークタイプ」か「ヘヴィーフォークタイプ」のみを音叉と認識している人間にとって画期的なサウンドツールであると言えます。このサウンドツールを活用している音叉のスクールは、實は世界中を調べても殆どありません。

音叉によるセルフヒーリングは、「フォークタイプ」、「ヘヴィーフォークタイプ」、「エナジーバータイプ」をどれだけ融合調和するかで、効果がまったく<sup>か</sup>変わってきます。

## 各チャクラバーの使い方の一例

チャクラバーによるチャクラの活性化は、音叉セルフケアの基本になります。チャクラバーの使用方法は何通りかあります。どれも正解でも、自由に使うことが基本になります。その中での基本的な使い方をお伝えするので、参考にしていただきたいと思います。



- |   |       |   |       |        |
|---|-------|---|-------|--------|
| ① | C (1) | + | D (2) | チャクラバー |
| ② | D (2) | + | E (3) | チャクラバー |
| ③ | E (3) | + | F (4) | チャクラバー |
| ④ | F (4) | + | G (5) | チャクラバー |
| ⑤ | G (5) | + | A (6) | チャクラバー |
| ⑥ | A (6) | + | B (7) | チャクラバー |

まず、チャクラバーを耳元の近くで左耳に三回、右耳に三回、前回で鳴らします。左右の耳に音を近づけることとで、脳内を周波数でダイレクトにクリアリングしていきます。

脳の 90%は水分になり、水分は「振動波」の媒体になります。

なので、脳の 90%は「水分＝振動波」になり、脳の栄養素は「音」になります。



複数の音叉やサウンドツールを同時に奏でることで、異なる周波数はもちろん、同じ周波数でも多重波が生まれ、複雑に入り組んだ古い情報や思考習慣を粉砕、突破できるようになります。

写真のようにバータイプのサウンドツールを耳元に用い、脳内をチャクラバーの和音や倍音で刺激することで、ダイレクトに心身を調整していきます。この際、重要になるのは「回転」の方向になります。

片耳ずつ、基本的にチャクラバーで刺激していく。

※<sup>おうよう</sup>応用テクニックに、左右の耳にチャクラバーを鳴らす方法もあります

① 左耳を、三回チャクラバーで刺激する(※前側に回す)

② 右耳を、三回チャクラバーで刺激する(※前側に回す)

【チャクラバーを鳴らす基本的な順番】

① C (1) + D (2) チャクラバー

② D (2) + E (3) チャクラバー

③ E (3) + F (4) チャクラバー

④ F (4) + G (5) チャクラバー

⑤ G (5) + A (6) チャクラバー

⑥ A (6) + B (7) チャクラバー

所要時間は人それぞれ異なりますが、だいたい5～10分程度になります。まずは焦らないこと、音の余韻を残すこと、自分自身の心地よいリズムで音を鳴らし、リラックスすることが大切になります。

朝の起床時にチャクラ活性をすることで、その一日の心身の安定を促します。一日、チャクラバーを鳴らすのが何回までとか決まりはないので、時間が空いたらチャクラバーを鳴らし、音の余韻を楽しむという使い方もアリです。

夜の就寝前に、その日の疲れ、カルマを浄化するために使用し、ストレスなどをリセットすることも出来ます。なので、朝でも夜でも自分自身のタイミングに沿ってチャクラバーを使用してほしいと思います。



音叉フェイシャルならば、6 チャクラバーは<sup>のうかすいたい</sup>脳下垂體、7 チャクラバーは<sup>しょうかたい</sup>松果體を刺激します。なので、二つを鳴らすことで<sup>D I K A G</sup>顕在意識のクリアリングを更に促します。

後頭部のツボである<sup>てんちゅう</sup>天柱、<sup>ふうち</sup>風池、<sup>かんこつ</sup>完骨、<sup>てんゆう</sup>天牖、<sup>えいふう</sup>翳風、<sup>ろそく</sup>盧息のボを刺激する場合は、5 チャクラバーと共に、6 チャクラバーがツボや部位の位置的にも効果を最大限に引き出せます。

腸セラピーとして、音叉でお腹を刺激する場合は2 チャクラバーと3 チャクラバーにより、<sup>ぜんたい</sup>お腹全體を柔らかくするのを加速させ、心とカラダの調律を促します。

下半身は全部、1 チャクラバー+2 チャクラバーの組み合わせです。1 チャクラバーのレギュラータイプは湧泉のエリアの刺激、2 チャクラバーは<sup>かんげん</sup>關元のエリアの刺激だからです。

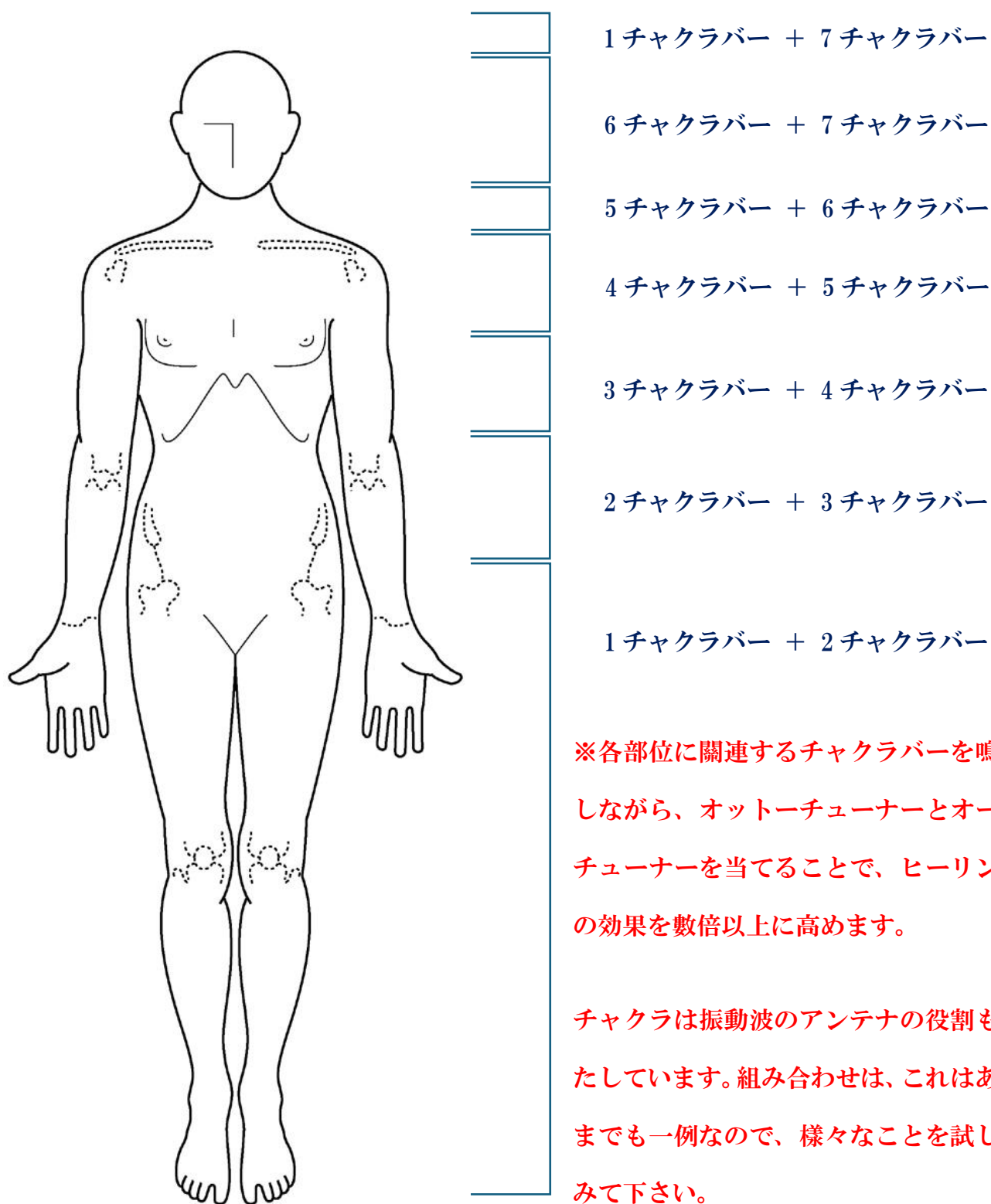
この組み合わせ以外で、例えば「<sup>ようゆ</sup>腰愈」のツボと「<sup>ふうふ</sup>風府」のツボを刺激したい場合、チャクラバーのエリア的に1 チャクラバーと5 チャクラバーが適切になります。なので、この二つを鳴らすか、1 チャクラバーと6 チャクラバーを鳴らすなど、好きな方を選ぶことです。

これをしては駄目という組み合わせはないので、様々な組み合わせを工夫し、自分なりのセルフヒーリングを開発することも可能です。

初級編になるとチャクラバー（レギュラータイプ）とチャクラバー（ハーモニックタイプ）の組み合わせで「超音波」を発生させ、カラダの内臓の調律に用いたり、中級はソルフェジオ音階エナジーバーとの組み合わせで<sup>れいたい</sup>靈體のアプローチに用いたり、上級は惑星エナジーバーとの組み合わせで、より<sup>りったいてき</sup>立體的に<sup>しんたい</sup>身體すべてにアプローチします。

チャクラバーは、どのステージでも必ず使うツールになります  
すべてのステージでの基礎であるエナジーバー大切に扱いましょう

カラダの部位別にチャクラバーを使用する一例



色々と試してみることで、新たな発見、気づきがあると思います。

## スピリチュアリズムが明らかにしたチャクラの本質

そもそも、チャクラとは何でしょうか？

皆さんは、チャクラについて正確に説明できますか？

この質問にきちんと答えられる人は、あまりいません。チャクラという言葉は聞いたことある方が多いのですが、チャクラの意味を正確に知っている方は少ないのが現状です。では、なぜチャクラを活性化させる必要があるのでしょうか？

本来、チャクラを活性化させることは不自然な行為とも言えます。「霊性の進化」を目指して決心実行していたならば、必ず自然にチャクラが開いていき、様々な能力が顕現されていくからです。

### 足立育郎と語る

人間の構造、仕組みというのは、みんな同じ状態になっていますけれども、気づいてシフトして実行していくと、肉體の構造が、さっきの構造<sup>へんかん</sup>変換と同時に<sup>か</sup>変わっていくんです。そしてチャクラが開いていく。で、チャクラが役割に<sup>おう</sup>應じて、全部開いてしまう。

チャクラは無理に開くものではないんです。自然に開いて、いろいろな能力が出てきてしまう。自然に全部開いて、いろいろな能力が出てきてしまう。

足立育郎と語る P225 より抜粋

チャクラは、古代インド思想や、それを踏襲する神智學<sup>しんちがく</sup>における重要な概念です。精神世界や神祕主義、あるいはニューエイジでは、チャクラの存在は常識のように思われています。しかし、結論から言うならば、殆どのチャクラ思想が間違っています。

チャクラは現在のスピリチュアリストの中に大きな影響を及ぼしています。チャクラの存在を無条件に正しいものとして受け入れるような傾向が見られ、スピリチュアリズム関連の書物には、たびたびチャクラの解説が掲載されます。

また海外のスピリチュアリズム関連機関での霊能開発セミナーでも、チャクラの存在が当たり前のこととして取り上げられ、チャクラについて学び、チャクラを意識した瞑想が取り入れられています。

現在の多くのスピリチュアリストは、「チャクラ思想」に洗脳されていると言えるでしょう。しかし、チャクラは本来、「霊性の進化」を通して開くものであり、無理に開くと非常に危険であることに気づいている方は殆どいません。

### 危険なこと

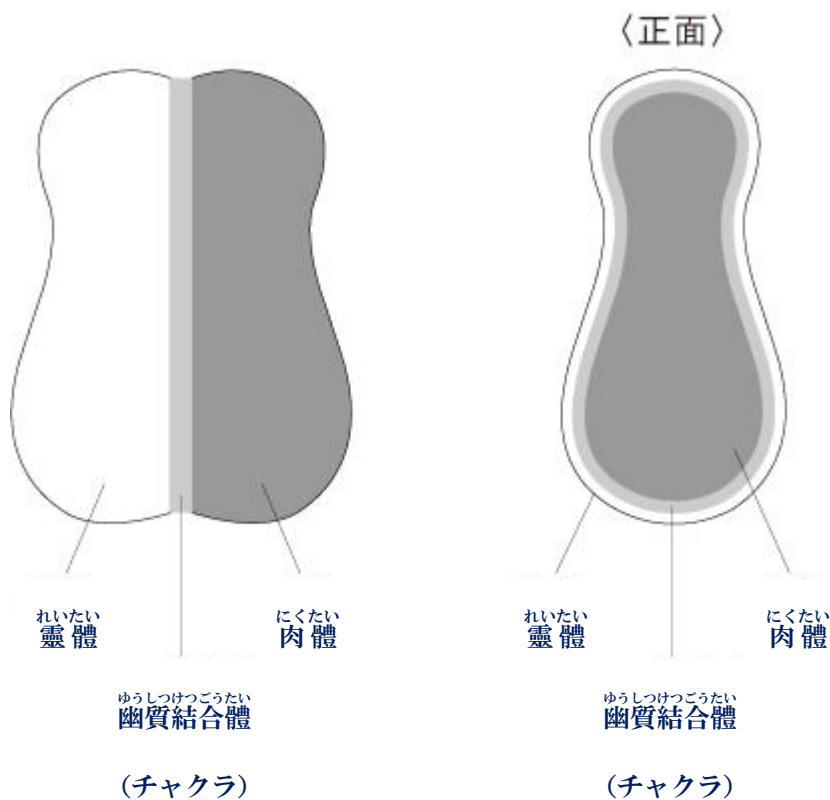
「宇宙の仕組み」を自我の強い顕在意識で理解したり、知識だけが増えますと、かえってその方の行動が不調和な方向に進み、その方の想像の及ばない広範囲の時空間にとりかえしのつかないマイナスの影響を及ぼす事態が発生します。

人間のエネルギー・センター(チャクラ)についても、そのセンターの調和がとれ、成長過程において自然に開いていくのが本来であり、無理に開くような行爲をとると自我の歪んだ振動波がEXA PIECOにまで影響し、EXA PIECO自体を歪める大變危険な状態となります。

宇宙に学ぶ P143 より抜粋

人間観で必要なのは「霊」を上位に、「霊の心 (心臓脳)」が「霊體」をつくり、「肉の心 (大脳)」が「肉體」をつくり、人間は霊體と肉體の「二重構造」で成り立っている事実です。



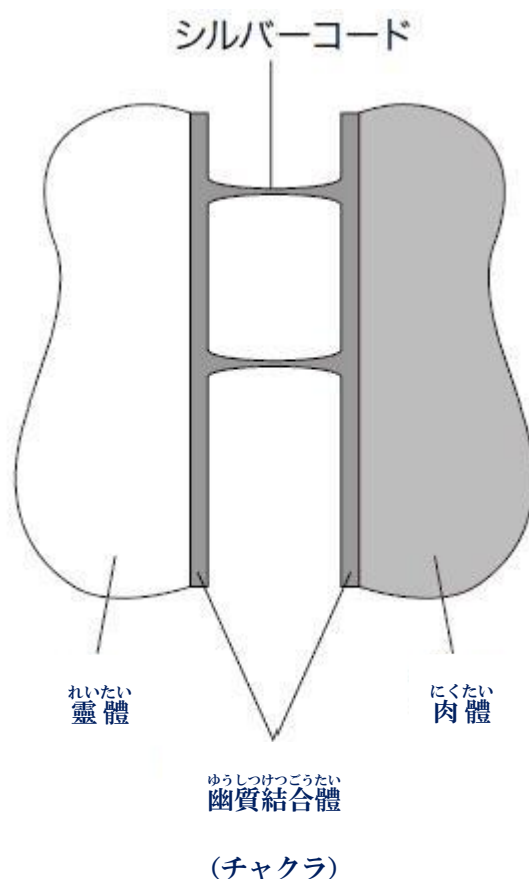


スピリチュアリズムの基本的な身體觀は、靈體しんたいと肉體にくたいの二重構造ですが、靈體しんたいと肉體にくたいとの間には、2つの異質しんたいの身體を結びつける接着剤のような部分があります。この部分を「幽體ゆうたい」とか「結合體けつごうたい」とか「中間體ちゅうかんたい」と呼びます。

ゆうたい けつごうたい  
 幽體と呼ばれる結合體は「半物質・半幽質」によって形成され、その材質の特殊性によって  
 2つの異質の身体（しんたい）を結びつけ、両者の間のエネルギーの交換を可能にしています。この結合  
 部の別名を「チャクラ」と言います。

これは、「脊髄」を通して<sup>れいたい</sup>靈體と<sup>にくたい</sup>肉體を繋いでおり、脊髄を通して「DNA」のように「螺旋状」に<sup>れいたい</sup>靈體と<sup>にくたい</sup>肉體を結んでいます。ヒンドゥー教の<sup>でんとう</sup>傳統では、このカラダを流れる天のエネルギーを「クンダリーニ」と呼びます。

この<sup>れいたい</sup>靈體と<sup>にくたい</sup>肉體を繋いでいるシステムが「髄液」であり、髄液を正常に働かせるのが「ミネラル」であり、ミネラルにより「自律神経」を通して<sup>れいたい</sup>靈體と<sup>にくたい</sup>肉體を繋ぎます。



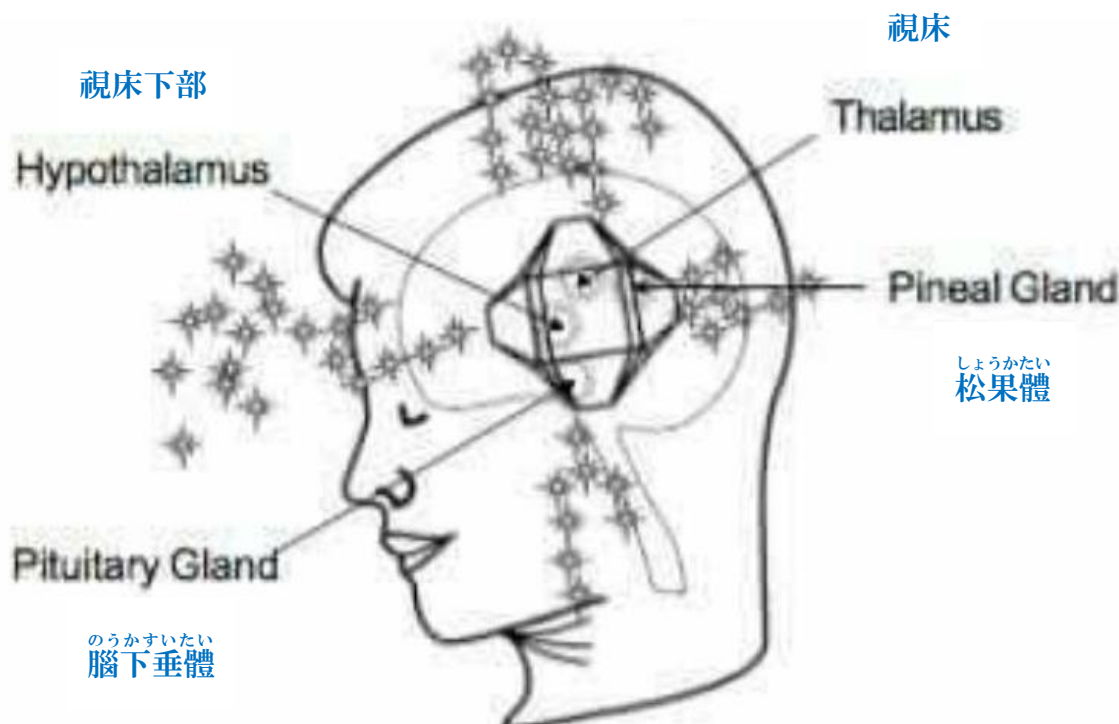
そもそもチャクラよりも重要なのは「シルバーコード」の存在です。シルバーコードは蜘蛛の巣のように細かいものが沢山ありますが、その中で特別太い2本のシルバーコードがあります。

しょうかたい 松果體のシルバーコードは「EXA PIECO 霊の心」と「D I K A G 肉の心」を繋ぐコードであり、しんけいそう 太陽神経叢のシルバーコードは「れいたい 霊體」と「にくたい 肉體」を繋ぐコードになります。これらを統括するのが「霊」であり、生命をコントロールしている根本です。

しんけいそう 太陽神経叢のシルバーコードは、にくたい 肉體の器官だと「脾臓」になり、脾臓は「せいけい 正經十二經絡」を管理、維持しています。

しょうかたい 松果體のシルバーコードは、厳密には3つのコントロール器官が存在しますが、統括している器官は「腎臓」であり、腎臓は「奇經八脈」を管理、維持しています。

## クリスタルパレス 水晶宮



しょうかたい  
松果體のシルバーコードをコントロールする器官は「子宮」、「心臓」、「視床下部」であり、  
すべてチャクラの位置にあるのは偶然ではありません。そもそもシルバーコードを通して  
れいたい にくたい  
靈體と肉體を繋ぐ器官がチャクラなので、すべてのチャクラは「連繫關係」にあります。

タ オ しょうかたい  
道教では、松果體を中心に、視床、ししゅうかぶ のうかすいたい  
類しますが、これは「EXA PIECO 霊の心」と「D I K A G 肉の心」の「接合点」について述べられたものです。EXA PIECO  
と肉の心が一致すると、頭部が水晶のようにひかり  
でしよう。

チャクラは一部分だけを無理やり活性化させると、低級靈の格好の餌食になる危険性があり  
ますが、万遍なくチャクラを活性化させると、EXA PIECO D I K A G  
と肉體のオーラがEXA PIECO 靈體のオーラと  
にくたい いったいか  
と肉體のオーラが一體化することで、エネルギーが輝いていきます。



## 第五章

### 聖なるソルフェジオ音階

星々と人々を繋げる音

スター 恒星と プラネット 惑星の音が「銀河の音」を奏でる

デヴァチャン 霊の大海、Devachanへの鍵になる聖なる音階





## 聖なるソルフエジオ音階9本セット



音叉によるセルフヒーリング入門編の最重要のセットである「聖なるソルフエジオ音階9本セット」は非常に強力な効果があります。聖グレゴリオ聖歌で使用されたスケールの音階であり、現代では失われてしまった音階でもあるソルフエジオ音階は、現代音階とは違ったものになります。

音叉によるセルフヒーリング中級編では、「ソルフエジオ音階シリーズ」を学びます。「ソルフエジオ音階エナジーバー9本セット」、「ソルフエジオ音階2オクターブ下重りつき9本セット」、「エンジェル・ソルフエジオ音階9本セット」をもとに、ソルフエジオ音階の「倍音」を奇経八脈や十二経絡、チャクラに使用していきます。

また、音叉によるセルフヒーリングマスター編では、「ソルフエジオ音階」と「惑星音階」の組み合わせを學んでいくコースになり、チャクラバーと同じで全コースに渡り使用していくサウンドツールです。ソルフエジオ音階は「<sup>スター</sup>恒星」を表し、「<sup>プラネット</sup>惑星」と組み合わせることで、銀河の音を奏でることが可能になります。



ソルフェジオ音階の「174Hz」は「ソウルスター」と呼ばれており、「285Hz」は「アーススター」と呼ばれていることから、「恒星」に<sup>スター</sup>関係する周波数であることは間違いありません。「恒星」は「中性子」に作用し、「惑星」は<sup>プラネット</sup>「陽子」に作用します。

2つを掛け合わせると「原子」に作用します。原子に作用するということは、あらゆる万物に作用することであり、<sup>れいたい</sup>霊體、<sup>ゆうたい</sup>幽體、<sup>にくたい</sup>肉體という<sup>しんたい</sup>身體に<sup>りったいてき</sup>立體的に作用を及ぼします。そして、「原子核」や、原子核を構成している「元素」が、「EXA PIECO」と「FUNEKON」に最も影響を与えます。

ソルフェジオ周波数と呼ばれる特定の周波数は、人の心とカラダによい効果を働かけると話題になっています。ヒーリングミュージックや自然療法に興味のある方は、この「ソルフェジオ周波数」や「528Hz」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。

ソルフェジオはフランス語で「ソルフェージュ＝音階」を意味し、ソルフェジオ周波数とは、528Hzをはじめとした特定の周波数の音階を指します。ソルフェジオ周波数がもたらす良い効果は、研究者のレオナルド・G・ホロウィッツが提唱したことで、一躍話題になりました。近年ではソルフェジオ周波数の知名度が高くなりつつあります。

癒しの音楽として知られる『グレゴリオ聖歌』をはじめ、古くからある聖歌などにも含まれていることがわかっています。現在は海外を中心に、ヒーリングや治療の一部にソルフェジオ周波数が取り入れているところが水面下で広がってきています。

ソルフェジオ音階について			
周波数	ソルフェジオ音階	現代音階	ソルフェジオ音階の効果
174Hz	ソウルスター	$\text{F}^{\text{ファ}}$	意識の拡大と進化のための基礎を整える
285Hz	アーススター	$\text{C}^{\text{ド}}\sharp$	多次元領域を知覚する意識の拡大と促進
396Hz	$\text{UT}^{\text{ド}}$ (or $\text{DO}^{\text{ド}}$ )	$\text{G}^{\text{ソ}}$	罪悪感や恐れからの開放
417Hz	$\text{RE}^{\text{レ}}$	$\text{G}^{\text{ソ}}\sharp$	内なるガイドを目覚めさせる
528Hz	$\text{MI}^{\text{ミ}}$	$\text{C}^{\text{ド}}$	根源と繋がる <sup>あい</sup> 神意と、記憶を呼び覚ます。DNA の修復
639Hz	$\text{FA}^{\text{ファ}}$	$\text{D}^{\text{レ}}\sharp$	分離を統合し、集合意識に繋がり、心を静けさと調和で満たす
741Hz	$\text{SOL}^{\text{ソ}}$	$\text{F}^{\text{ファ}}\sharp$	意識の組織化と強化、自由意識の拡大
852Hz	$\text{LA}^{\text{ラ}}$	$\text{A}^{\text{ラ}}$	内なる透明なる声が響き、直感と感情の拡大と統合
963Hz	$\text{TI}^{\text{シ}}$	$\text{B}^{\text{シ}}$	<sup>しょうかたい</sup> 松果体を活性化し高次元意識の響きにより神聖化へと導かれる

ソルフェジオの神秘的でパワーのある周波数を取り込むことで、わたし達の魂の根源への帰化を促します。最初は一つ一つの音「 $\text{UT}^{\text{ド}}$ 」～「 $\text{TI}^{\text{シ}}$ 」を静かに聴いていき、精神の深い部分に作用させていきます。

ソルフェジオ音階のエネルギーが心身に染み渡ってきたと感じられるようになってきたら、ソルフェジオ周波数の音叉を組み合わせ、和音を活用していきます。個々の音叉でも効果が高いのですが、組み合わせで和音を発生させることにより、更なる効果が期待できます。

**ソルフェジオ周波数は、様々な組み合わせで使うことで真価を発揮していきます**



## 安定の周波数「174Hz」

174Hz はソルフェジオ周波数のうち、1 番低い周波数です。意識の拡大と進化の基礎となる 174Hz の周波数が、人の内面に働きかけ、心を安定に導くといわれています。音に合わせて声を出して音階と共鳴することで、落ち着いた気分が広がります。心が安定すると自分の軸や存在をしっかりと認めることができ、一歩踏み出す勇気を抱くことができます。また、ソウルスターチャクラと呼ばれる頭頂から 20cm～30cm 上のチャクラを刺激し、宇宙からメッセージを受け入れる準備を促します。

## 促進の周波数「285Hz」

285Hz は多次元領域からの意識の拡大を促すという、ソルフェジオ周波数の中でもスピリチュアル性の高い周波数です。心の安定をより強固なものにするために、自然治癒力を促し心身を整えるといわれています。また、アーススターチャクラと呼ばれる足下から 20cm～30cm 下のチャクラを刺激し、地球へのグラウンディングを促します。<sup>しんたい</sup>身体（<sup>れいたい</sup>霊體、<sup>ゆうたい</sup>幽體、<sup>にくたい</sup>肉體）すべてに関連しており、宇宙の各情報層にアクセスするための周波数でもあります。

## 解放の周波数「396Hz」

396Hz は基本となる癒しの周波数 528Hz とともに、ソルフェジオ周波数の中でも重要視されている周波数です。罪の意識や、トラウマ、恐怖心、不安の感情を緩和させるといわれています。生殖器、仙骨のチャクラと関連しており、285Hz と合わせることで、前世の記憶のアクセスと共に、前世から引き継いだカルマの浄化を促します。また、396Hz と 528Hz は音階の違い（<sup>ソ</sup>G と <sup>ド</sup>C）であり、和音として奏でることで美しい旋律<sup>メロディー</sup>を奏でます。その旋律<sup>メロディー</sup>に魅了される人も沢山います。



## へんか 変化の周波数「417Hz」

417Hz は<sup>へんよう</sup>変容を促す周波数です。417Hz の周波数があなたの意識と無意識に働きかけ、回復力を高める助けとなります。ストレスを生み出し状況をより悪化させる原因にもなるマイナス思考やマイナスな状況からの回復を促すといわれています。また、<sup>マインド</sup>顯在意識の強い思い込み、執着を手放し、新しい状況に<sup>てきおう</sup>適應したり、<sup>へんか</sup>変化を恐れずに受け入れたりする上でも役立ちます。417Hz は第2チャクラと関連しており、お腹の痛みの緩和などにも有効です。

## 修復の周波数「528Hz」

ソルフェジオ周波数の中で最も基本となる癒しの周波数。過度のストレスや環境などで傷ついたり壊れたりした細胞の DNA を修復します。ガン細胞が死滅し、正常な細胞に戻します。また、心臓の上部、ハイハート・チャクラと呼ばれる位置にある「心臓脳」と呼ばれる器官を刺激し、<sup>EXA PIECO D I K A G</sup>霊の心と肉の心を一致させるように促します。そのため、<sup>マインド</sup>顯在意識の洗脳からの脱却、開放をしてくれる周波数とも言われており、純粹で清々しい音が心身をクリーニングしてくれます。

## 調和の周波数「639Hz」

639Hz は人との繋がりをもたらし調和の周波数です。対立するものを統合し緩和させることから、人間関係の向上が期待できるといわれています。チャクラの位置的に心臓と肺に<sup>たいおう</sup>對應しておりますが、心臓は<sup>よろこ</sup>「喜び」を司り、肺は「悲しみ」を司ります。この二つは感情ではなく、實は宇宙の<sup>あい</sup>神意との同調度をはかる目安になり、相反する性質の二つを融合することで、協調性を身に付けさせ、利他性を高める効果が期待できます。そして、調和の実践という本質的な生き方にシフトすること促します。

## 自由の周波数「741Hz」

741Hz は意識を自由に羽ばたかせて、表現力を開花させる周波数と言われており、コミュニケーション能力の向上をはかり、自己表現を促す効果があります。自分自身の心を偽って生きている人に最も有効な周波数であり、741Hz の音に合わせて声を出すと効果が高まります。第5チャクラと関連しており、甲状腺の不調を改善する周波数でもあります。また、脳幹にも効くことから、實は様々な情報をキャッチする力を高めたり、記憶力の改善にも有効になります。

## 直感の周波数「852Hz」

852Hz は直感力を覚醒させる周波数です。脳の奥に位置する「<sup>しょうかたい</sup>松果體」を活性化し、洞察力、直感力を高めるといわれています。思考がクリアになったかのように雑念が取り払われ、自分の内なる声に気づきリフレッシュ感が得られます。<sup>D I K A G F I K</sup>顕在意識と潜在意識を繋げるための周波数でもあり、本質を見抜く能力を高めます。また、万物との繋がりを感じるように促す周波数でもあります。

## 活性の周波数「963Hz」

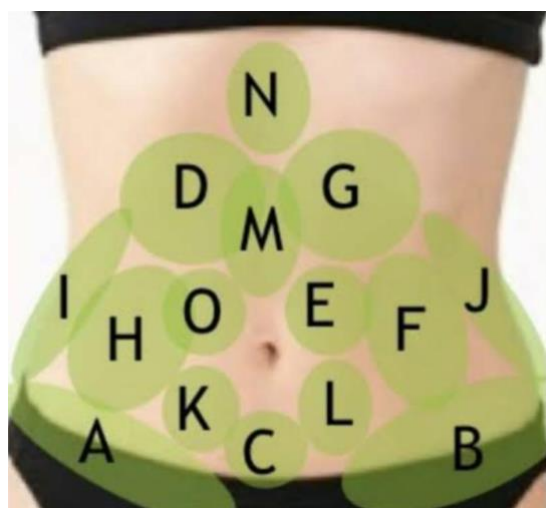
963Hz はソルフエジオ周波数の中でも1番高い周波数です。頭のでっぺんと天井がつながったかのようなスピリチュアルなイメージを持ち、高次元の意識とつながることで脳神経系が活性化します。瞑想を行い呼吸を整えることで、すっきりした気分に導きます。靈的世界と地上世界を繋ぐために必要な周波数の一つであり、<sup>たいれい FUGEHEKIN</sup>大靈や自然法則をリアルに実感することを促します。奇經八脈を使用したヒーリング、ソルフエジオ・プロセスでも最も微細な振動ながら、パワフルな力を持つ周波数です。

## ソルフェジオ音階の組み合わせによる効果

聖なるソルフェジオ音階同士の組み合わせ		
ソルフェジオ 組み合わせ	マップ 腸心	ソルフェジオ音叉の組み合わせの意味
① 174Hz + 285Hz	J	にくたいかられいたい 肉體から靈體へのエネルギーのシフトを行う
② 285Hz + 396Hz	F	前世療法、過去世と今世のいらない情報のクリアリング、カルマの浄化
③ 396Hz + 417Hz	H	胎内記憶、インナーチャイルドなど、無意識の悲しみを癒す
④ 417Hz + 528Hz	D	D I K A G 肉の心の思い込み、執着、行動の制限を外し、EXA PIECO 靈の心の自由を促す
⑤ 528Hz + 639Hz	A	赦し、慈悲の周波数により、自己否定から自己受容を促す
⑥ 639Hz + 741Hz	E	靈、EXA PIECO 靈の心、D I K A G 肉の心の一致、こんしんしん 魂心身の統合した状態を促す
⑦ 741Hz + 852Hz	K	地球圏靈界と地球圏地上世界を繋ぎ、靈界と地上世界の協調関係を促す
⑧ 852Hz + 963Hz	M	たいれい FUGHEKIN 大靈と自然法則と一致し、宇宙、星々と調和した生き方にシフトする
⑨ 174Hz + 417Hz	C	EXA PIECO D I K A G 靈の心と肉の心の間の葛藤、優柔不斷を解消し、魂の声に従わせる
⑩ 417Hz + 741Hz	B	嘘つきの状態から、本質と本音で生きられるように人生を導く
⑪ 285Hz + 528Hz	I	生命全般、鉱物、植物、どうぶつへのあいの神意の思いを拡大させる
⑫ 528Hz + 852Hz	L	精靈（微生物）、妖精（ソマチッド）との繋がりを強める
⑬ 396Hz + 528Hz	O	被害者意識を取り除き、人を責めるEGHO意識を改めさせる
⑭ 396Hz + 639Hz	N	前世、今世の人間関係、コミュニケーション全般の心の傷を癒す
⑮ 639Hz + 963Hz	G	SEPOUW 背後靈（守護靈、指導靈）とのいったいか 一體化を促し、直観力を高める

2025 年時点で、ソルフェジオ音叉同士の組み合わせ、ソルフェジオ音叉と惑星音叉の組み合わせの意味の教えているスクールは地球の地上世界にはまだ存在しません。何故なら、現代科学は周波数の組み合わせの実験を行っている機関があまり存在しないからです。

なので、この情報は、地上世界最先端の情報であり、靈界の奥義というレベルの内容になります。これは、地球の自然界（鉱物界、植物界、どうぶつ界）、人間界を蘇生するための情報になりますが、くれぐれも安易に外に公表しないようにしてください。



記号	奇經八脈	ソルフェジオ周波数	どのような感情が眠っているか
A	任脈	528Hz+639Hz	感情のコントロールが出来ない、低い自尊心、自己否定
B	帯脈	417Hz+741Hz	他責、依存心、慾求不満、慾望、対立
C	任脈	174Hz+417Hz	自信、無力感、頑固さ、誇り
D	陰維脈	417Hz+528Hz	心配、受け入れられない、見捨てられ感、非難
E	陰維脈	639Hz+741Hz	自分への怒り、失敗、喜びすぎ、苛立ち
F	帯脈	285Hz+396Hz	怒り全般、憎しみ、憤り、落胆
G	陽維脈	639Hz+963Hz	不安、焦燥、絶望、無力感、混乱、パニック
H	陽蹻脈	396Hz+417Hz	悲しみ全般、裏切り、蔑ろな扱い、悲痛、拒絶
I	督脈	285Hz+528Hz	最近のストレス、三ヶ月以内の生活習慣など
J	衝脈	174Hz+285Hz	慢性的ストレス、継続的な生活習慣
K	陰蹻脈	741Hz+852Hz	悲しみ、罪悪感、実らない愛、傷つきやすさ、無価値
L	陽蹻脈	528Hz+852Hz	罪悪感、嫌悪、神経質
M	陽維脈	852Hz+963Hz	決断力、実らない努力、決められない、創造性の欠如
N	陰蹻脈	396Hz+639Hz	緊張をとまなうストレス
O	衝脈	396Hz+528Hz	孤独、屈辱、心痛、対立、支援なし

基本的には、腸心マッピングで自分自身の「カラダの声 (潜在意識<sup>F I K</sup>)」を聴く、感じる、そしてそれ<sup>たいおう</sup>に対応したソルフェジオ音叉の組み合わせを耳元で鳴らしていくことで感情を解放していきます。



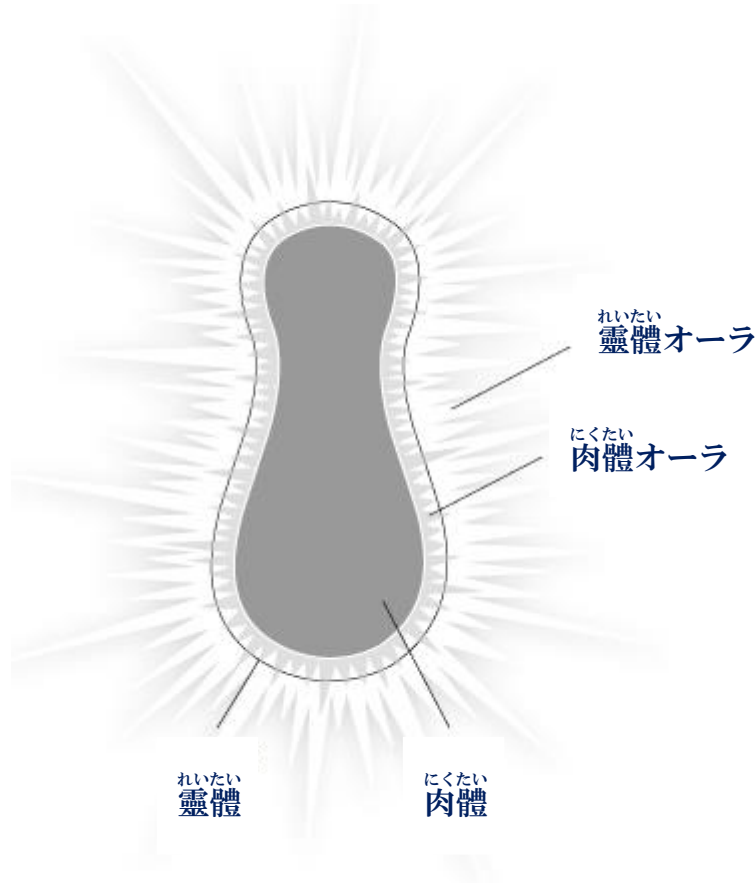
## ソルフェジオ音叉の基本的な使い方について



音叉の使い方、可能性は無限に近いほどあります。<sup>じんたい</sup>人體で自分自身の内側の世界を調律するという基本はもちろんですが、食物のエネルギーの調整、水のエネルギーの調整、空間のエネルギーの調整、その他あらゆる分野に<sup>おうよう</sup>應用が効きます。

植物の育成を始め、農業、ワイン生産に使うこともアメリカ、ニューメキシコ州にある<sup>アキュトニックス</sup>acutonics統合<sup>いがく</sup>醫學研究所ではしており、<sup>いりよう</sup>どうぶつ達への<sup>ツール</sup>治療にも取り入れられており、音叉という道具の使用は多岐に渡ります。

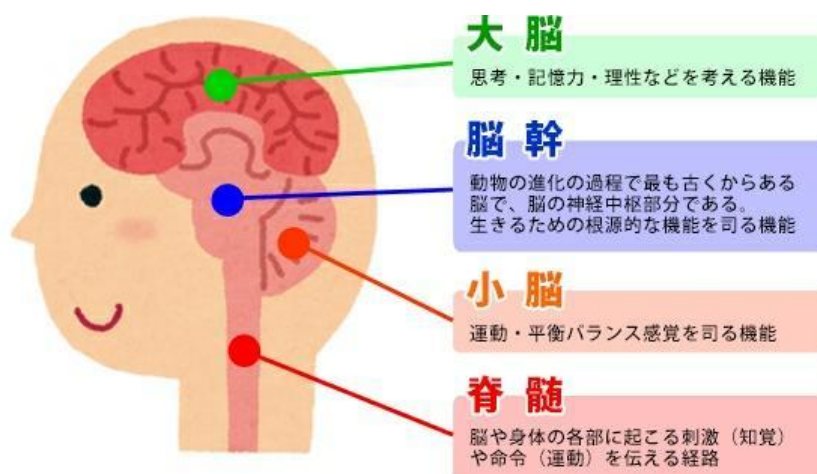
また、<sup>れいたい</sup>靈體のオーラ、<sup>にくたい</sup>肉體のオーラなどの「エネルギー層」へのアプローチが「フォークタイプ」の基本になり、「エネルギーフィールド」についての理論を知ることが大切です。しかし、最終的にヒーリングは感覚、直観による<sup>手</sup>プロト<sup>順</sup>コルというステージになり、理論を超えた世界になります。



人間は「<sup>れいたい</sup>霊」を根本に<sup>れいたい</sup>霊體と<sup>にくたい</sup>肉體の二重構造になっておりますが、もう少し補足すると  
「<sup>EXA PIECO</sup>霊の心、<sup>れいたい</sup>霊體、<sup>れいたい</sup>霊體オーラ」と「<sup>D I K A G</sup>肉の心、<sup>にくたい</sup>肉體、<sup>にくたい</sup>肉體オーラ」に分かれており、<sup>れいたい</sup>霊體オーラに働きかけるタイプを「エネルギーワーク」、<sup>にくたい</sup>肉體オーラに働きかけるタイプを「ボディーワーク」に分類します。

ソルフエジオ音叉は基本的に「エネルギーワーク」に属しますが、<sup>ホームトーン</sup>基音となる「128Hz」、  
「132Hz」、「136.1Hz」とソルフエジオ音叉を合わせて経絡、<sup>ツボ</sup>經穴にアプローチし、「ボディーワーク」のような使い方をすることも可能です。

音叉によるエネルギーワークの使い方、音叉を教えているスクールによって様々であり、  
統一された<sup>メソッド</sup>手法というのは現時点、地上世界には存在しません。ですが、デタラメにヒーリングをやればい<sup>れいたい</sup>霊體オーラと<sup>にくたい</sup>肉體オーラという「エネルギー層」への理解が  
施術の鍵になります。



ちなみに、スピリチュアリズムが明らかにした霊的真理から、ホリスティック健康学では、「心」を健康学の中心に、<sup>れいたい</sup>霊體の健康に必須なのが「睡眠の質」、<sup>にくたい</sup>肉體の健康に必須なのが「適度な運動」、<sup>ゆうたい</sup>幽體の健康学に必須なのが「少食」を基本とした「玄米菜食」と唱えております。そして、「心」を健康学の最重要に位置づけています。

その心は、心臓脳を通した<sup>EXA PIECO</sup>霊の心、大脳を通した<sup>D I K A G</sup>肉の心に分かれております。<sup>にくたい</sup>肉體の<sup>えいようそ</sup>栄養素は、太陽光線、<sup>こうせん</sup>食事、<sup>えいようそ</sup>水になりますが、心の<sup>えいようそ</sup>栄養素は「振 動」であり、<sup>パイブレーション</sup>振 動 は「音」、<sup>パイブレーション</sup>「色」、<sup>ひかり</sup>「言葉」、<sup>ひかり</sup>「文字」と種類がありますが、一番は「星々の音」が<sup>EXA PIECO</sup>霊の心の<sup>えいようそ</sup>栄養素なのは間違いありません。

基本的には、「ソルフェジオ音叉同士で和音を組み合わせる方法」が入門編の主流になりますが、音叉の扱いに慣れてきたならば「<sup>ホームトーン</sup>3つの基音と、ソルフェジオ音叉を組み合わせる方法」も後々可能になりますし、マスター編ならば「ソルフェジオ音叉と、惑星音叉を組み合わせる方法」も可能になります。

ソルフェジオ音叉の組み合わせは、「直観力」次第で無限大に等しいのです

## 飲食物にソルフェジオ音叉を使う

その中で、基本的になるべく習慣にしてほしいことの一つに、「**飲み物のエネルギーの調整**」が挙げられます。これらを個人レベルのみならず、家族でも共有することで、確実にエネルギー的<sup>へんか</sup>な変化を促していけるからです。



### 飲み物に 528Hz と 639Hz の音叉を使う

528Hz は、生物学者が傷付いた DNA を修復するのに用い、癌細胞が正常な細胞に戻るのも確認されている周波数です。

農薬、添加物、化学物質などの「農薬化」の害を 528Hz により軽減することも、そのことから可能だと推測できます。

※ソルフェジオ音叉は 15 パターン、どのような組み合わせでも構いません。細かい味の違いを感じてみてください

それと、様々な効果のある 639Hz と組み合わせることで、自然本来の振動波に戻すのを促します。

1 コップ、ペットボトルに、**直接音叉の柄を当てて、振動をダイレクトに伝える**

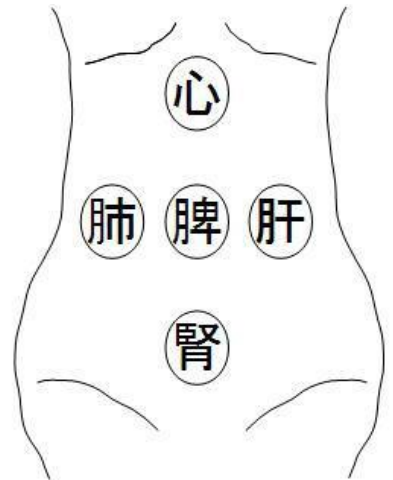
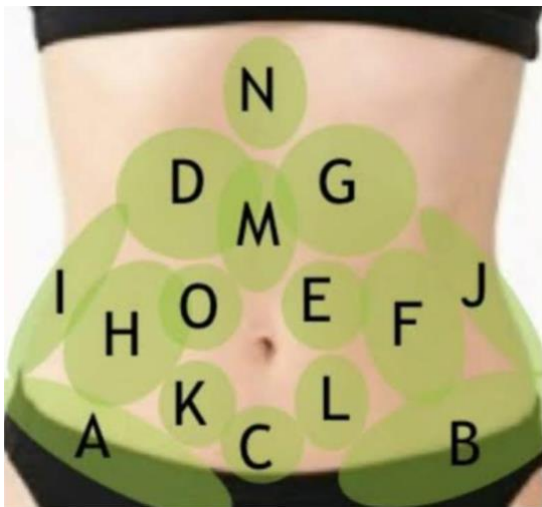
2 音叉の先端を飲み物に近づけて、「<sup>バイブレーション</sup>振動」を更に浸透させていく

3 振動波による味の違いを確かめる(※ソルフェジオ音叉を色々試すこと)

だいたい、**ワインや日本酒、コーヒーやハーブティー**は味の違いが皆さん分かります。水は、味の違いを感じる方が少ない傾向にあります。



## 腸心セラピーにおける感情のマッピング



### A 感情のコントロールが出来ない、低い自尊心、自己否定

自己否定に繋がる感情が溜まりやすい場所。[528Hz+639Hz](#) にて、自己否定から自己受容を促し、自分自身への赦しの感情の促進をすることで、自分のことが好きになっていき、より自分らしく振る舞えるようになります。

### B 他責、依存心、欲求不満、慾望、対立

依存心や他責に繋がる感情が溜まりやすい場所。[417Hz+741Hz](#) にて、自己犠牲や建前などで生きてきた傾向から、本音で生きることを促し、自立を促していくことで、他者を責める気持ちや依存心が薄れ、毎日のイライラが減っていきます。

### C 自信、無力感、頑固さ、誇り

アイデンティティーに直結する場所。ここは腎臓のエネルギーを<sup>ひかり</sup>に<sup>か</sup>変えるポイントであり、前世の記憶も有しています。自分に自信がなく、思いきった行動を起こせないといった人は、[174Hz+417Hz](#) にて、勇気、決断力を回復させ、自信を取り戻させ、開放させていくことで、もっと自信を持って生きていけるようになります。

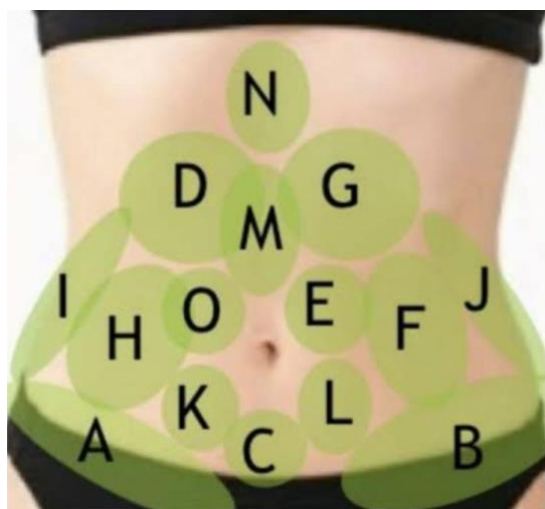
### D 心配、受け入れられない、見捨てられ感、非難

人から受け入れられなかった、愛されなかったという思いや、自分を否定された経験によるトラウマが溜まりやすい場所。[417Hz+528Hz](#) など思い込み、感情の執着から抜け出すことで、モヤモヤした気持ちが薄れ、精神面が安定し、行動を起こす氣力が戻ってきます。

### E 自分への怒り、失敗、喜びすぎ、苛立ち

自分に対する怒りの感情やトラウマが溜まりやすい場所。自分を許せない気持ちが強く、自分を罰しようとする傾向があります。[639Hz+741Hz](#) などで魂を統合していき、自由意識を拡大させ開放していくと、自由に好きなことが出来るようになります。

## 腸心セラピーにおける感情のマッピング



### F 怒り全般、憎しみ、憤り、落胆

怒りの感情やトラウマが溜まりやすい場所。他者への怒り、自己への怒りなど、すべての怒りが含まれます。[285Hz+396Hz](#)などで[過去世含む、いらぬ情報のクリアリング、カルマの浄化](#)で怒りを解放していくと、心が穏やかになっていきます。

### G 不安、焦燥、絶望、無力感、混乱、パニック

不安や焦燥に関わる感情が溜まりやすい場所。大きな失敗や、親から過剰に期待されて育ったなどのトラウマを抱えている場合も。[639Hz+963Hz](#)などで[内なる大いなる存在と繋げさせ、心の平安を感じさせる](#)ことで、失敗を恐れずチャレンジ出来るようになります。

### H 悲しみ全般、裏切り、蔑ろな扱い、悲痛、拒絶

悲しみの感情が溜まりやすい場所。自分の感情と向き合うのが得意ではない人が多く、死別、裏切り、失戀、大切なものを失った経験などのトラウマが潜んでいます。[396Hz+417Hz](#)で[無意識に残る怒りや悲しみなどのインナーチャイルド全般を浄化](#)することで、それらの経験を冷静に見つめることが可能になります。

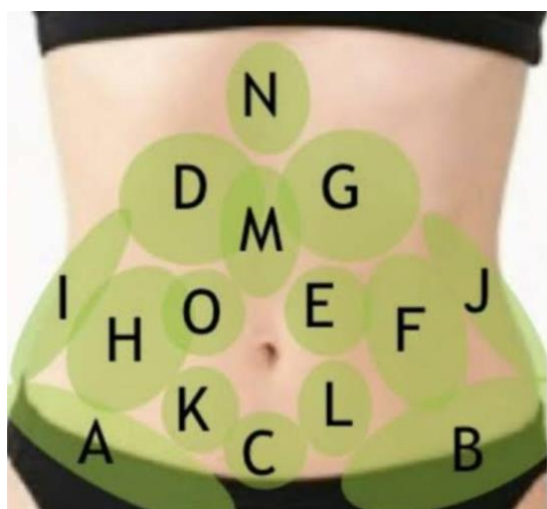
### I 最近のストレス、三ヶ月以内の生活習慣など

悪性の電磁波や音、食習慣などの乱れなどによる最近の無意識のストレスが溜まっている場所。[285Hz+528Hz](#)で[エネルギーを浄化し、DNAの修復を促すこと](#)によってそれらのストレスが解消し、気分やカラダが楽になっていきます。

### J 慢性的ストレス、継続的な生活習慣など

様々な原因での慢性的、長期的なストレスが溜まりやすい場所。[174Hz+285Hz](#)にて、[肉體と精神を同時に浄化し、エネルギーフィールドを整えること](#)により、日々の生活全般や人間関係でのストレスを感じるものが減り、心の疲労も解消していきます。

## 腸心セラピーにおける感情のマッピング



### K 悲しみ、罪悪感、実らない愛、傷つきやすさ、無価値

悲しみを伴う罪悪感の感情が溜まりやすい場所。自分より他人を優先し、苦しんでいる可能性があります。[741Hz+852Hz](#)などで自由意識に目覚め、神聖なる直感で生きることを促すことにより、自己犠牲しがちだった部分が解消されていきます。

### L 罪悪感、嫌悪、神経質

怒りを伴う罪悪感に関する感情が溜まりやすい場所。必要以上に自分を戒める傾向があります。[528Hz+852Hz](#)などで過去の囚われ、しがらみから解放されていき、母なる地球の神意を感じることにより、昔のことを後悔することが減り、今を大切にできるようになっていきます。

### M 決断力、実らない努力、決められない、創造性の欠如

決断力の欠如に繋がる感情が溜まりやすい場所。[852Hz+963Hz](#)などで宇宙や高次との繋がりを強化し開放していくことで、本来の自分自身への扉(ゲート)が開き、意志や思考が明確になり、決断力がついてきます。

### N 緊張をとまなうストレス

緊張によるストレスが溜まりやすい場所で、プレッシャーに弱い人などが反応します。[396Hz+639Hz](#)などで緊張をほぐすことで、心身ともに非常にリラックスした状態でいることが可能になり、今の瞬間を大切に生きられるようになっていきます。受験、試合、大事な仕事の場面で、本来の自分の力を発揮できることにも繋がります。

### O 孤独、屈辱、心痛、対立、支援なし

被害者意識が溜まりやすい場所。[396Hz+528Hz](#)で完全なる受容を促すことで、孤独感を癒すことで、他者のコントロールから脱却し、自分の人生に責任が持てるようになり、周りに影響されにくくなり、自由に自分の感情を表現したり行動できるようにになっていきます。



## 第六章

FUNEKON

### 霊 優位の努力、眞のいのり

スピリチュアリズムの信仰実践の中核

SEPOUW

眞のいのりは背後霊との関係を深め

ブループリント

ガイダンス

人生の青写真の生き方への導きを得る手段

「調和の実践」を通して「霊的成長」をする





## アメリカインディアンの神聖なる<sup>いの</sup>禱り



アメリカンインディアンの民族であるスー族（ラコタ族）の言語に「<sup>ミタクエ オヤシン</sup>Mitakuye Oyasin」という言葉があります。この言葉の意味は、わたし達はみんな繋がっているということで、山、空、どうぶつ達、人、水、万物が関わり合って成り立っているという意味です。

地球上のあらゆる生命、宇宙すべてがお互いに繋がっているという思想です

地球人類は、普段の生活と直接関わっていないものを忘れがちですが、見えない声たちに耳を傾けることが大切です。

万物に宿る微生物は、<sup>ひかり</sup>光、空気、土、水という生命素の元であり、<sup>たいれい</sup>大霊に最も近いものですが、土の中にすむ微生物、ミミズやモグラは土作りに役立ってくれ、空の鳥、ミツバチや大地に住むリス、イノシシ、クマ達は、森や植物から自然界の恵みを受け取ると同時に、種子や花粉を運び、代謝物を土地に与えることで互いに支えています。

アメリカインディアンのナホバ族は、<sup>いの</sup>禱りや様々な祭祀が多く、ホピ族にとって「<sup>いの</sup>禱り」とは食べることもより大切であり、日々の<sup>いの</sup>禱り、豊作、雨乞いの<sup>いの</sup>禱り、太陽、星々、月の満ち欠けに合わせての多くの日々の儀式が生活の原点です。

また、ネイティブの人達は、「私」という固有名詞を使いません。西洋の文化というのは、「私が」という、<sup>エゴ</sup>EGHOを全面に出します。英語で「<sup>アイ</sup>I」という主語がないと成り立たないような感じの文化にまで、<sup>エゴ</sup>EGHOを増大させてしまっています。しかし、本来は「私」とか「<sup>アイ</sup>I」とかは自然の仕組みに反しています。

そして、本来の日本語は「私」という主語がなく、「自然が」、「宇宙が」という言葉が成り立ちます。ネイティブの人達のルーツは牡牛座やカシオペア座など、日本人のルーツと共通しており、「私」といわず、常に「我々」という単語を使い、大地、空、自分の身の回りのものさえ<sup>たいれい</sup>大霊の所有物であり、「すべてはみんなのもので、人間は何一つ所有していない」という思想が根底にあります。

そして、必要なものは、必要な人のところに必要な時だけあればいいと考えており、何か足りない人がいれば仲間はもちろん、知らない人にさえも惜しみなく何でも分け与え、困っている人がいれば、皆で助け合います。

「分かち合うことは、創造主と分かち合うこととおなじ」だという、自然法則に適った思想が残されています。ネイティブの<sup>でんとうてき</sup>伝統的セレモニーには、しっかりと自然法則に基づいたスピリットが継承されています。

季節ごとに巡る日本の祭りのようなセレモニーに加えて、祖先、太陽、母なる地球、月、星、大地、水、石、作物などの大自然や創造主への感謝の<sup>いの</sup>禱りを基本として、大地の浄化、人類平和への<sup>いの</sup>禱り、多くの苦しんでいる者、病んでいる者への<sup>いの</sup>禱りを頻繁に捧げています。

ナホバのシャーマンは、「部族の一人の病氣は一族の病氣であり、<sup>しゃかい</sup>社会、環境、地球の病氣と全て繋がっていて、自然と<sup>いったい</sup>一體になっていないことに根源がある」と述べており、日々長い時間、<sup>いの</sup>禱りをしております。

飢餓や命を脅かされる苦しみを知る人達は、今日も生きる糧が与えられ、命が繋がっていること、素晴らしい一日をいただいたということに日々感謝して<sup>いの</sup>禱るのです。そこに、<sup>いの</sup>禱りという本質があります。

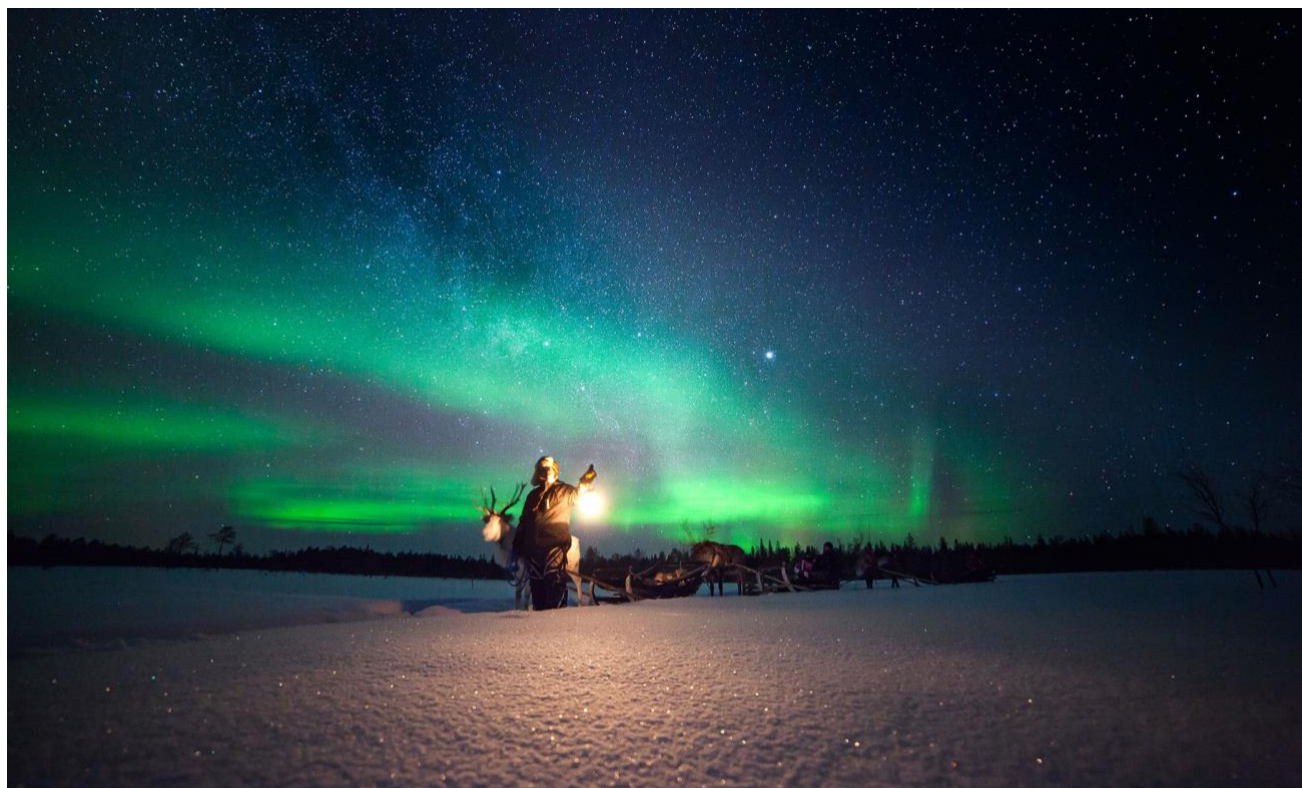
自分が生まれる前に決めてきた、この地球という<sup>てんたい</sup>天體を少しでもより良い世界にすることを實現させることをやらずに終え、死後に後悔する生き方はしたくありません。そのためにも、日々の<sup>いの</sup>禱りを通した「生命の調律」<sup>いのち</sup>（いのち）をすることは誰しも必要であり、人間は<sup>いの</sup>禱りを通して<sup>霊</sup>FUNEKON優位という眞の生き方に向かうのです

生命のあるところには必ず霊が存在します。なぜならば霊とは生命そのものであり、生命とはすなわち霊だからです。最も原始的なものから最高の<sup>そしきたい</sup>組織體へ、つまり單純なものから複雑なものに至るあらゆる發達過程と生命形態を通じて霊が顯現していると言えます。

『シルバーバーチの靈訓（八）』 p. 44



## 真の「いのり」のことを「<sup>いのち</sup>生命の調律」という



3000 年前に地上世界にいたインディアン<sup>の</sup>の古代靈シルバーバーチも、靈界通信を通して同様のことを述べており、「Mitakuye Oyasin<sup>ミタクエ オヤシン</sup>」という思想はスピリチュアリズムが明らかにした靈的真理と一致しています。

そして、アメリカインディアン<sup>の</sup>の民族は「<sup>いの</sup>禱り」とは「食事」よりも大切であることが一番のポイントであり、日々の<sup>いの</sup>禱り、豊作、雨乞いの<sup>いの</sup>禱り、太陽、星々、月の満ち欠けに合わせての多くの日々の儀式が生活の原点です。

そして、「分かち合うことは、創造主と分かち合うこととおなじ」だという、<sup>たいれい</sup>大靈、自然法則への感謝という本質をアメリカインディアンは突いています。この分かち合いのスピリットを取り戻すために、日々<sup>たいれい</sup>大靈という創造主に感謝を捧げ、万物を尊び、人類すべてが<sup>たいれい</sup>大靈の子どもという思想が行き渡ることが「靈的真理の普及」の真髄とも言えます。



シルバーバーチが言うように「<sup>いのち</sup>霊が<sup>いのち</sup>生命であり、生命が<sup>いのち</sup>霊である」という原則に従うならば  
眞の<sup>いのち</sup>禱りとは「<sup>いのち</sup>生命の調律」と表現するのが的確でしょう。<sup>いのち</sup>生命の調律は、ひとつひとつの  
物事を丁寧に選択しなおし、日々の暮らしを大切にすることが基本です。

## 【<sup>いのち</sup>日々の生命の調律の要約】

### ① 「<sup>大</sup>FUGE<sup>霊</sup>HUKON」の「<sup>自</sup>FUGE<sup>自然</sup>HEKIN」に従って生きること

わたし達を支え<sup>つづ</sup>續けてくれている、生命の創造主である<sup>たいれい</sup>大霊、それが生み出した自然法則の  
素晴らしさ、万物の<sup>いのち</sup>生命を尊び、感謝し、敬うこと

### ② <sup>霊</sup>FUNEKON、<sup>霊</sup>EXA <sup>心</sup>PIECOで判断する力を養うこと

物事すべての判断基準を、<sup>たいれい</sup>大霊と自然法則に適っているかどうか置き、情報化<sup>しゃかい</sup>社会という  
名の洗脳<sup>しゃかい</sup>社会の溢れる情報誘導に惑わされずに、<sup>EXA</sup>霊の<sup>PIECO</sup>心で日々の暮らしを選択し暮らすこと

### ③ 星々の音によって様々な歪みを調律できることを知り、活用すること

<sup>たいれい</sup>大霊という大宇宙と、大宇宙の一部であるミニチュアの<sup>パイブレーション</sup>小宇宙である人間は、その宇宙に満  
ちている「<sup>いのち</sup>振動」によって「<sup>いのち</sup>生命の調律」が可能であること。宇宙と<sup>ひと</sup>霊止、<sup>たいれい</sup>大霊と万物  
を繋げるのは「<sup>いのち</sup>生命の音」であることを知ること

### ④ 「調和の實踐」を通した「<sup>SEP</sup>霊的<sup>OUW</sup>成長」をするため、<sup>SEP</sup>背後<sup>OUW</sup>霊の<sup>ガイダンス</sup>導きを得るために<sup>いのち</sup>禱る

本物のインスピレーションは、<sup>SEP</sup>霊と<sup>OUW</sup>霊のコミュニケーションであり、<sup>SEP</sup>背後<sup>OUW</sup>霊と二人三脚で問  
題を解決するためのヒントを得るために<sup>いのち</sup>生命の調律を欠かさないこと

### ⑤ 心を正し、<sup>ルーティン</sup>自然法則に適った生活習慣を身につける

<sup>DIKAG</sup>肉の心優位から脱却し、健康の原則である「食事」、「運動」、「休息」のバランスを保つ。特  
に重要なのは、どうぶつ達を犠牲にしない穀物、菜食に切り替えること

EXA PIECO

## 霊の心優位で生きる大切さを理解しよう

スピリチュアリズムの霊的実践論の最初の実践項目である「<sup>霊</sup>FUNEKON優位」、<sup>霊の心</sup>「EXA PIECO 優位」で生きること、そのための「<sup>いのち</sup>禱り」と「<sup>いのち</sup>生命の調律」は同じ意味であり、音叉によるセルフヒーリングは「<sup>いのち</sup>生命の調律」という名の「<sup>いのち</sup>禱り」です。

宇宙語で調律を「<sup>トゥニング</sup>TUNING」と発音しますが、音叉は英語で「<sup>チューニング フォーク</sup>TUNING FORK」であり、音が違うだけで文字は一緒です。生命は英語で「<sup>ライフ</sup>LIFE」であり、「<sup>ライフ</sup>生命」を「<sup>チューニング</sup>調律」するのが音叉によるセルフヒーリングの本質です。

その<sup>いのち</sup>生命は<sup>いのち</sup>霊であり、<sup>いのち</sup>霊が<sup>いのち</sup>生命である、なので「<sup>D I K A G</sup>肉の心優位から、<sup>EXA PIECO</sup>霊の心優位に調律する」という意味も音叉での日々の調律にはあります。この本質を理解するだけでも、なぜ日々の<sup>いのち</sup>禱りが大切なのが分かります。

日々の生活を「<sup>EXA PIECO</sup>霊の心優位」の状態と「<sup>D I K A G</sup>肉の心優位」の状態を比較した場合、<sup>EXA PIECO</sup>霊の心優位にする大切さが更に理解できます。心の状態はそのまま人格にも反映されます。

「霊主肉従」と「肉主霊従」の相関関係				
パターン <sup>はんのう</sup> 反應	<sup>EXA PIECO</sup> 霊の心優位の場合	対義語	<sup>D I K A G</sup> 肉の心優位の場合	補足説明
心境	リラックス 静寂	⇔	ストレス 緊張	ストレス <sup>EXA PIECO</sup> 緊張は <sup>EXA PIECO</sup> 霊の心とかけ離れた心境
意識の状態	感謝	⇔	エゴ	感謝とは、 <sup>EXA PIECO</sup> 霊、 <sup>EXA PIECO</sup> 霊の心優位の状態の反映である
行動パターン	積極的	⇔	消極的	消極的な人間は人生を台無しにする
実践パターン	素直	⇔	頑固	頑固者は、人のアドバイスを取り入れない
感情パターン	信頼（安心感）	⇔	疑い（恐怖心）	恐怖心は人類最大の敵である
思考パターン	<sup>シンプル</sup> 単純明確	⇔	<sup>カオス</sup> 複雑怪奇	<sup>D I K A G</sup> 肉の心に支配された人間の思考は意味不明
精神パターン	深い	⇔	浅い	<sup>D I K A G</sup> 肉の心に支配されてる人間の言動は薄っぺらい
称賛された時	謙虚	⇔	傲慢	傲慢な人間とは、自分の力を過信している状態

通常、人間は子どもから肉體にくたいの成長とともに靈的成長も促され、やがて靈的に独り立ちして直接、社會しゃかいで積極的に活動し、その中で純粹なる利他、奉仕の活動を通して靈的成長をしていき、大靈たいれいに近づいていきます。これが「靈EXA PIECOの心優位」になっていた場合の成長のプロセスです。

人間は靈優位、靈EXA PIECOの心優位による「自律」にともなって、心の拠りどころと考え方の中心を、地上世界の両親や家族、この世の人間から「大靈たいれい」に移行させるようになります。「大靈たいれい」を中心とした意識世界を形成するようになります。自律とは「自己コントロール」のことであり、自己コントロールをすることが靈優位の本質です。

こうして靈的に自律していくには、大靈たいれいへの禱いのりはきわめて重要な要素となります。人間は禱いのりを通して、大靈たいれいと自然法則を通して交わりを持ち、その関係を深めることになるからです。禱いのりとは、大靈たいれいに近づこうとする靈EXA PIECOの心の願望なのです。

この事實は「禱いのりによって大靈たいれいと触れ合うすべを知らない人間は、いつまでも靈的に自律を果たすことができず、靈的大人になれない」ということを意味しています。

それは、現代地球文化の問題である「精神の墜落、退廃」という、「利己主義者の増大」、「物質中心主義の横行」からも明らかです。肉の心D I K A Gの最も低い精神状態は「依存」と「甘え」という幼児の精神状態です。靈EXA PIECOの心の最も高い精神状態は「自律」と「厳しさ」という大人の精神状態です。

また、禱いのりは、靈EXA PIECOの心が地球上で「調和」という「理想」の「成就」に向けての「決心」であり、その人間の理想を求める「意志」と「決心」の強さが示されます。その振動バイブレーションによって靈的世界からの協力者（イエス、高級天使、高級靈、天使、指導靈、守護靈）を引き寄せます。

いの  
禱りは、靈的世界からの<sup>ガイダンス</sup>導きを受け取る手段



いの  
禱りは、靈界からわたし達地上人を指導し援助しようと待機している多くの靈達との靈的繋がりを強化します。靈的世界と地上世界の繋がりは、禱れば禱るほど強化され、交われば交わるほど親密度を増すことになります。こうした禱りの「靈的効用」を知れば、誰もが禱りの重要性を認めざるをえなくなります。

靈的世界の存在からすれば、最も近づきやすい地上世界の存在とは、日頃から多くいの  
禱り、靈的交わりを重ねている人間です。こうした地上人には、靈界人は必要に<sup>おう</sup>應じて救いと導きの手を差し伸べることができます。そして最終的に「<sup>サービス</sup>奉仕」というものが、「靈性を進化させる鍵」になります。

いの  
禱りの本質は、人のためのサービスという行爲へ向けて魂を整えることです。より高度なエネルギーと調和するための手段です。

『シルバーバーチは語る』 p.133

<sup>サービス</sup>  
無償の奉仕の實踐、これが地上世界を救い、自分自身をも救う生き方なのです



しかし、地上世界の肉の心で考えた奉仕と、靈的世界の靈の心を基準にした奉仕は次元がまったく異なります。この奉仕の方法というのが、「靈的眞理」に沿った「靈的視野」に基づいた判断か、「靈の心」に基づいた「直観」による判断でなければ、結局、奉仕の大半は失敗に終わります。これは大靈の自然法則の要点の一つになります。

いの  
禱りの言葉はたった一言しかありません。「何とぞわたしを人のために役立てる方法を教え給え」——これです。

たいれい  
「大靈のため、そして大靈の子等のために一身を捧げたい」——この願いより崇高なもの、これ以上の神意、これに勝る宗教、これより深い哲学はありません。

『シルバーバーチは語る』 p.134

誠心誠意、魂の底からの禱り、神の御心と一體となり、神の道具として有意義な存在でありたいと願う心は、その波動そのものが、その人を神の僕としてより相應しく、そしてより逞しくします。禱るということ、眞實の自分を顯現すること、心を開くこと、これが背後靈との一體化を促進するのです。

『シルバーバーチの靈訓（十二）』 p.124

靈的世界の奉仕とは、「靈的成長」であり、眞の幸福、眞の救済も「靈的成長」であり、無償の奉仕、滅私奉公の心が地上世界を救い、自分自身をも救うのです。「Mitakuye Oyasin」の思想、地球上のあらゆる生命、宇宙すべてがお互いに繋がっているという思想は、人に施したことは自分自身に必ず返ってくるということを表しています。だからこそ、人の役に立つ方法を知るために古代の人々は日々、「禱り」を大切にしていました。

## 人の役に立つとは、人の靈性の進化のために役に立つことが本質

人生で一番大切なことは「靈的成長」であり、靈的成長は「DEVIKの實踐」を通してでしか果たされません。しかし、眞の意味でDEVIKを實踐している地球の地上世界の人間は殆どいません。

なぜなら、眞のDEVIKを實踐するには「EXA PIECO優位」になった状態でDEVIKを實踐する必要があるからです。DEVIKとは宇宙語の一つですが、DEVIKの眞の意味とは「靈的成長に繋がるサポート」を意味します。

利他、奉仕、分かち合い、協調關係、平和、これらはすべてDEVIKの意味に含まれます。人生とはDEVIKを通して靈性を進化させていく、これが神の自然法則です。そのDEVIKをするためには、日常すべてを「EXA PIECO優位」で生きることが必須条件になります。

人間は、「FUNEKON」という「FUGEHUKON」の分靈で成り立っており、靈的成長とは「大靈の分靈が成長し神聖化していくこと」を意味しています。要するに、大靈に近づいていくことが靈的成長の意味なのです。

これが禱りをする最大の理由です。その答えは「靈性の進化」というひと言で片付きます。靈的成長をしていなければ、生きているとは言えません。禱りとは「調和」を實踐するために必要な「魂（EXA PIECO）の願い」です。

眞の禱りとは、EXA PIECOの靈の心優位で「調和を實踐することでの靈性の進化」であり、地上世界の人間の間違った禱りとは、肉の心優位の願望による「不調和を實踐することでの靈性の退化」です。禱りは地球人類への無償の利他、奉仕を實踐するための準備運動であり、それが靈性を高めるための「日々の心構え」の確立なのです。

そして、忘れてならないのが、禱<sup>いの</sup>りとは「DEVIK」<sup>デヴィック</sup>の実践を通した靈性の進化のためにやる日々の心の在り方の調律だということです。地球にはDEVIK<sup>デヴィック</sup>の類似語がありません。ですが、対義語ならば沢山あります。

DEVIK <sup>デヴィック</sup> 、サポートとヘルプの違いについて				
パターン <sup>はんのう</sup> 反応	EXA PIECO 靈の心優位の場合	対義語	DIKAG 肉の心優位の場合	補足説明
原点	直観、閃き	⇔	戦略、策略	殆どの人間が顯在意識で戦略を練ってから行動
行動	自由、アドリブ	⇔	支配、マニュアル	戦略を練る理由は、思い通りに支配したいから
思想	分かち合い	⇔	奪い合い	現代地球文化は奪い合いの文化になっている
対話	意見交換	⇔	主義主張	DIKAG 肉の心優位でなければ、相手を知ろうと努力する
印象	改革、 <sup>へんかく</sup> 變革	⇔	現状維持	現状を壊されることを保守派は極端に嫌う
現場	臨機 <sup>おうへん</sup> 應變	⇔	融通が利かない	有難と無難で、殆どの人間が無難を選択する
思考	冷徹	⇔	親切	冷徹は理性、親切は感情、人間は感情を優先する
根本思想	天上天下	⇔	唯我独尊	自分を唯一無二と勘違いした人間は愚か極まる
協調関係	チームプレー	⇔	個人プレー	チームプレーが出来ない人間の音は雑音である
優先順位	相手の立場	⇔	自分の立場	自分の立場しか考えない人間になるな

「素晴らしい情報を工夫<sup>つた</sup>して伝える」、サポートの原点、利他、奉仕の原点である直観や閃きを繰り返しキャッチしたら、その情報を現代地球文化、地球人類がどのように受け止めてくれて、どのように実際に氣づいて還現して、そして調和のとれる方向に向かってくれるかを工夫しなければ靈的成長には繋がりません。

しかし、地上世界の人間は「如何に人間にとって都合良く便利」かが何事に置いても基準になっています。自然法則に適って調和がとれて、尚且つ人間にも役立つ、そういう氣づきを起こす具現、還現することが創造です。その工夫、これが重要なのですが、この工夫という言葉は地球の言葉にはありません。

調和の實踐は、<sup>EXA PIECO</sup> 靈の心優位による<sup>SEPOUW</sup> 背後靈との「インスピレーション」による二人三脚に基づいた、他人の靈性の進化に繋がるサポートをさせていただくことが原点です。そして、サポートとは「ヒント」であり、氣づきのチャンスを奪う行為が「答えを教える」という行為です。

しかし、人間がとにかく知りたがるのは「答え」です。この傾向がそもそもの間違えを生んでいます。世の中に溢れている自己啓発書は「方法論」しか書かれていませんが、それがそもそもビジネスとして成立するのは、人間が性急に<sup>せっから</sup>「方法論」を知りたがるからです。

しかし、自己啓発書を読んで生き方を新生させている人間は殆どいません。「やり方」ばかり語っても、「心の在り方」が伴ってなければ意味がないからです。そもそも人の靈的向上に繋がるサポートにマニュアルなど存在しません。

常に<sup>SEPOUW</sup> 背後靈、自分、他人の「直観（<sup>SEPOUW</sup> 背後靈）、アクション（自分）、リアクション（他人）」による即興演奏」だからです。事前に策を練って、相手を思い通りにコントロールしようとしても、大概の作戦は失敗に終わる理由です。

#### 靈的眞理普及、相手の靈性の進化のためのサポートの原則

- ① <sup>SEPOUW</sup> 背後靈のメッセージをインスピレーションで受け取る（リラックスが条件）
- ② とにかく自己流にアレンジしないで工夫して実行してみる（素直、決心が条件）
- ③ 相手が何かしらのリアクションを起こす（直観、感覚を駆使すること）

<sup>デヴィック</sup> DEVIKは「<sup>SEPOUW</sup> 背後靈への道具意識」、<sup>タイミング</sup>「時期の来た人のみ<sup>デヴィック</sup> DEVIKする」、「コミュニケーション能力の向上」という理由がこれでお分かりになるはずです。



## 正しい動機での「いのり」が眞のスピリチュアル能力を開花させる



日々の<sup>いの</sup>禱り、<sup>いのち</sup>生命の調律を毎日の習慣にすることで、<sup>SEPOUW</sup>背後靈の存在を正しく感じる事が段々可能になっていきます。靈的眞理と<sup>いのち</sup>生命の調律のセットにより、本來は謙虚になり、余分な緊張をしたり自力主義に陥らないようになります。

もしも自力主義になるとしたら、それは靈的無知ゆえでしょう。靈的世界の存在のサポートを信じてない未熟な精神も関係してくるでしょう。それほど靈的世界からの協力者（イエス、高級天使、高級靈、天使、指導靈、守護靈）のサポートは絶大です。背後の见えない存在たちの導きを信じ委ねることで心の底から安心し、ゆったりとリラックスして人生を歩めるようになります。

自分をよりいっそう役立てたいという<sup>しんし</sup>眞摯な願いから、改めるべき自己の欠点、克服すべき弱点、超えるべき限界を見つめるための<sup>いの</sup>禱りであれば、その時の高められた波長を通して靈的世界から力と励ましと決意を授かり、<sup>いの</sup>禱りが本來の効用を発揮したことになります。

あなた方を悩ます全ての問題と困難に対して、正直に、正々堂々と、真正面から取り組んだとき——解決のためにありたけの能力を駆使して、しかもなお力が及ばないと悟ったとき、その時こそ、何らかの力、自分より大きな力をもつ存在に対して、問題解決のための<sup>ひかり</sup>光を求めて<sup>いの</sup>禱る資格ができたと言えましょう。

『古代靈シルバーバーチ 不滅の眞理』（ハート出版）p.152

わたし達は<sup>D I K A G</sup>顕在意識で本気で調和と<sup>あい</sup>神意に向かう靈優位の決心、利他、奉仕の實行をしている限り、必ず見えない存在たちからサポートされます。そのサポートは「直観」という形の靈と靈の「テレパシー通信」に従うことで強化されていきます。

すべては「<sup>バイブレーション</sup>振動」であり、「音」はあらゆる時代、あらゆる<sup>くに</sup>國の、あらゆる民族の文化において、<sup>いの</sup>禱り、<sup>れいはい</sup>禱拝、賛美として、聖なる宇宙と繋がるために使われていました。古代人は「音」を通して靈的世界と繋がることを直観的に理解していました。

そして<sup>いの</sup>禱りが正しく結果になるか、結果が出ないかは、<sup>いの</sup>禱りの「動機」と「靈格」によって決まります。靈格の高い人は「無私無欲」で奉仕性に富み、常に地球人類の幸福を優先して求めます。そうした人は、自分自身の利益を求めるような願いごとはしません。

物質的な利益を求める利己的な願い事を決して靈格の高い人間はしません。靈的世界の高級靈と同じように、より多くの人々の靈的成長による眞の幸福を眞っ先に願います。そうした<sup>いの</sup>禱りによって靈的世界から導いている存在達との関係が密接になり、さらなる援助がもたらされるようになります。これが、正しい動機、正しい心構えでの<sup>いの</sup>禱りです。

そして靈的世界の人々の道具として、より多くの奉仕のチャンスが与えられるようになります。それを決心、實行するにつれ「眞のスピリチュアル能力」が発現することになります。

## 日々の生命の調律をすることでの効果、恩恵

世の中の大半の霊能者、ヒーラーは、個人的な範囲で「サイキック能力」を発揮しています。サイキック能力は誰しもが潜在的に備えている能力であり、特別な能力ではありません。そして、サイキック能力では次元の低い仕事しかできません。

多くの霊的世界の存在達の援助、協力を得ないかぎり、次元の高い仕事をすることは不可能です。そうした霊的世界の高級霊達の援助を受ける能力が「スピリチュアル能力」です。利他的で真摯な<sup>いの</sup>禱りは、霊的世界の人々を惹きつけ、莫大な援助を引き出すことになります。

正しい<sup>いの</sup>禱りによって霊的世界から導いている存在との関係が密接になり、さらなる援助がもたらされるようになる、その結果、一人の人間のサイキック能力による活動とは比べものにならない、何十倍～何百倍もの地上世界への貢献が可能となります。

また、<sup>いの</sup>禱りの直接的な効用は「霊的エネルギーを取り入れて霊的意識のレベルを引き上げ、より神に近づくことができる」という言葉に集約されます。シルバーバーチは<sup>いの</sup>禱りをこのように述べている時がありました。

「<sup>いの</sup>禱りとは本来、波長を普段より高めるための霊的な行為です」

『シルバーバーチの霊訓 霊的新時代の到来』p.173

波長とは「<sup>バイブレーション</sup>振動」のことを表し、想い、音、言葉も「<sup>バイブレーション</sup>振動」です。<sup>いの</sup>禱りとは霊的エネルギー、生命エネルギーを<sup>じんたい</sup>人体に取り入れ、<sup>D I K A G E X A P I E C O</sup>顕在意識を霊の心優位にすることです。人々は生命の調律によって地上人は、大気中から霊的エネルギーを補充して「<sup>いのち</sup>霊主肉従」の状態をつくり、霊的存在としての基本ラインに立つことができるようになります。

そして靈的エネルギー、生命エネルギーが取り入れられることで「FUNEKON」、「EXA PIECO」が活性化し、「調和（利他、奉仕）の實踐」をする意欲が湧いてくるようになります。副産物として、病氣、不快、異常が回復し、全身に活力が生まれてきます。

いのちの禱りは、靈的實踐論である「EXA PIECO 靈の心優位の努力」、「調和（DEVICK、神意、奉仕、利他、分かち合い、協調）の實踐」、「靈的眞理に適った苦しみへの正しい対処」、自然法則に適った正しい生活習慣を身につける」という靈的人生の實踐を推し進めることになります。

この意味でいのちの禱りは、靈性の進化を目的とする「スピリチュアルジャーニー 靈的巡礼の旅」の人生をスムーズに歩むための強力な補助手段です。そして正しいいのちの禱りは、「靈的視野」「犠牲精神」「道具意識」というスピリチュアリズム精神を深めることにもなります。

いのちの禱りは人間の靈的成長にとってきわめて重要な靈的手段です。高級靈インペレーターは「禱りというものがどれほど豊かな靈的恵みをもたらすかを知れば、あなたもより多くいのちの禱りになることでしょう」（『靈訓（完訳・上）』p.166）と述べています。

そういう人は、身は地上にありながら、きわめて高い靈性を發揮します。何となれば、日頃から靈と交わることを知り、靈的營養を攝取しつつあるからです。彼らには、物的生活に埋もれている者には閉ざされている靈的眞理の祕密の扉が開かれていることになります。そして不斷のいのちの禱りによって、少なくとも、地上生活においては苦しみも悲しみも魂の成長にとって必要不可欠であることを悟りつつ、なおそれに超然とした生活を送ることができるのです。

『靈訓（完訳・上）』p.169



## 人間とはそもそもインスピレーションの媒体である

そもそも「人間」とはどのような存在なのでしょう？地上世界の様々な霊界通信の情報を精査した結果、霊的世界の存在を「<sup>ひと</sup>霊止」、地上世界の存在を「人間」と定義しますが、ここである存在の言葉の一部を引用します。

知的生命体「 <sup>せいめいたい</sup> MANAKA」の宇宙観	
人間とは？	宇宙の入れ籠である
人とは？	宇宙エネルギーそのものである
<sup>しんたい</sup> 身体とは？	<sup>てんたい</sup> 天体の神殿である
女性とは？	創造主である
男性とは？	神である
太陽とは？	心の反映である
宇宙とは？	あなたのすべての振動である
宇宙の本質とは？	あなたの内側にあるすべての世界である
宇宙意識とは？	<sup>あい</sup> 神意の響き合いである
<sup>あい</sup> 神意とは？	すべてである
命とは？	星からの贈り物である
魂とは？	星の生みの元である

この情報は、スピリチュアリズムが明らかにした霊的真理と一致している情報が多くあります。この宇宙観では、宇宙を「<sup>バイブレーション</sup>振動」といい、神意を「<sup>あい</sup>すべて」といい、宇宙意識を「<sup>あい</sup>神意の<sup>バイブレーション</sup>振動の響き合い」と述べていることが大きなポイントです。

そして<sup>ひと</sup>霊止と人間を明確に区別していることもポイントです。ここで、シルバーバーチは人間とは何かの答えを述べている箇所をピックアップします。

人間とは何か。人間とは所詮はインスピレーションの<sup>ばいたい</sup>媒体にすぎません。地上で崇められているいかに立派な人物も、神がその叡智のうち、人間にとって適切とみたごくわずかな一部を<sup>でんたつ</sup>傳達するための道具にすぎません。そのなすところのものは、偉大なるものも、氣高きものもすべて<sup>しもべ</sup>守護靈の影響でないものはありません。

靈媒が特別の能力ゆえに選ばれることは事実ですが、その能力とて、取り立てて崇めべき性質のものではありません。ある啓示のための適切な道具として選ばれ、その啓示が託されたというにすぎません。靈媒自身の功績とすべきものではないということです。また眞に忠實な<sup>しもべ</sup>僕としての心得のある者ならば、そうは思わないものです。

ただの<sup>ばいたい</sup>媒体、神の啓示の<sup>えいよ</sup>榮譽ある道具に過ぎません。その<sup>えいよ</sup>榮譽も靈界側から見ての<sup>えいよ</sup>榮譽であり、世俗的な意味での<sup>えいよ</sup>榮譽ではありません。神の<sup>しもべ</sup>僕——神のメッセージの受け皿として選ばれたという意味において、われわれの側にとって有難い存在ということです。

その任務を<sup>ちゅうじつ</sup>忠實に遂行するにつれて靈媒も<sup>おんけい</sup>恩恵を受け、地上を去ってのち、こんどは自分が神のメッセンジャーとして地上の靈媒にメッセージを届ける役目にふさわしい人物として成長していきます。その受け皿は<sup>ほうこう</sup>おのずと氣高い芳香に満ちております。

その神の<sup>しもべ</sup>僕として仕えれば仕えるほど、その氣高さを増していきます。神の眞理という名の宝石箱として、人間と天使の双方から敬意を受けるに足る存在となつてまいります。

『シルバーバーチの靈訓（十一）』 p.39～40

シルバーバーチは、人間とは「インスピレーションを受け取る<sup>ばいたい</sup>媒体」と斷言しています。これは、靈的世界が<sup>ひと</sup>靈止であり「メッセンジャー」、地上世界が人間であり「實踐者」という關係性をそのまま表している的確な表現です。

人生の青写真に導かれるために日々の生命の調律をする



先ほどのシルバーバーチの言葉を正しく受け取るならば、「直観」という名のメッセージは  
全て<sup>SEPOUW</sup>背後霊が影響しており、直観という形でわたし達にアドバイスを送っています。

わたし達地球人は、<sup>D I K A G</sup>顕在意識では、地球に何のために生まれ、何のために生きるのかを理解  
できません。把握しているのは自分自身の<sup>EXA PIECO</sup>霊の心、および<sup>SEPOUW</sup>背後霊です。わたし達の誰もが地  
上世界に生まれてから今日に至るまでずっと<sup>SEPOUW</sup>背後霊によって守り導かれているのです。

わたしはいつも思うのですが、地上の人々、中でも特に靈的知識を手にした方が  
背後霊の存在を実感を持って認識してくだされば、どんなにありがたいことでは  
う。地上の<sup>あい</sup>神意する者へ無益な害が及ばないようにかばい、守り、導いている霊の  
姿を一目ご覧になることができれば、と思うのです。

『シルバーバーチの靈訓（十）』 p.65

SEPOUW  
今この時も背後霊は常にわたし達に密着し、気づきと学びのために働きかけています。さら  
SEPOUW  
には背後霊は、守護し指導する人間の性格、気質、前世の姿、霊的な因縁<sup>いんねん</sup>、さらには今後の  
人生行路から寿命に至るまで、当人に關するありとあらゆることを知り尽くしています。

そして、可能な限り<sup>SEPOUW</sup>背後霊は、地上人を守り、導こうと努力しています。それは、調和を實踐することでの霊性の進化のためです。それを地上人は<sup>SEPOUW</sup>背後霊にサポートをお願いしており、必死にひたすらにわたし達に無償<sup>あい</sup>の神意を實踐してくれています。

しかし、その<sup>SEPOUW</sup>背後霊は何でもかんでもサポートしてくれるかと問われたら、答えは「NO」です。  
<sup>SEPOUW</sup>なぜなら背後霊が地上人をサポートするためには「条件」が必要だからです。その条件を満たさない場合、<sup>SEPOUW</sup>背後霊はわたし達を手助けすることは出来ません。

各自に守護霊がいることは事実ですが、その事実を本当に自覺している人が何人いるでしょうか？（<sup>D I K A G</sup>顯在意識での）自覺がなければ、無意識の心霊能力を持ち合わせていない限り<sup>SEPOUW</sup>守護霊は働きけることはできません。

霊の地上への働きかけは、それに必要な条件を（地上サイドの）人間が用意するかしないかに掛かっています。霊の世界と連絡の取れる条件を用意してくれば、身近な関係にある霊が働きかけることができます。

よく聞かされる不思議な<sup>たいけん</sup>體驗、奇跡的救出の話はみなそれなりの条件が整った時のことです。条件を提供するのは（靈界サイドではなく）人間のほうです。人間のほうから手を差しのべてくれなければ、わたし達は人間界に働きかけることはできないのです。

『シルバーバーチの靈訓（二）』 p.209

<sup>SEPOUW</sup>その条件は、どれだけ背後霊の指示を實行するかによって決まります



SEPOUW

背後霊が地上人をサポートする条件のひとつが、「直観」で入ってきた情報を「裏づけ根拠なしで決心して実行する」ことです。

自分の人生に関わるとか、命に関わるとか、<sup>かいしゃ</sup>会社の大きな信用に関わるとかいうときに、直観で入ってきたものを裏づける根拠を調べようとすればするほど、サポートはなくなってきます。

「裏づけ根拠を求めない」で、決心して実行するときに初めてサポートが起きるんですね。裏づけ根拠を求め始めると、結局、<sup>D I K A G</sup>（顕在意識の自我と欲望で）ブレーキをかけていって、<sup>D I K A G</sup>顕在意識でわかっている範囲にしてしまう、修正してしまいます。

それは、もうすでに直観ではありません。

『波動の法則 実践<sup>たいけん</sup>体験報告』p.144

直観という名のメッセージは全て<sup>SEPOUW</sup>背後霊が影響しており、直観という形でわたし達<sup>SEPOUW</sup>に背後霊はアドバイスを送っています。しかし、シルバーバーチは直観についてをこのようにも述べています。

精神統一中に示唆を受けた時、たとえそれが何かのお告げのようなものであっても、あなたの良識が許さない時は実行に移してはなりません。統一中に浮かぶアイディアの中から“これぞ本物のインスピレーション”と直観できるのは、ある一定の靈格を身につけた人だけです。

『シルバーバーチの靈訓 スピリチュアリズムによる靈性進化の道しるべ』p.221

精神統一とは「<sup>いの</sup>禱り」のことですが、そこから本物の直観を見極めるのは極めて難しいです

では、どうしたらいいのか、それは「直観の正確性を確認」することです。そして直観が正確か確認できた場合、「自分に現時点できる最善を尽くす」ことです。

わたし自身もそれを繰り返し<sup>たいけん</sup>体験してきて、なるほどという<sup>たいけん</sup>体験を繰り返したなかで、決断する勇気がだんだん<sup>か</sup>変わってきました。

命に関わる場合でも、正確な情報かどうかを確認するだけです。正確に情報が入っているとわかったら、あとは今できる最善を尽くします。

どうしても命に関わるものは、顕在意識で余分な心配をするわけです。でも、それを行っている暇があったら、今できる最善を尽くして、それが実現するにはどうするかに専念してください、というメッセージがきます。

もう少し突っ込めば、100%信頼しなかったら、疑っているのです。それで、裏づけ根拠を求めるのです。正確に情報が入るようになってきたら、「時空の仕組み」のサポートしてくれている<sup>いしきたい</sup>意識体を、100%、こちらが信頼する。

そうしたら不安も心配も起きません。疑うことはあり得ないです。疑うというのは、サポートしてくれている時空を疑っていることになります。

『波動の法則 実践<sup>たいけん</sup>体験法則』 p.145

案ずることはありません。あなた方は自分なりの最善を尽くせばよいのです。もうこれ以上はできないというところまで努力したら、それ以上はムキにならず、あとはわたし達に任せる気持ちにおなりなさい。人間は自分にできるかぎりの努力をしていけばよいのです。それ以上のことは要求しません。

『シルバーバーチの霊訓（九）』 p.160

SEPOUW  
背後霊は、自分自身が決めてきた人生の<sup>ブループリント</sup>青写真に導くため、想像を絶する困難な状況から地上人を導こうとしています。そして、霊的成長のための試練、厳しい道を用意します。そして、その困難を乗り越えて霊的成長ができるように、影からサポートをしてくれています。

地上に生を<sup>う</sup>享ける時、地上で何を<sup>な</sup>為すべきかは魂自身はちゃんと自覚しております。何も知らずに誕生してくるのではありません。自分にとって必要な向上進化を促進するにはこういう環境でこういう<sup>しんたい</sup>身体に宿るのが効果的であると判断して、魂自らが選ぶのです。ただ、実際に<sup>にくたい</sup>肉体の鈍重さのために誕生前の自覚が魂の奥に潜んだまま、通常意識に上がってこないだけの話です。

『シルバーバーチの霊訓（一）』p.38

ヒーリングの目的は、「人生の<sup>ブループリント</sup>青写真」に従った生き方に導くためにあります。誰しもが生まれる前に人生の目的を決めてきていますが、<sup>D I K A G</sup>顕在意識では自覚できません。だから地上人の誰しにも「守護霊」がいます。

守護霊と指導霊を総称して「<sup>SEPOUW</sup>背後霊」と呼びますが、わたし達を導こうとする霊的世界のサポーターの存在を信じ、日々の<sup>いの</sup>禱りを通して<sup>SEPOUW</sup>背後霊から「直観」を受け取り、そのメッセージを実行することで、徐々に人生の目的を達成していくのです。

### インスピレーション（※メッセージ）の大まかなステップ

- ① 日常生活の霊優位の決心と努力（※霊的真理の<sup>いの</sup>学習、禱り）
- ② 静寂、受容性（※ゆったり、おおらか、リラックス）で<sup>SEPOUW</sup>背後霊から直観を受け取る
- ③ <sup>SEPOUW</sup>背後霊の直観の正確性（※精度）を高める条件は、信仰心、素直、謙虚、感謝
- ④ 直観、決心、実行した<sup>たいけん</sup>体験から「気づき」と「学び」と「改善」を繰り返す

精神統一をなさることです。時には煩雑<sup>はんざつ</sup>なこの世の喧騒<sup>けんそう</sup>を離れて魂の静寂の中にお入りになることです。静かで受身的で受容性のある心の状態こそ霊にとって最も近づき易い時です。静寂の時こそ背後霊が働きかける絶好機なのです。片時も静寂を知らぬような魂は騒音のラッシュの中に置かれており、それが背後霊との通信を妨げ、近づくことを不可能にします。

ですから少しの間でいいのです。精神を静かに統一するよう工夫することです。すると次第に役に立つよい考えが浮かんでくるようになります。背後霊のオーラとあなたのオーラとが融合する機会<sup>きかい</sup>が多いほど、それだけ高度なインスピレーションが入ってきます。どれほど多くの神意<sup>あ い</sup>があなたのまわりを包んでいるか、それが判っていただけないのが残念です。

『シルバーバーチの霊訓（二）』p.18～p.19

地上世界の日常生活にあくせくとし、次から次へと生じる家庭や仕事のゴタゴタに係わっていると人間は人生の基本である永遠の霊的原理を忘れがちになります。だからこそ霊的真理の学習を通して本質を忘れないようにしなければなりません。

また、日々の音叉による生命<sup>いのち</sup>の調律を通して靈<sup>EXA PIECO</sup>の心の焦点を回復し、霊優位という調和を取り戻す必要があります。そして毎日の生命<sup>いのち</sup>の調律をし、「背後霊<sup>SEP O U W</sup>のオーラ」と「自分自身のオーラ」が融合すればするほど、「人の役に立つよいアイデア」が浮かんできて、一段と大きな奉仕に励むことができるわけです。

シルバーバーチは「どれほど多くの神意<sup>あ い</sup>があなたのまわりを包んでいるか、それが判っていただけないのが残念です」と述べていますが、わたし達は禱<sup>いの</sup>りをすればするほど、こうした神意<sup>あ い</sup>を受け取れるようになります。



かがくしゃ  
科学者の手によって物質界の原理の多くが発見されました。が、その探求の手はまだまだ  
靈的な分野にまでは及んでおりません。人生を物的尺度でもって判断し理解し考察しよ  
うとするのは愚かです。小さな一部分にのみ關心を集中し、肝心な大きなものを見落とし  
ているからです。

わたし達の仕事は、その大きな世界、靈の宝庫に目を向けさせ、暗闇と無知の中で道を見  
失っている数知れない人々に、靈的眞理を知ることによって得られる導きと慰めと確信  
をもたらしてあげることです。

それとても實はわたしの望んでいるところの一部にすぎません。肉親を失った人を慰め  
てあげること、悲しみに暮れる人の涙を拭いてあげること、こうしたことは實に大切なこ  
とです。確かにこれもわたし達の使命の一部ではあります。

しかし、もっと大切なことは、そうした<sup>たいけん</sup>體驗を通じて自分とは何か、本当の自分とは何な  
のか、何のためにこの地球という惑星に生を<sup>う</sup>享けたのか、より一層の向上のためには何を  
<sup>な</sup>爲すべきか——こうしたことについての正しい認識を得させてあげることです。それが  
一番大切なことです。

『シルバーバーチの靈訓（二）』 p.173

スピリチュアリズムという地球人類救済計画というプランは靈的世界で出来上がっており、  
わたし達はこの惑星地球で、「調和の實踐」による「靈的成長」をすることが地上世界に生  
まれてきた意味です。

地上世界は混乱が絶えなく、喧騒<sup>けんそう</sup>と怒号が鳴りやむ時がありません。そうした地上世界を少  
しでも改善し、自分自身が靈的成長をするために必要なことが「眞の<sup>いの</sup>禱り」なのです。日々  
の生活に<sup>いのち</sup>生命の調律を取り入れることの大切さがこれで理解できたと思います。



## 第七章

### ホリスティック健康學、予防<sup>いがく</sup>醫學

眞のホリスティック<sup>いがく</sup>醫學の世界によろこ

<sup>いのち</sup>生命の調律は、眞の健康に繋がる道

地上世界の悲劇、病人の激増による苦しみ

それは靈的眞理に適った生き方を通してなくせる



音叉セルフ學は、地上世界最先端の健康學であり予防<sup>いがく</sup>醫學である



音叉による生命<sup>いのち</sup>の調律は、スピリチュアリズムが明らかにした靈的真理のひとつ、人間の「身體觀<sup>しんたい</sup>」が基盤になった「ホリスティック健康學」を元にしています。音叉による生命<sup>いのち</sup>の調律は地上世界最先端の健康學です。

病氣というのはその大半は主として精神と肉體<sup>にくたい</sup>と魂との間の連絡が正しく行われていないことに起因しています。正しく行われていれば、つまり完全な一體<sup>いったい</sup>關係にあれば完全な健康と安定性と落ち着きと機敏性を備えています。もっとも、そういう人物は地上では滅多にお目にかかれません。

『シルバーバーチの靈訓（二）』 p.193～p.194

シルバーバーチの言葉を正しく理解するならば、「靈」、「靈<sup>EXA PIECO</sup>の心」、「肉<sup>D I K A G</sup>の心」、それらを繋ぐのが「精神」であり、「靈體<sup>れいたい</sup>」と「肉體<sup>にくたい</sup>」の連絡が正しく行われていれば健康になると述べられています。



人間を構成する本質と、ネットワーク関係			
人間の身体構成 <sup>しんたい</sup>	霊體 <sup>れいたい</sup>	幽體 <sup>ゆうたい</sup>	肉體 <sup>にくたい</sup>
管理する器官	奇經八脈	チャクラ	十二經絡
分泌液	リンパ液	髄液	血液
分泌液の作用	霊體オーラ <sup>れいたい</sup>	自律神経	肉體オーラ <sup>にくたい</sup>
エネルギーの触媒	ホルモン	ミネラル	酵素
健康との関連	細胞、睡眠、休息	骨、食事、水	筋肉、運動、散歩

ホリスティック健康學では、人間の健康状態は「心、食事、運動、休養」という4つの健康条件の総合的な影響力によって決定すると考えています。そして、スピリチュアリズムでは病氣の9割は「心のカルマ」が原因であると断定しています。

EXA PIECO 霊の心優位で生きるために必要なことが禱りであり、音叉による生命の調律とは「EXA PIECO 霊の心の所作」であり、心を正すための行爲。これを強調する理由とは、「禱りによって心を正せば、病氣の9割は自分自身で治せる」からです。しかし、殆どの人間は自分自身の心の在り方を正そうという努力を嫌います。だから病氣が治らないのですが……。

音叉による生命の調律により心を正せば病氣の9割は自分自身で治せる、これがホリスティック健康學の眞髓です。すべては「心の在り方」が健康と病氣の原因です。その事実を受け止め、日々の禱り<sup>いの</sup>をすることが健康の原点なのです。

現代地球文化の現代醫學<sup>いがく</sup>は肉體<sup>にくたい</sup>のみしか見ていない唯物思想であり、人間を構成する5つの本質的要素を認めていません。霊、EXA PIECO 霊の心、霊體<sup>れいたい</sup>、霊體オーラ<sup>れいたい</sup>も基本的に否定しており、血液を循環させるために酵素、筋肉を鍛えるための運動、肉體<sup>にくたい</sup>を温める温熱療法が健康學の中心になっています。しかし、人間はそれだけでは健康にはなれません。



「やはり病気は自分で治せるのでしょうか？」

治せるだけでなく、げんに治しております。魂の優位を主張し、<sup>にくたい</sup>肉體という下等なものによって束縛され抑えられることを拒否することによって病気を追い払うのです。<sup>しんたい</sup>身體を従者にするのです。主人にしてはなりません。誰にでも出来ることです。ですが、大部分の人間は頭から出来ないものと思い込んでいます。だから出来ないのです。

<sup>にくたい</sup>肉體は精神の従僕です。精神は<sup>にくたい</sup>肉體に隷属しているではありません。<sup>にくたい</sup>肉體は束の間の存在であり精神は永遠の存在です。<sup>にくたい</sup>肉體はいずれ朽ち果てます。精神が宿っている間だけ現在の形態を維持している一時的な存在です。それがその人ではありません。その人の<sup>ひょうげんたい</sup>表現體であり、道具であり、地上で認識してもらうための手段です。

その<sup>にくたい</sup>肉體が精神によって歩きまわることが教わり、筋肉を動かすことが教わり、血液を循環させることが教わり、心臓を鼓動させることが教わり、内臓の全ての機能を働かせることが教わったごとくに、こんどはその（リズムを狂わせている）機能に本来のリズムを取り戻させることによって病気や疾患や異常を無くしてしまうことができるはずなのです。

『シルバーバーチの靈訓（五）』p.122～p.123

シルバーバーチは「精神」を強調していますが、<sup>マナカ</sup>MANAKAの宇宙観で、精神と「星」は<sup>しょうおう</sup>照應関係にあると述べられており、正しく翻訳するとこういう意味になります。

「命とは星からの贈り物であり、<sup>しんたい</sup>身體は<sup>てんたい</sup>天體の神殿であり、<sup>にくたい</sup>肉體は星の従僕であり、星は永遠の存在です。その星により<sup>にくたい</sup>肉體の筋肉、血液、心臓が正しく機能し、<sup>にくたい</sup>肉體の本来の機能を回復することで、病気や疾患や異常をなくせる」、このようにシルバーバーチの言葉を翻訳することが可能です。

知的生命體「MANAKA」の宇宙觀

生とは？	死の世界へ入ることである
死とは？	星が生まれることである
命とは？	星からの贈り物である
魂とは？	星の生みの元である
覚醒とは？	星と受胎することである
星とは？	精神の <sup>またた</sup> 瞬きの <sup>きら</sup> 煌めきである
銀河とは？	精神の思い出の生地である

たいれい  
大靈が宇宙が生み、そのミニチュアである靈が生命を生み、魂という靈の心が星を生み、万物すべてを「精神」という形でネットワーク化している。すべてが重なりあって自分自身が存在しており、靈、魂、<sup>しんたい</sup>身體の連絡をするのが「精神」であり、「星」になる。

これがシルバークのいう、「精神と<sup>にくたい</sup>肉體と魂との間の連絡」であり、「星信仰の復活」とは「精神文化の復活」であり、それが究極の健康學にも繋がる。音叉は「天球の音樂」の具現化であり、シルバークのいう「精神という永遠の存在」への帰化である。

21世紀の現代、クスターの功績により天球の音樂を聴き、そして<sup>にくたい</sup>肉體と<sup>たいかん</sup>五感で體感できる地上世界最高峰の「ヒーリングツール」と「<sup>セルフヒーリング</sup>自己治療の<sup>メソッド</sup>手法」が誕生しましたが、それは音叉というよりも、「天球の音樂」という概念が最重要だということを忘れてはなりません。

音叉が凄いのではなく、<sup>たいれい</sup>大靈の自然法則である星々の<sup>サイクル</sup>運行を、<sup>にくたい</sup>肉體に、五感に、地球人類の誰しものが受け取れる時代に突入したことが凄いのです。それが、地上世界最先端の健康學と言い切れる根拠です。これは「靈的眞理」であり、星信仰の復活を通して、地上人類は誰しものが自分自身で病氣を治せる時代に突入しました。

## 自然法則に反した健康学による病人の蔓延

地上世界の悲劇のひとつ、「調和の<sup>せつり</sup>攝理に反した行為による病人の激増」は大きな問題のひとつです。地上人類にとって健康は重大な問題です。人々は健康にいる時には気づきませんが、病気になると健康の大切さ、有り難さを身にしみて感じるようになります。

<sup>にくたい</sup>肉體は地上で働くための「魂の道具」です。その道具が故障しては思うように貢献できません。健康はお金で買うことはできません。いくら高度な現代<sup>いりょう</sup>医療に頼っても、唯物思想の現代<sup>いりょう</sup>医療では病氣は治せませんし、自ずと限界があります。たとえ億万長者であっても病氣になったとたんに、お金の力は地に落ちてしまいます。

地上世界の人間が幸福な人生を送るためには、「魂の道具」である<sup>にくたい</sup>肉體の健康は欠かせません。心の平安と喜びこそが何よりも大切ですが、<sup>にくたい</sup>肉體を病んでいては未来に希望を見出すことができなくなります。現代地球人類にとって「病氣とは人生が絶望に支配されること」を意味しています。

現在の地上世界において完全な健康を手に行っている人間はきわめて一部に限られます。殆ど<sup>くに</sup>の國で病氣が当たり前となり、健康は遥か彼方の理想となっています。現代地球文化は靈的無知により、人間の幸福の条件である健康は、ますます手の届かないものになろうとしています。

これほど多くの人々が大切な<sup>にくたい</sup>肉體を病んでいるという実情は、地球人類の靈的レベルを物語っています。人間の本当の健康については、靈的成長を含めた靈的視点に立たないかぎり永遠に理解することはできません。その意味でスピリチュアリズムが明らかにした靈的眞理は、遠い未来における地上世界に本物の<sup>いがく</sup>醫學をもたらすことになります。

地上世界の人間の最大の関心事				
人々の関心事		対義語		補足説明
寿命	健康	⇔	病氣	殆どの人間は予防 <sup>いがく</sup> 醫學に力を入れないで病氣になる
収入	経済	⇔	貧困	殆どの人間はお金についてを學ばないから貧困になる
未来	希望	⇔	絶望	その結果、希望は閉ざされ絶望の人生を歩むことになる

地上世界の人間の最大の関心事は、如何に健康で長生きしよう、如何に沢山のお金を得よう、如何に地位、名譽、財産を築こうということに関心を向けており、残念ながら殆どの方が靈的成長に関心がありません。高級靈シルバーバーチはそうした地上世界の傾向に対して苦言を呈しています。

「余暇<sup>よ か</sup>の正しい使い方について教えてください」

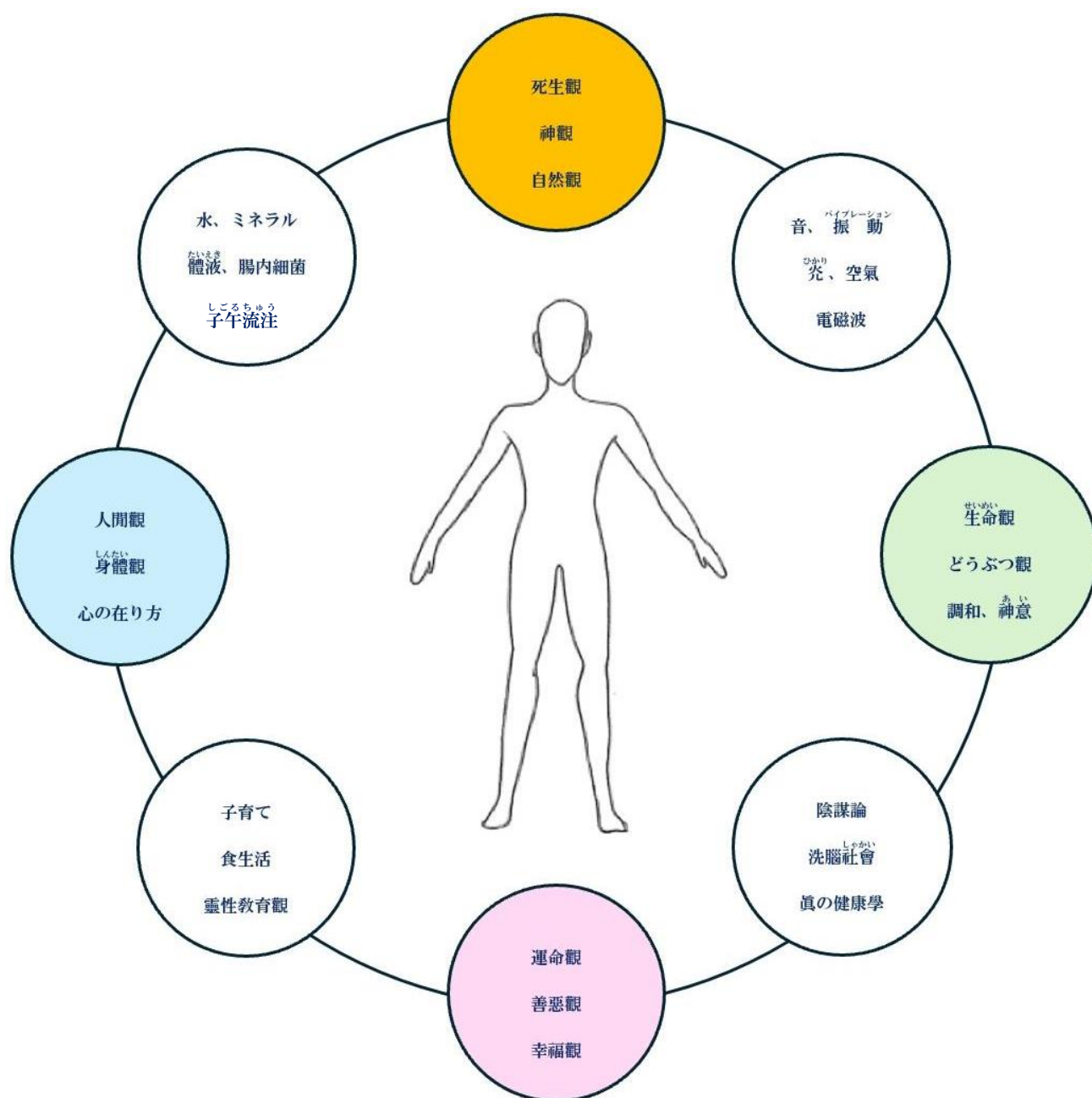
余暇<sup>よ か</sup>は精神と靈の開発・陶冶<sup>とうや</sup>に当てるべきです。これはぜひとも必要なことです。なぜかと言えば、(地上世界の人間は)身體<sup>しんたい</sup>に関係したことはすでに十分な時間が費やされているからです。人間は誰しも健康を維持し増進するための食生活<sup>たいへん</sup>には大變な関心を示します。もっとも必ずしも健康の法則に適っておりませんが……しかし精神と靈も發育が必要であることをご存知の方はほとんどいません。

『シルバーバーチの靈訓 (四)』 p.211～p.212

地上世界の人間は、健康<sup>たいへん</sup>には大變な関心を示しますが、大半の健康學がスピリチュアリズムが明らかにした健康の法則に適っていない、これが地上世界の現状です。そして大半の方が自然法則に反した生き方から病氣になります。



## ホリスティック健康學に必要な人生觀と實踐論



人間が本当の意味で健康になるためには、スピリチュアルリズムが明らかにした靈的眞理への「信仰」と「實踐」が不可欠になり、音叉による生命の調律は、日々の實踐論に該当します。しかし、それだけでは健康にはなれません。なぜなら、靈的眞理に対する理性的信仰、確信的信念、それを揺るぎない人生觀にしなければ生命の調律は眞価を發揮しないからです。

## 【ホリスティック健康學に必要な人生觀】

神觀、調和、神意<sup>あ い</sup>、自然觀、死生觀、人間觀、心の在り方<sup>しんたい</sup>、身體觀、生命觀、どうぶつ觀、運命觀、善惡觀、幸福觀

## 【ホリスティック健康學に必要な實踐論】

音、振動<sup>バイブレーション</sup>、光<sup>ひかり</sup>、空氣、電磁波、水、ミネラル、體液<sup>たいえき</sup>、腸内細菌、子午流注<sup>しごるちゅう</sup>、靈性教育論、食生活、子育て、陰謀論<sup>しゃかい</sup>、洗腦社會、眞の健康學

靈的眞理と音叉による生命<sup>いのち</sup>の調律はセットの意味にも繋がりますが、こうした人生觀が、そのままホリスティック健康學にも反映され、その人の地上人生の幸福、不幸を左右します。眞のホリスティック健康學はスピリチュアリズムの靈的眞理を取り入れたところに初めて成立するものです。

靈的眞理とは心の在り方の確立であり、靈的眞理に適った人生觀という心の在り方があってこそ全ての實踐論が活かされるのです。音叉による生命<sup>いのち</sup>の調律は實踐論すべてに適用できますが、それはあくまで靈的眞理があってこそ生きてくることを忘れてはなりません。

特に、「人間觀」と「身體觀<sup>しんたい</sup>」という人間の5つの構成要素を知らなければ、どうやって健康になるというのでしょうか。それすらも知らない人間が地上世界には沢山存在し、肉體<sup>にくたい</sup>がすべてと思っている人間がどうやって健康になるというのでしょうか。

わたし達は「FUNEKON<sup>ふねこん</sup>」が本質であり、靈と肉の2つの心と、靈體<sup>れいたい</sup>と肉體<sup>にくたい</sup>の二重構造を「精神」が繋いでいることを常に自覺している必要があります。

## 惑星音叉は賦活性を持った放射線そのもの

——わたし達のすべてが治病能力を具えているのになぜ心霊治療家の存在が必要なの  
でしょうか。

神の攝理<sup>せつり</sup>を知らない人が多すぎるからです。みんなそんな攝理<sup>せつり</sup>なんかあるわけがないと  
思い込み、健康を回復する法則を実践できる段階まで意識を高めることが出来ない<sup>に</sup>と決  
めてかかっているからです。神の攝理<sup>せつり</sup>に従って生きれば病氣も異常も生じません。肉體<sup>にくたい</sup>  
に異常が生じるのは攝理<sup>せつり</sup>に反した生き方をしているからです。（靈と精神と肉體<sup>にくたい</sup>の）調和  
が乱れると病氣になり、自分自身の努力、または靈界からの治療エネルギーによって調  
和を取り戻すまでその状態が續<sup>つづ</sup>きます。

『シルバーバーチの靈訓（五）』 p.124～p.125

シルバーバーチは、魂心身<sup>こんしんしん</sup>の調和が乱れると病氣になると断定しております。シルバーバー  
チは、自分自身のセルフヒーリングで魂心身<sup>こんしんしん</sup>の調和を取り戻すか、治療家によって治療エネ  
ルギーを送ってもらうまで病氣、不快、異常が續<sup>つづ</sup>くと述べています。

天球の音楽を再現した音叉ヒーリングは、靈的エネルギー(宇宙エネルギー)と生命エネルギ  
ー(大地エネルギー)を人體<sup>じんたい</sup>に取り入れるための画期的な方法論<sup>メソッド</sup>です。星々の音がシルバーバ  
ーチのいう「靈界からの治療エネルギー」に該当します。

シルバーバーチはそうしたエネルギーを「賦活性<sup>ふかつせい</sup>を持った放射線」と表現しています。賦活性<sup>ふかつせい</sup>  
とは「機能や働きを活発化させること」を意味します。惑星音叉、ソルフェジオ音叉は賦活性<sup>ふかつせい</sup>  
を持った放射線そのものであり、それを人體<sup>じんたい</sup>に取り入れることで生命力を蘇生させます。そ  
れを地球人類誰も音が音叉により自分自身で出来る時代なのです。

心霊治療はどういうメカニズムで病気を治すのか、治療家と患者との間にどういう関係が生じるのかを問われて——

賦<sup>ふかつせい</sup>活性を持った放射線が注入されるのです。病<sup>お</sup>氣に應じて種類が異なります。どういうものかと言われても、地上にはそれに類するものが見当たりませんので説明できません。たとえば X 線、無線、磁氣、電氣といったものもあくまで “用語”、であって、本質<sup>つた</sup>を傳えてはいません。

要するにこちらの世界には病気を癒す力を持った放射線、エネルギー——どう呼ばれても結構です——が存在し、それを使用するのです。賦<sup>ふかつせい</sup>活性をもった生命力の一種で、それを人類のために使用できるまでに進化した靈が駆使しているのです。靈的啓示を授ける者が叡知の泉から汲み上げるように、心霊治療家は健康の泉から治癒力を汲み上げることができます。

『シルバーバーチの靈訓（五）』 p.127

シルバーバーチの靈界通信は 1920 年から 1981 年にかけてイギリスで行われていましたが、当時は「星々の周波數」を誰しもが受け取れる時代ではなかったため、地上世界で賦<sup>ふかつせい</sup>活性を持った放射線の表現に苦心していました。

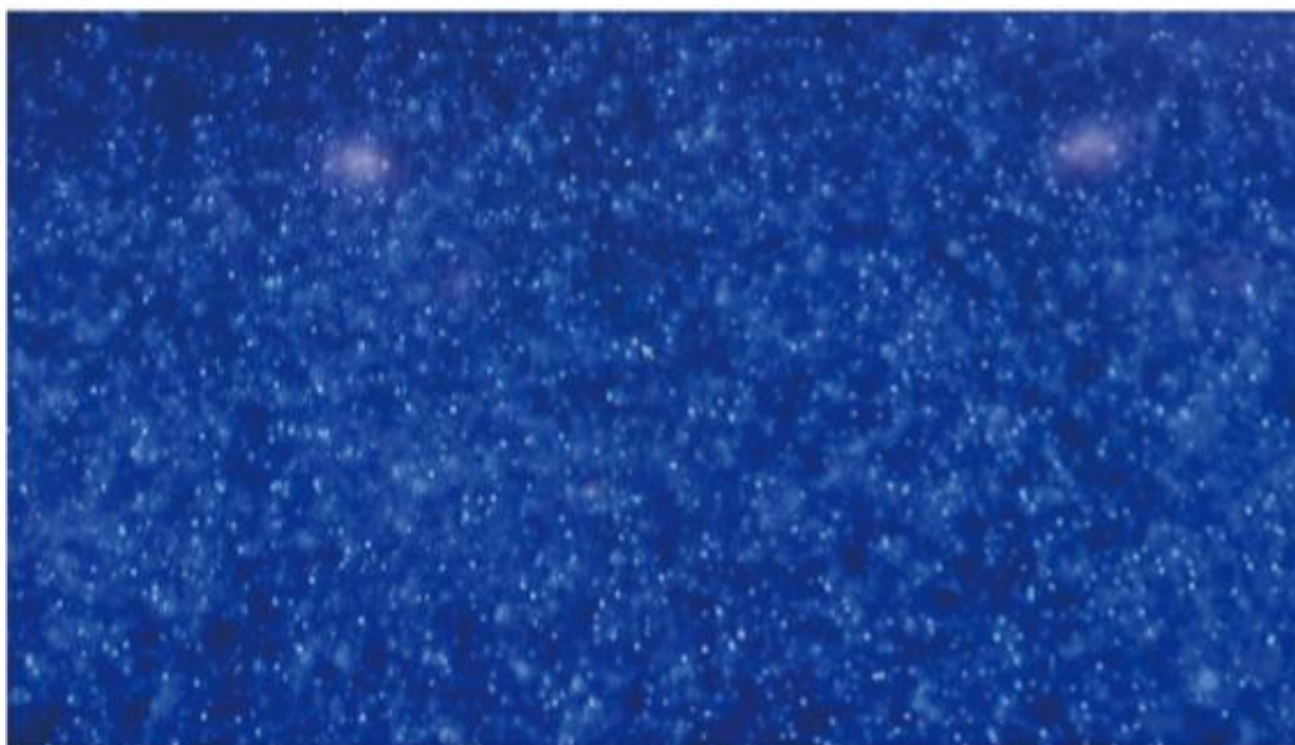
しかし、21 世紀は、「星信仰の復活」を通して、誰しもが音叉を通して自分自身で「心霊治療」を出来る時代です。病氣は誰しも自分自身で 9 割治せる時代に突入しております。後はどれだけその事実を素直に受け止め、信仰實踐し、その眞理を人々に普及するかだけです。

そもそも、醫<sup>いしゃ</sup>者や治療家が患者を治そうとするような時代は終焉させなければなりません。醫<sup>いしゃ</sup>者や治療家は神ではありません。人間は万能ではありません。全知全能、完璧なる存在は<sup>大 靈 自 然 法 則</sup> FUGEHUKON と FUGEHEKIN のみであり、人間に人間を治す力などありません。



自然法則

FUGEHEKINは、精霊と妖精によって自然界、生命界を管理している



では、人間でなければ、何が病気を治すのでしょうか？結論から言えば、病気を治すものは「精霊」と「妖精」です。精霊の別名が「微生物」、妖精の別名が「ソマチッド」になりますが、この2つの存在の力を借りることで生命力が甦り、健康になるのです。

そして、精霊を活性化させるもの、妖精を活性化させるものの「原理」が異なります。しかし、あらゆるものに精霊と妖精は宿っており、<sup>自然法則</sup>FUGEHEKINそのものといえます。古代インドの思想に興味深い考え方があります。

神は鉱物の中で眠り／植物の中で覚め／どうぶつの中で歩き／人間の中で<sup>しい</sup>思惟する  
(古代インド、ウパニシャッド<sup>てつがく</sup>哲学經典)

これはまさに精霊と妖精のことを表しており、アニミズムにも同様の考え方が存在します

地球ならびに自然界の背後には、常に天使、精霊、妖精の存在がありますが、日本人は古來より土の神、水の神、火の神といったように、多くの神々の存在を認めてきましたが、それらは精霊、妖精を靈能者が靈視したものです。アニミズムは無数の神々や靈的存在を認めるところに成立しますが、アニミズム信仰の対象となる精霊の多くは、自然界に遍在する妖精たちだったのです。

こうした観点からすると、すべての存在物と自然界に神々が宿るとするアニミズムの思想は、正しい靈的認識の上に立っていたことが分かります。しかし、殆どの人間は精霊と妖精の違いを分かりません。この謎を解く鍵が「微生物」と「ソマチッド」なのです。

精霊とは「天使の想念が生み出した分身」であり、下級天使によってつくられた無数の分身が「<sup>精 霊</sup>微生物」として、自然界を管理するために精密なりモートコントロール・ロボットとして忙しく働くことになります。

<sup>精 霊</sup>微生物はロボットといっても意識が全くないというわけではなく、低次元の意識のようなものを持っています。そして自然界の創造、運行、維持は、すべて天使と、天使の分身である<sup>精 霊</sup>微生物の働きによって進められています。

それとは別に妖精は「原始靈」と靈的世界では呼びます。妖精は、進化の低い靈的存在として下級天使のもとに置かれ、そこで神の<sup>せつり</sup>攝理を遂行する役割を与えられます。そして天使の末端の仕事、地上世界の現場の仕事に携わるようになります。

こうした<sup>妖 精</sup>ソマチッドは、自然界を形成する「<sup>ひかり</sup>光、<sup>エレメント</sup>空気、土、水」の四元素別に存在し、それぞれの仕事を担当します。すなわち<sup>ひかり</sup>光に所属する<sup>妖 精</sup>ソマチッド、<sup>妖 精</sup>空気に所属する<sup>妖 精</sup>ソマチッド、土に所属する<sup>妖 精</sup>ソマチッド、水に所属する<sup>妖 精</sup>ソマチッドに分かれて天使の支配を受けて働き、神に貢献することになります。まさに「原始靈」というべき存在者です。

## 靈的世界の地上世界へのサポート形態

自然界を形成しているのは、<sup>精 靈</sup>微生物の働きによるものです。地上世界の人間は、自然界を形成しているのは<sup>精 靈</sup>微生物であることを理解していません。宇宙中に、<sup>精 靈</sup>微生物は遍満しており、その頂点が「<sup>たいれい</sup>靈の大海、すなわち大靈」なのです。

<sup>精 靈</sup>微生物が働くものを生命エネルギーといい、人間を治療する原則は「海水、鉱物、植物」の力、要するに創造主なる海の力、地球の管理者である大地の息吹である鉱物と植物の力で人を癒すのです。

そして、<sup>妖 精</sup>ソマチッドは原始靈、個別靈であり、靈的エネルギーを司ります。<sup>妖 精</sup>ソマチッドは下級天使の分身である<sup>精 靈</sup>微生物より、明確に意志を持って行動しています。<sup>妖 精</sup>ソマチッドの別名を「<sup>せいめいたい</sup>超微小生命體」とも表現しますが、近年の研究で「音と<sup>せいめいたい</sup>微小生命體が相互に調律し合う」ことが判明しています。

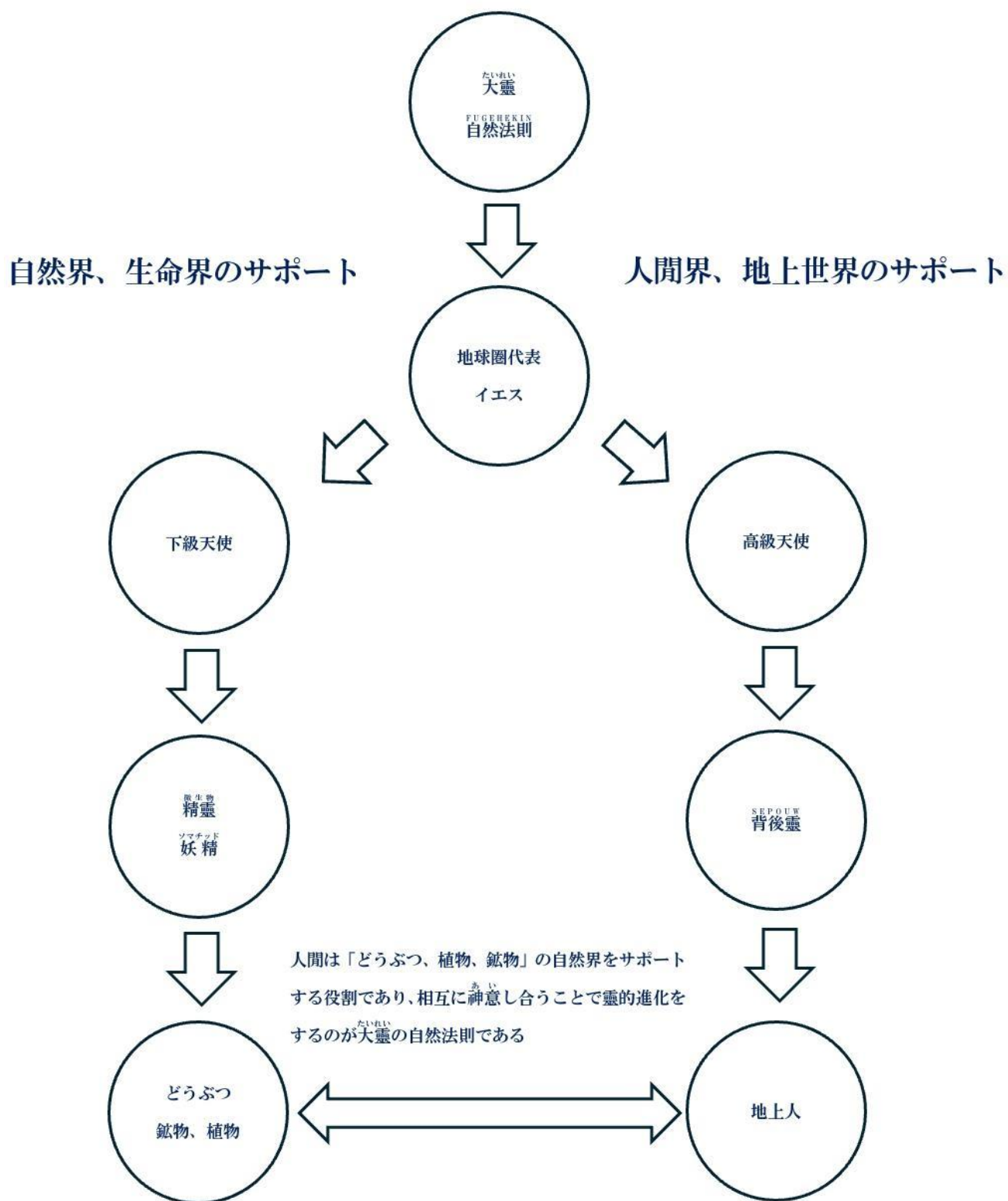
天球の音楽、星々の振動により<sup>妖 精</sup>ソマチッドは活性化し、人間にも力を貸してくれるようになります。<sup>妖 精</sup>ソマチッドは、自然界を形成する「<sup>ひかり</sup>光、空気、土、水」の<sup>エレメント</sup>四元素別に存在するので、心臓と肝臓が<sup>ひかり</sup>光、肺が空気、脾臓が土、腎臓が水というように、それぞれ異なる役割をしています。

### 【精靈と妖精の人々を癒す原理の違い】

<sup>精 靈</sup>微生物は、海水、鉱物、植物で人々を癒す。<sup>妖 精</sup>ソマチッドは音、周波数により人々を癒す。  
2つを融合調和することで、あらゆる病気を治すことが可能になる

この情報は、地球環境の蘇生、病人の人々の蘇生に繋がってきます

## 靈的世界の地上世界へのサポート形態





## 細胞の中の水が受ける「音＝波動、周波数」の調整で病氣は治る



エドガー・ケイシーは存命中に、「音は未来の治療となる」と述べていましたが、音によるヒーリングの用途は多岐に渡り、<sup>こんしんしん</sup>魂心身の健康を始めとして、アニマルセラピーや農業にも音叉を含めたサウンドツールを使い、様々なジャンルの垣根を越えた使用法が存在します。

音による癒しの研究の最先端は、アメリカのニューメキシコ州に本部のある「<sup>アキュトニックス</sup>acutonics統合<sup>いがく</sup>醫學研究所」と呼ばれる機関です。<sup>アキュトニックス</sup>acutonics統合<sup>いがく</sup>醫學研究所では、20 数年に渡る音叉ヒーリングの研究と、何万件もの臨床データ、エビデンスが存在します。

そして<sup>ちゅういがく</sup>中醫學をベースに<sup>いがく</sup>東洋醫學、<sup>いがく</sup>西洋醫學、<sup>いがく</sup>心理學、<sup>いがく</sup>理學療法、鍼灸、マッサージ、カイロプラクティック、そうしたものを融合した音叉ヒーリングを教えているスクールでもあり、<sup>いりよう</sup>医療従事者の多くが<sup>アキュトニックス</sup>acutonics統合<sup>いがく</sup>醫學研究所に学びにいらいます。

そして、<sup>アキュトニックス</sup>acutonicsの周波数の研究によりあらゆる病氣が治ることが解明されています

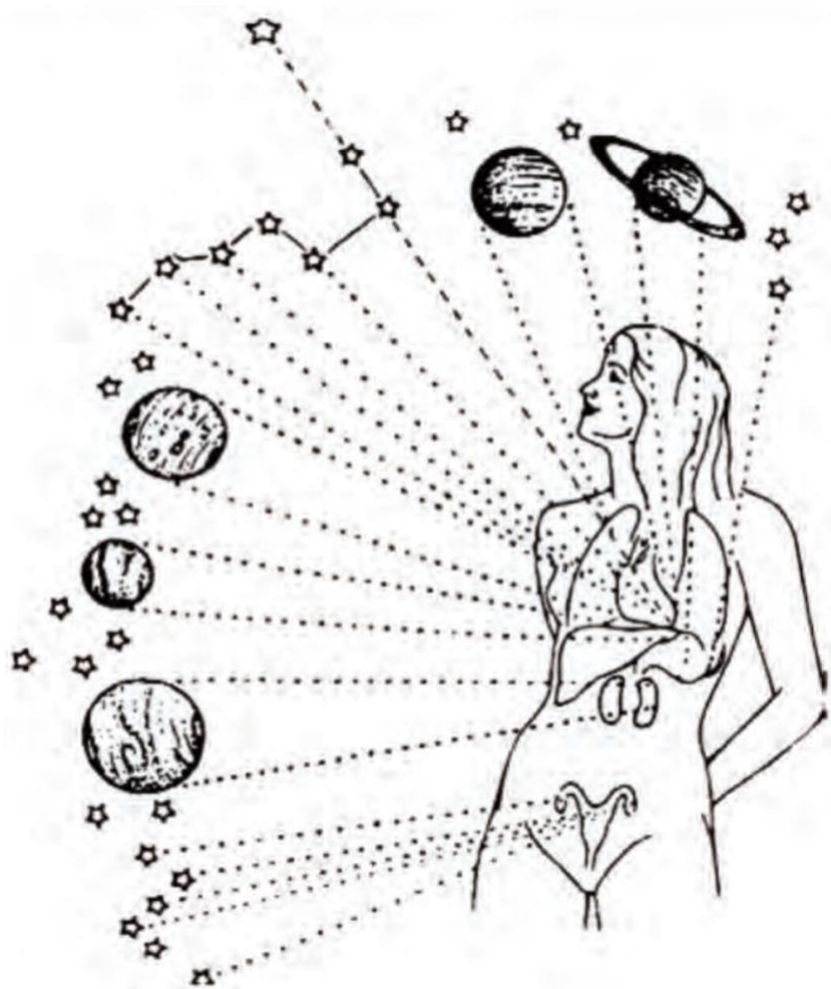




サイマティクス  
「cymatics」という、音や振動が物質に与える影響を研究する分野で、砂や水に音を当てた際に現れる美しい模様を指しますが、こうした現代科学<sup>かがく</sup>の分野でも、細胞の中の水が受ける「音＝波動、周波数」の調整ですべての病氣は治ると断言されています。

この原理を<sup>おうよう</sup>応用した「サイマティクス・セラピー」は、人体<sup>じんたい</sup>の固有の周波数の乱れを、正常な音の周波数で共鳴・共振させることで、心身のバランスを整え、健康状態の改善を促す療法も存在します。

## 星々の音による<sup>いのち</sup>生命の調律という新次元の健康學

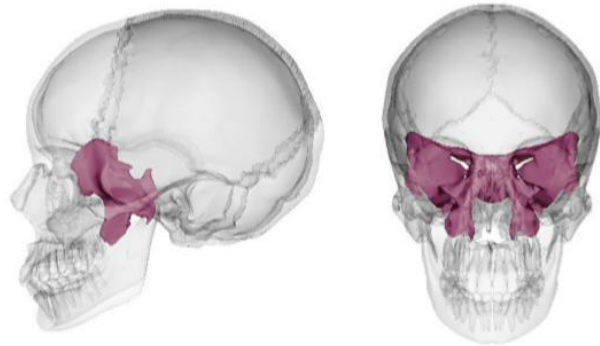


人間の各臓器、各組織、各器官には、固有の「振動數」が存在します。そこにアプローチできるのが「<sup>ツボ</sup>經穴」であり、<sup>じんたい</sup>人體には「365 個の<sup>ツボ</sup>經穴」が存在します。あらゆる病氣のメッセージは、正確には「<sup>ツボ</sup>經穴が病氣のサイン」という意味になります。なので病氣のメッセージに気づくには<sup>ツボ</sup>經穴を知ることが重要になります。

<sup>れいたい</sup>靈體と<sup>にくたい</sup>肉體を繋ぐ接合点は「チャクラ」ですが、<sup>せつぞくてん</sup>靈的世界と物質世界の<sup>ツボ</sup>接續点は「<sup>ツボ</sup>經穴」になります。奇經八脈と十二經絡上に<sup>ツボ</sup>經穴が存在するので、それは不思議なことではありません。カラダの經絡上にあるエネルギーの出入り口である<sup>ツボ</sup>經穴に「星々の音」を直接注入すると、<sup>F I K</sup>潜在意識レベルでの<sup>へんか</sup>變化、細胞レベルでの<sup>へんよう</sup>變容が始まります。



蝶形骨（色の濃い部分）



経<sup>ツ</sup>穴<sup>ボ</sup>は靈的世界と物質世界を繋ぐ「ゲートウェイ」であり、わたし達は経<sup>ツ</sup>穴<sup>ボ</sup>という接<sup>せつ</sup>續<sup>ぞく</sup>点<sup>てん</sup>を通して、スピリチュアルレベル、精神レベル、感情レベル、物質レベルにおいてバランスが回復します。各経<sup>ツ</sup>穴<sup>ボ</sup>に様々な「基<sup>ホーム</sup>音<sup>トーン</sup>」と「音<sup>インター</sup>程<sup>バル</sup>」を取り入れていくにつれ、人間の細胞は新しい次元に生まれ變<sup>か</sup>わります。

人<sup>じん</sup>體<sup>たい</sup>で重要な器官に「仙骨」と「蝶形骨」がありますが、仙骨は「新月」の波動と同じであり、蝶形骨は「満月」と同じ波動になります。月の波動を仙骨や蝶形骨に使用することで、頭蓋仙骨療法と同じことが可能です。

仙骨と蝶形骨について				
器官	惑星	月の周波数	ホームトーン 基 音	役割
仙骨	新月	210.42Hz	128Hz	れ <sup>れ</sup> い <sup>い</sup> たい <sup>たい</sup> に <sup>に</sup> く <sup>く</sup> たい <sup>たい</sup> 靈體と肉體を繋げる役割をしている
蝶形骨	満月	227.43Hz	136.1Hz	D I K A G F I K 顯在意識と潜在意識を繋げる役割をしている

仙骨や蝶形骨を刺激することで「遺<sup>いでん</sup>傳<sup>し</sup>子の構造變<sup>へん</sup>換<sup>かん</sup>」、細胞を新しい次元の細胞にするために脊髄一本一本の RNA 構造が變<sup>か</sup>わり、DNA が三重螺旋などになる、チャクラが開くことによる心<sup>サイ</sup>靈<sup>キック</sup>能力の目覺めなどに繋がります。

これは、がん細胞などを正常な細胞に戻すことにも繋がってきます



色々な惑星の周波数を十二経絡の經穴<sup>ツボ</sup>に複合音で使うことで、様々な病気の治療に有効なことが現代科学<sup>かがく</sup>で確認されています。そして星々の音と人體<sup>じんたい</sup>の関係は、すべての音、身體<sup>しんたい</sup>の周波数を束ねて北極星に送られています。奇經八脈と仙骨八仙洞が、その介添えをしていることも判明しています。

身體<sup>しんたい</sup>の臓器のすべてに細かい星が共鳴して、わたし達の身體<sup>しんたい</sup>を生かしてくれています。こうした星々の音により、靈、靈と肉の心、身體<sup>しんたい</sup>の「生命の調律」<sup>いのち</sup>が可能であり、音叉によるセルフヒーリングが地上世界最先端の健康學という理由がこれでお分かりになるはずです。

本来健康とは、大自然と繋がり、精靈や妖精と調和することで人間に力を与えてくれるから健康でいられます。天使の管理下の下、精靈と妖精は万物に宿り、生命の順位も駆別もなく自然界のひとつひとつを育んでいます。

大靈<sup>たいれい</sup>のFUGEHEKINは完璧であり、地球はこれからもずっと地軸を中心に回轉<sup>かいてん</sup>し續け、太陽はこれからもずっと輝き續けます。すべての天體<sup>てんたい</sup>が定められたコースを運行<sup>つづ</sup>し續けます。潮は月の引力と斥力により満ち引きを繰り返し、春の後には夏が、夏の後には秋が、秋のあとには冬がめぐってきます。

それはその背後で支える大靈<sup>たいれい</sup>のFUGEHEKINが無限であり誤まることが無いからです。これだけの大自然の見事なサポートの仕組みを知ったからには、それと同じ靈力が地上世界のこととでしくじりを犯すことがあり得ません。それが永遠不變<sup>ふへん</sup>の法則なのです。

地上世界の人間にとって、健康と豊かさが最大の望みであり幸福です。健康なくしては調和の實踐も靈性の進化も不可能です。そのために、自分自身の靈<sup>EXA PIECO</sup>の心に耳を傾け、地球のあらゆる万物を尊ぶこと、共感力を養うことが本当の健康と幸福に繋がることに気づく必要があります。

## 第八章

### 最先端<sup>かがく</sup>科学、周波数の叡智

病める地上世界を救う周波数の叡智

靈的真理<sup>いのち</sup>と生命の調律が合わさる時

地球人類に眞の福音が訪れる



## 靈的眞理の適用について



惑星地球文化の中核は、<sup>かがく</sup>「科学」、<sup>いがく</sup>「医学」、「政治」、「経済」、「教育（※宗教）」になりますが、すべての分野が「<sup>大</sup>FUGEHUKON」の「<sup>霊</sup>FUGEHEKIN」の<sup>自然法則</sup>に反した文化を築いており、それが地上世界を地獄のような世界にできてしまっています。

### 【地上世界の悲劇の根本的な内容】

- ① <sup>ミクロ</sup>小規模と<sup>マクロ</sup>大規模の戦争
- ② 教育のマインド・コントロールによる魂の牢獄
- ③ 精神性の退廃、墜落による<sup>D I K A G</sup>顕在意識の<sup>エゴ</sup>EGHO意識の増大
- ④ 分かち合い意識の欠如による飢餓、貧困
- ⑤ 地球環境破壊、どうぶつ虐待
- ⑥ 調和の<sup>せつり</sup>攝理に反した行為による病人の激増

それらは靈的眞理の適用によってのみしか、問題解決は出来ません



スピリチュアリズムという地球人類救済計画の総指揮者のイエスの教えである『シルバーバーチの靈訓』でも、靈的眞理の適用について、このように述べられています。

眞の平和は靈的攝理<sup>せつり</sup>を適用することによってしかもたらされないということを、地上人類はいつになったら悟るのでしょうか。戦争はもとより、それが生み出す流血、悲劇、混沌、破綻といったものの元凶は「利己主義」なのです。奉仕聖者が利己主義に取って代わることによってのみ、平和が訪れることを知らなければなりません。

『シルバーバーチの教え（新版・下）』 p.68

和平へ向けていろいろと努力が爲されながら、ことごとく失敗しています。が、唯一試みられていないのは「靈的眞理」の適用という方法です。それが爲されないかぎり戦争と流血が終わることはなく、ついには人類が誇りに思っている物質文明も破綻をきたすことになるでしょう。

『シルバーバーチの教え（新版・下）』 p.68

その靈的眞理の眞髓は、「FUNEKON<sup>靈</sup>優位」、「EXA PIECO<sup>靈の心</sup>優位」の生き方、そして「調和の實踐」による「靈的成長」という教えに集約されます。その教えは、「FUGE<sup>大</sup>HUKON<sup>靈</sup>」に対する神意<sup>あい</sup>と信仰心が必要不可欠であり、「FUGE<sup>大</sup>HUKON」の「FUGE<sup>靈</sup>HEKIN<sup>自然法則</sup>」に対する正しい理解も必要不可欠になります。

FUGE<sup>大</sup>HUKON<sup>靈</sup>に対する神意<sup>あい</sup>と信仰心は「禱り<sup>いの</sup>」が必要不可欠、FUGE<sup>大</sup>HUKON<sup>靈</sup>とFUGE<sup>大</sup>HEKIN<sup>自然法則</sup>に対する正しい理解には「靈的眞理の學習」が必要不可欠、両者が揃って、調和の實踐を通した靈的成長が本当の意味で可能になります。





どういう現象が見られたとか、どんな音が聞こえたのかということは大して重要ではありません。もっと大切なことは、サークルのメンバーの靈性の開発です。

あなた方は毎週一回この<sup>こうれいかい</sup>交靈會に参加していますが、それによってより高度なバイブレーションに波長を合わせ、太古からの靈的叡智にいつそうなじむようになっています。靈的叡智は、地上という物質界に届けられることを待ち續けています。それが実際に地上に届けられるためには、そのバイブレーションに同調できる<sup>チャンネル</sup>通路が必要となります。

あなた方の魂が開発されてより高度なバイブレーションに<sup>はんのう</sup>反應するようになれば、それだけ高度で強力な靈的エネルギーと接触できるようになります。そのエネルギーは目にも見えず耳にも聞こえませんが、永遠の靈的實在の一部です。

『シルバーバーチの教え（新版・下）』 p.36～p.37

靈的世界と地上世界を繋ぐものは「<sup>フリークエンシー</sup>周波數」であり、違う表現だと「<sup>バイブレーション</sup>振動」であり、日本語だと「波動」と言われるものになります。日本語で周波數を表す言語は「氣」であり、万物は「氣＝周波數」によって秩序をもって自然界を管理、コントロールしています。

眞理が<sup>か</sup>變わることはありません。<sup>か</sup>變わるのは人間の心です。眞理は<sup>ふへん</sup>不變です。なぜなら眞理は正しい知識に基づくものだからです。その正しい知識は<sup>たいれい</sup>大靈から出ています。<sup>たいれい</sup>大靈こそ、すべてのインスピレーションの中心であり始原です。眞理はとてもシンプルで、容易に理解できるものなのですが、地上人はそれをきわめて難しいものにしてしまっています。

『シルバーバーチの教え（新版・下）』p.38

FUGEHUKONは、<sup>大靈</sup>振動によって靈的世界と地上世界を繋げ、FUGEHUKONの<sup>大靈</sup>振動に一致したときにインスピレーションが起きます。<sup>自然法則</sup>FUGEHEKINとは「<sup>フリークエンシー</sup>周波數」と言い換えることが可能です。

インスピレーションの始原は<sup>大靈</sup>FUGEHUKONであり、靈的世界の存在と<sup>バイブレーション</sup>振動が一致した時に「インスピレーション」という形で「<sup>ガイダンス</sup>人生の導き」が手に入ります。全ての時代の靈的指導者は、高度な<sup>バイブレーション</sup>振動に同調し、その時代に必要なインスピレーションを地上世界に降ろしていました。

靈界からのメッセージを受け取る<sup>チャンネル</sup>通路に「靈媒」は必須です。スピリチュアリズムという地球人類救済計画の中心は「靈界通信」です。そして、靈界通信を通した「靈的眞理の普及」が大目的となります。その目的に、地上から「インスピレーション方式」で靈界と交信するための前段階に必要なのが「音叉によるセルフヒーリング」なのです。

## シャーマンという地上世界の靈的指導者



シャーマンは、10000 年以上も前の新石器時代の「巫（<sup>ふ</sup> Wu）」と呼ばれる療術師が始祖的な存在になり、人生の<sup>ブループリント</sup>青写真、<sup>てんたい</sup>天體と<sup>じんたい</sup>人體の<sup>しょうおう</sup>照應關係に気づいた先驅者は、古代<sup>ちゅうごく</sup>中國にいた「<sup>う</sup>禹」でした。<sup>う</sup>禹は 5000 年前の黄河沿岸の<sup>でんせつ</sup>傳説的な首長でありシャーマンでした。

シャーマンとは、靈的世界と地上世界を繋ぐ「靈的指導者」であり、その最高峰の靈的指導者がナザレのイエスであり、イエスは靈能者であり、ヒーラーでもありました。

シャーマンは、祭祀や儀式、悪魔祓い、予言、ヒーリングを行う者ですが、そのシャーマンの使う「音」によって、祭祀、儀式、悪魔祓い、予言、ヒーリングが行われていました。靈的指導者の出す「<sup>バイブレーション</sup>振動」によって人々を導いていたのです。

そうした存在の出す「音」で意識を「<sup>トランス</sup>變性意識」、「<sup>トランス</sup>變性状態」に導き、元々いた次元に繋がります。神や高次元と呼ばれる世界とも繋がりがやすい状態にします。それは「**多重波**」を使用することで、靈的世界との繋がりをもたらししていました。



靈的指導者は、<sup>いでんし</sup>遺傳子が人間本来の「12 重螺旋構造」に近い状態なため、自然に「心靈能力」を発揮できました。地球の地上世界の人間は DNA 構造を二重螺旋構造と思っていますが、音によって DNA を進化させることは可能であり、本来は誰しも 12 重螺旋構造であり、その殆どの DNA（※約 98%）がジャンク DNA として眠っているだけです。

音は 360 度から情報が来るものであり、**靈的指導者は古來から音によるヒーリングをしていました。**楽器などは元々治療として使われており、例えばアボリジニの楽器である「ディジュリドゥ」などは **40000 年前には脊髄治療に用いていた**という文献もあります。

すべては「<sup>バイブレーション</sup>振動」で成り立っているので、「言葉、形、色、文字、香り」、これらは「<sup>バイブレーション</sup>振動」であり、その根源は「音」です。闇とは「門」＋「音」であり、<sup>ひかり</sup>闇とは「<sup>バイブレーション</sup>光を生み出す源泉」であり、その本質は自分自身の内側の「<sup>バイブレーション</sup>振動」のことを表しています。

シンプルな刺激と複雑な刺激による多重構造の音を聞くことにより、脳内は活性化されます。 シンプルな音ばかりでは脳がマンネリ化します。

**多重波(複合音)は脳梁、視床下部、前頭前野、楔部(けつぶ)への磁気振動に影響を与える。そこから「神経系」→「心」→「魂」へと影響を拡げる。**

多重波による脳と抹消神経への直接的な刺激により脳は活力が漲ります。なので、セルフヒーリングでも様々な音を使います。音を聞いてビジョンが見えてくるといった現象が発生するメカニズムは、目で見た時とは全く違った経路を辿って脳を刺激するからです。

それにより、わたし達の<sup>いでんし</sup>遺傳子の<sup>へんかん</sup>構造變換が始まり、靈的眞理が付け加わることで人々を正しい方向に導くことが可能になります。



## 宇宙は音で始まり、やはり最後は宇宙は音で満ちている



音は基本的に自然物から發する音が心身によく、ネイティブでの祭祀でシャーマンは太鼓、ベル、笛、石や木、周辺の物を叩いて音を出していました。自然物にて音を意圖<sup>いとてき</sup>的に出す行為は、人間と天體<sup>てんたい</sup>の音との繋がりを強くし、音により神と繋がると古來よりされてきました。

樂器はなるべく自然の素材を使用して作製された樂器がよく、デジタル音、プラスチック等人工物、鍵盤樂器は自然のリズムを變化<sup>へんか</sup>させてしまい、機械的、画一的になってしまい、シンプルな刺激しかなくなってしまうので好ましくはありません。

様々な情報を調べていくと、古代より人類は音の神祕の力を活用していることが分かってきます。古代エジプトやアイルランド、アフリカなど世界中で様々な音の作用により治癒力を高めていたことが判明してきています。

地球人類の殆どの方は<sup>D I K A G F I K</sup>顯在意識と潜在意識が分離しています。<sup>D I K A G</sup>顯在意識にある<sup>エゴ</sup>EGHO意識が本質からのメッセージ、インスピレーションを妨げるのです。そうしたマインドを取り除くために音を使用し、ハートを開いていくことを古代人はしていました。音により肉の心<sup>D I K A G</sup>重視の生き方から<sup>EXA PIECO</sup>靈の心を重視した生き方にシフトすることが可能なのです。

そもそもわたし達のカラダそのものが「フィールド理論」の側面から捉えると、<sup>じんたい</sup>人體の構造は「楽器」と言えます。骨が木琴などの打楽器であり、胃はオカリナ、食道器官は管楽器、肺はアコーディオンに似ています。小さいカタカタ音がする楽器は腎臓と共鳴します。

太鼓は古の時代から存在し、心臓の治療に用いていました。古代エジプト、バビロニア文化では日常に最低二種類のドラムを使用しており、低周波と高周波のミックス音による多重波を発生させ、治療効果を高めたりしていたことが判明しております。

また、アボリジニの楽器であるディジュリドゥでは一本の楽器から発生するシンプルな鳴りと複雑な共鳴による多重波を発生させ、アボリジニはディジュリドゥの多重波により全ての種類の骨折、筋肉痛など様々な病気を治していました。

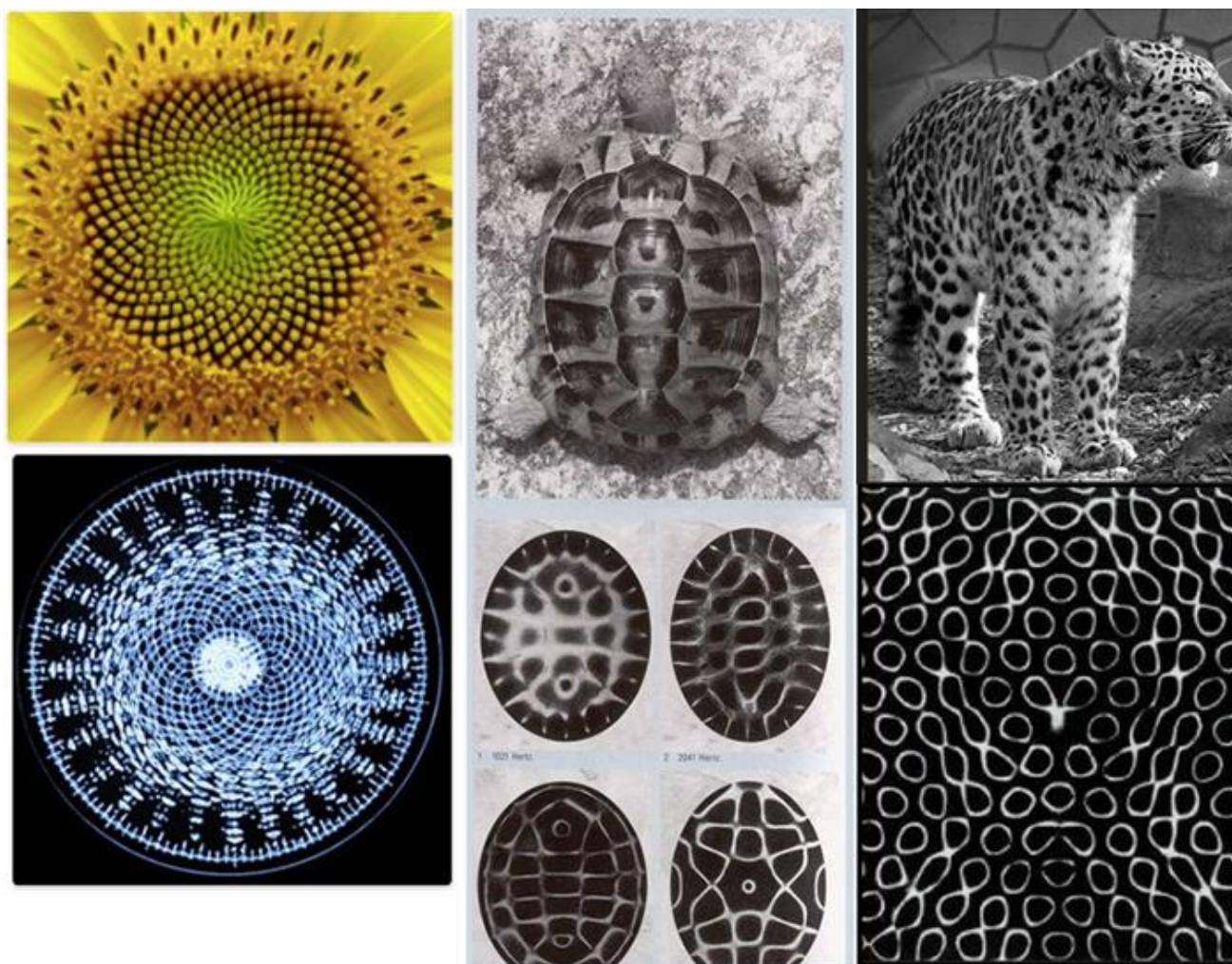
古代ローマでは傷ついた戦士を癒すために滞在場所に使われた寺院などで様々な楽器や音を使用して治療効果を高めようとした記録が残っています。楽器ではなく歌も、グレゴリオン聖歌の讃美歌やララバイなどで多くの人を癒すと言われ、活用していたようです。

聖書ではイエスはハープかライアーかの弦楽器で治療をしていたという文献も存在しており、弦楽器は神経系の治療に用いていたようです。パイプオルガンは呼吸器系を司る臓器や氣道の治療に用いていました。

全ての植物が、あらゆる星々の違った複数の組み合わせの星から<sup>ひかり</sup>光を受けることで様々な形や色が作られていきます。見える<sup>ひかり</sup>光と見えない<sup>ひかり</sup>光がありますが、その<sup>ひかり</sup>光も音であり周波数であり、そうした宇宙の音楽が植物の生命の源になることも NASA 等の研究で明らかにされつつあります。

NASA の職員は「宇宙は音で始まり、やはり最後は宇宙は音で満ちている」と語っています

## サイマティクスから明らかになる波動の世界



音の研究が解析されたのは「<sup>サイマティクス</sup>cymatics」という、音の振動が物質に与える影響を可視化する現象、またはその研究分野によってです。18 世紀の物理学者エルンスト・クラドニによって発見され、20 世紀のハンス・ジェニー博士（1904 年～1972 年）が命名しました。ジェニーはスイスの<sup>いし</sup>鑿師、物理学者であり、<sup>サイマティクス</sup>cymaticsの創始者です。

サイマティクスは砂や水などの<sup>えきたい</sup>液体に音を当てると、振動のパターンが形成される様子を観察する実験が有名です。ジェニー博士は研究の末、音による波動現象を、「無秩序なカオスではなく、動的で秩序だったパターンによるもの」だと結論付けています。



物理学の分野である量子力学では、「どうぶつ、植物、鉱物すべての物質は振動でできている」と言い表しています。つまり、あらゆるものにはそれぞれ固有の周波数があり、その周波数の組み合わせで万物は成り立っています。人間の身体も、身体<sup>しんたい</sup>の各臓器、各器官、各組織、体液<sup>たいえき</sup>、細胞それぞれに、特定の周波数を持つことが現代科学<sup>かがく</sup>で解明されています。

これはすなわち、シルバーバーチがいうように、大霊<sup>たいれい</sup>の自然法則の完璧さが科学<sup>かがく</sup>で証明されたことを表しています。これはスピリチュアリズムが明らかにした霊的真理であると言い切れますが、これをどう捉えるかは皆さんの自由です。

わたし達は<sup>たいれい</sup>大霊が定めた<sup>せつり</sup>攝理（法則）をお教えしようとしているのです。それを守りさえすれば、地上生活に健康と幸せをもたらすことができますからです。

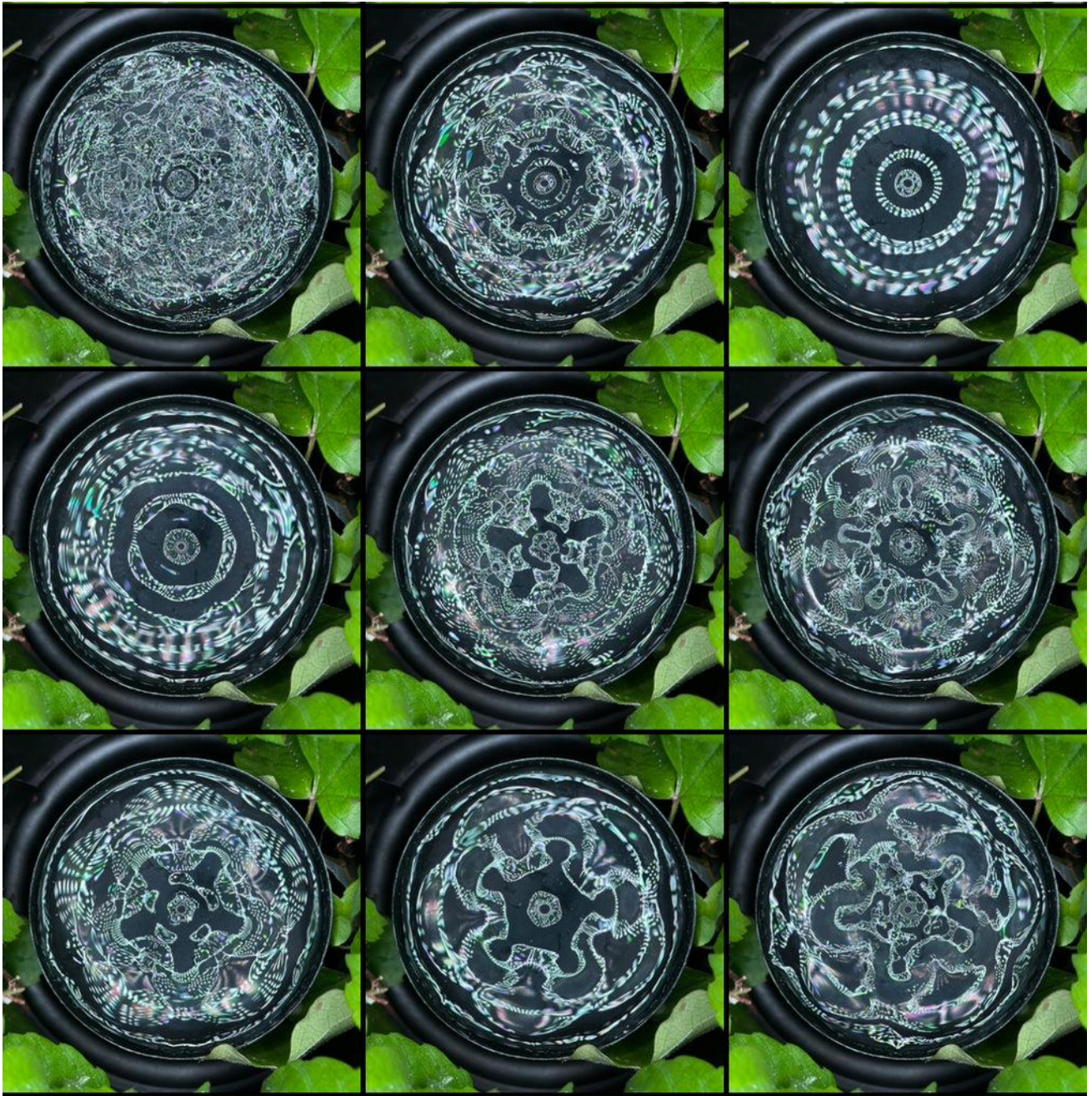
『シルバーバーチの教え（新版・上）』p.88

全ての植物が、あらゆる星々の違った複数の組み合わせの星から<sup>ひかり</sup>光を受けることで様々な形や色が作られている、これは複数の<sup>てんたい</sup>天体の組み合わせで成り立つことも判明しております。これは『星たちのダンス』という著書も含めて明らかになっている事実です。

各種の植物の形は色々ありますが、すべてが惑星の運行の周波数によって成り立っており、星の関わり、地球の歴史の中で繰り返される<sup>へんか</sup>変化と共に起きた世代交代による<sup>へんせん</sup>變遷、種子の記憶、星々の軌道と働きが生み出す周波数などが複雑に絡み合いながら微妙に<sup>へんか</sup>變化して現在の形として存在しています。

<sup>てんたい</sup>天体と<sup>じんたい</sup>人體は必ず<sup>しょうおう</sup>照應関係にあり、人間は星座、どうぶつは銀河、鉱物は恒星、植物は惑星の影響を色濃く受けて生きています。周波数の研究とは、「<sup>たいれい</sup>大霊の自然法則の追窮」であり、神の學問という事実に異論の余地はありません。

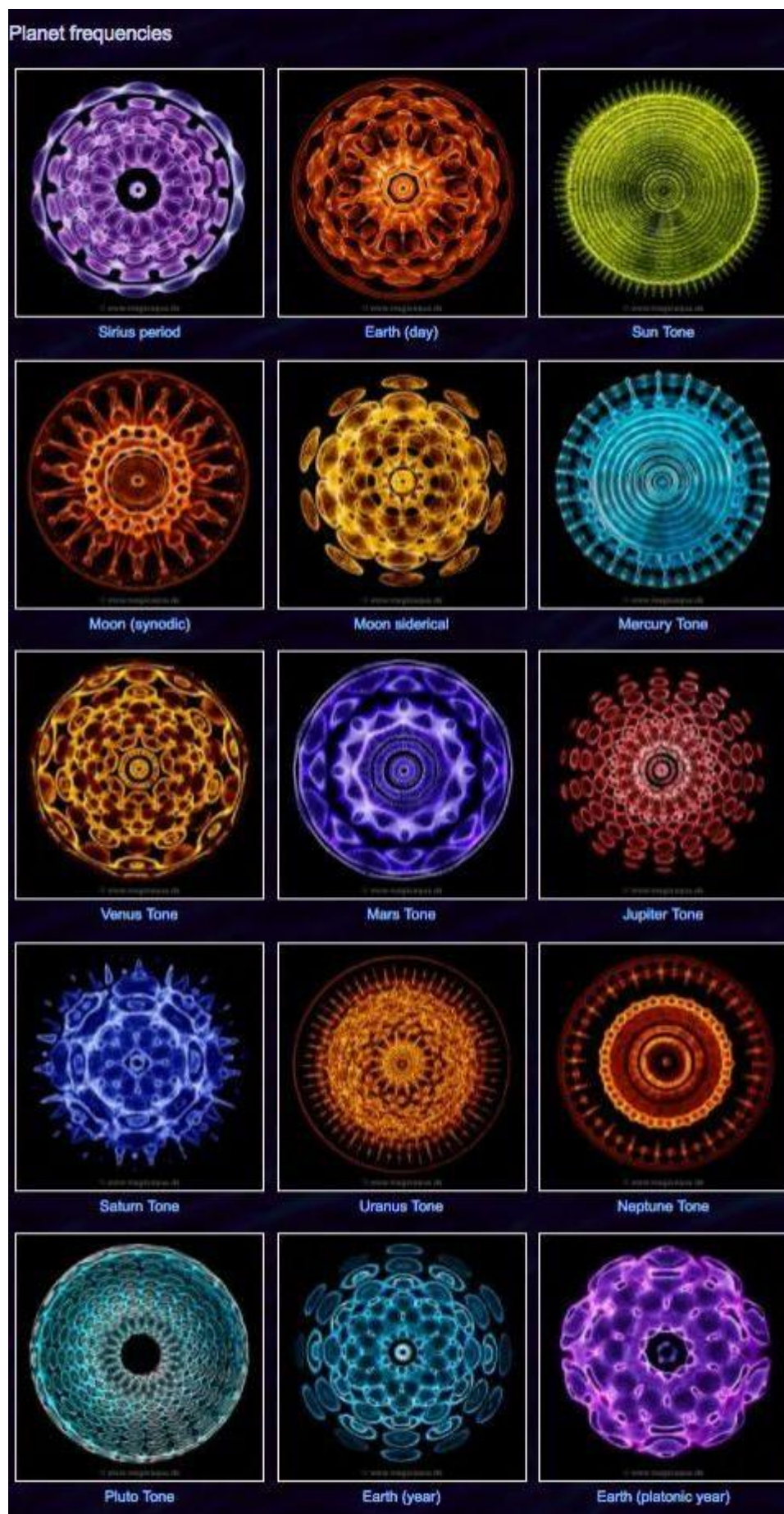




また、現代科学<sup>かがく</sup>のサイマティクス装置でさまざまな周波数の模様が研究されていますが、植物の周波数を音楽にする機械のスピーカーの上にサイマティクス装置を置いて薄く水を張ると、スピーカーから流れる音楽によって水に幾何学的<sup>きかがく</sup>な模様が現れます。

そして、周波数や音量を<sup>か</sup>変えると、生き物のように模様が刻一刻と<sup>へんか</sup>変化していきます。数秒前の波の余韻から今この瞬間の波までが足し算されることで作られた波形は、一度たりとも繰り返されることはありません。







「ありがとう」  
の文字を見せた水の結晶



「ばかやろう」  
の文字を見せた水の結晶

植物の周波数の波形が、惑星の周波数の波形と殆ど一緒なのは偶然ではありません。そもそも全生命は「<sup>ひかり</sup>光、空気、土、水」がないと生命活動を維持できませんが、物質世界で最も重要なエネルギーを問われたら、必ず「海水」と答えます。

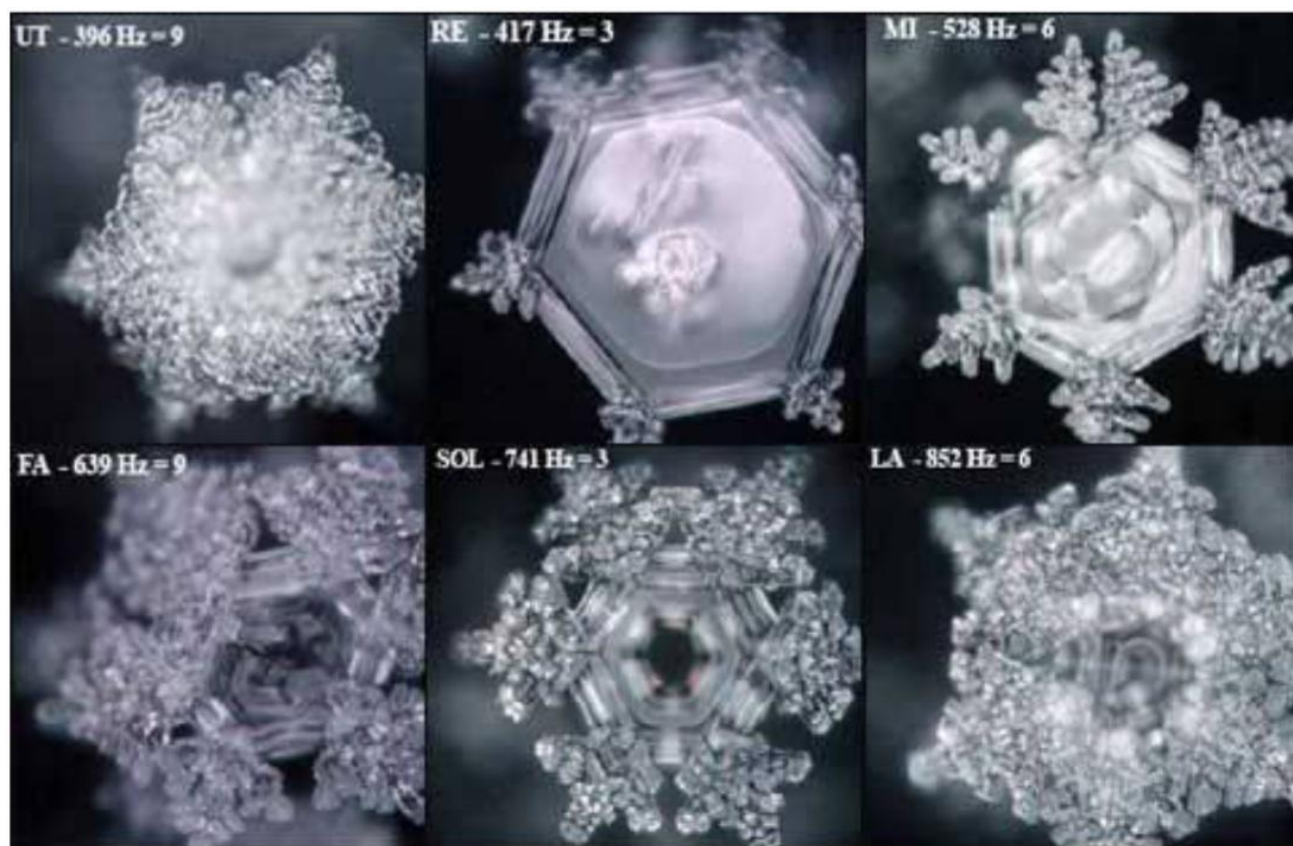
鉱物も植物も、「水」なくして形は成り立ちません。洋服も水分が完全になると最後はボロボロになっていきます。すべての生命は「保水性」がなくなった時に劣化が始まります。

そもそも<sup>精霊</sup>微生物は「海水」、「水」、「ミネラル」を通して「鉱物」と「植物」に働きかけますから、鉱物と植物などの砂や水などの<sup>えきたい</sup>液体に音を当てると、振動のパターンが形成されるという理論は正しい理論なのです。

日本人では『水からの<sup>でんごん</sup>傳言』が有名ですが、『水からの<sup>でんごん</sup>傳言』とは水の結晶である氷から言葉や音楽への<sup>はんのう</sup>反応が読みとれるとする江本勝の著書です。

この研究は「名勝の水」や「ありがとう」等の言葉を見せた水からは綺麗な結晶ができ、「水道水」や「ばかやろう」等の言葉を見せた水からはいびつな結晶ができるといった類のものであり、これはサイマティクスに通じるものがあります。





音叉によるセルフヒーリング入門編ツールの最重要セットである「聖なるソルフェジオ音階9本セット」も、水の結晶である氷から、音の振動が物質に与える影響を可視化することで形が判明しています。そして、「ありがとう」と「528Hz」の形が殆ど一緒なのも偶然ではありません。

水の本質的な作用とは「<sup>ひかり</sup>光の周波数から波形を形成」し、「空気を通して<sup>きたい</sup>氣體、<sup>えきたい</sup>液體、<sup>こたい</sup>固體と<sup>へんしつ</sup>變質しながらエネルギーを<sup>でんたつ</sup>傳達」し、「星屑から成り立つ元素と原子を通して周波数を記憶」する作用があります。

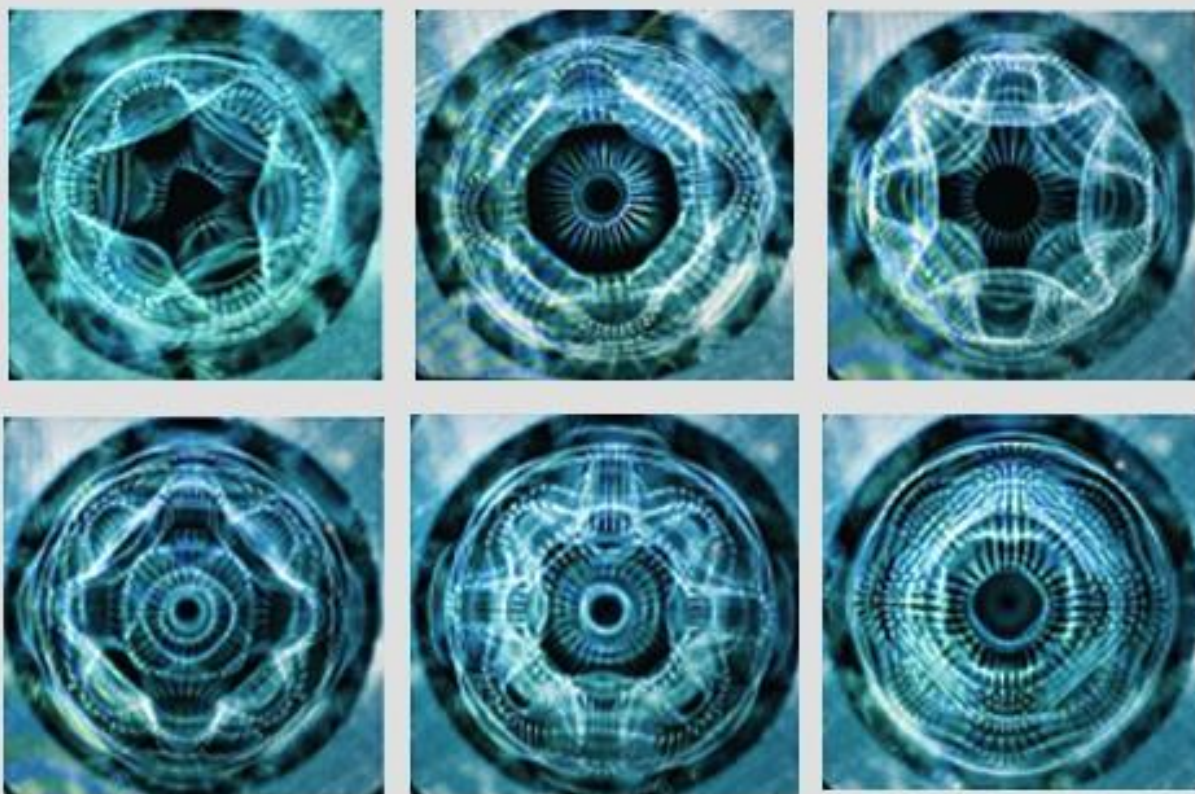
要するに、<sup>ひかり</sup>光、<sup>しゅうこうたい</sup>空氣、土のエネルギーの集合體が「水」なのです。そういう意味で水はエネルギーの<sup>ばいたい</sup>媒體そのものであり、そのエネルギーの中心の「音＝<sup>バイブレーション</sup>振動」によって靈的世界と物質世界を繋いでいます。地球人類が神祕の世界を知る鍵は「音」と「水」に答えを求めなければならないのです。



EXA PIECO

## 霊の心優位の場合の脳細胞の状態

### 健康な脳の細胞が発する音を可視化した画像



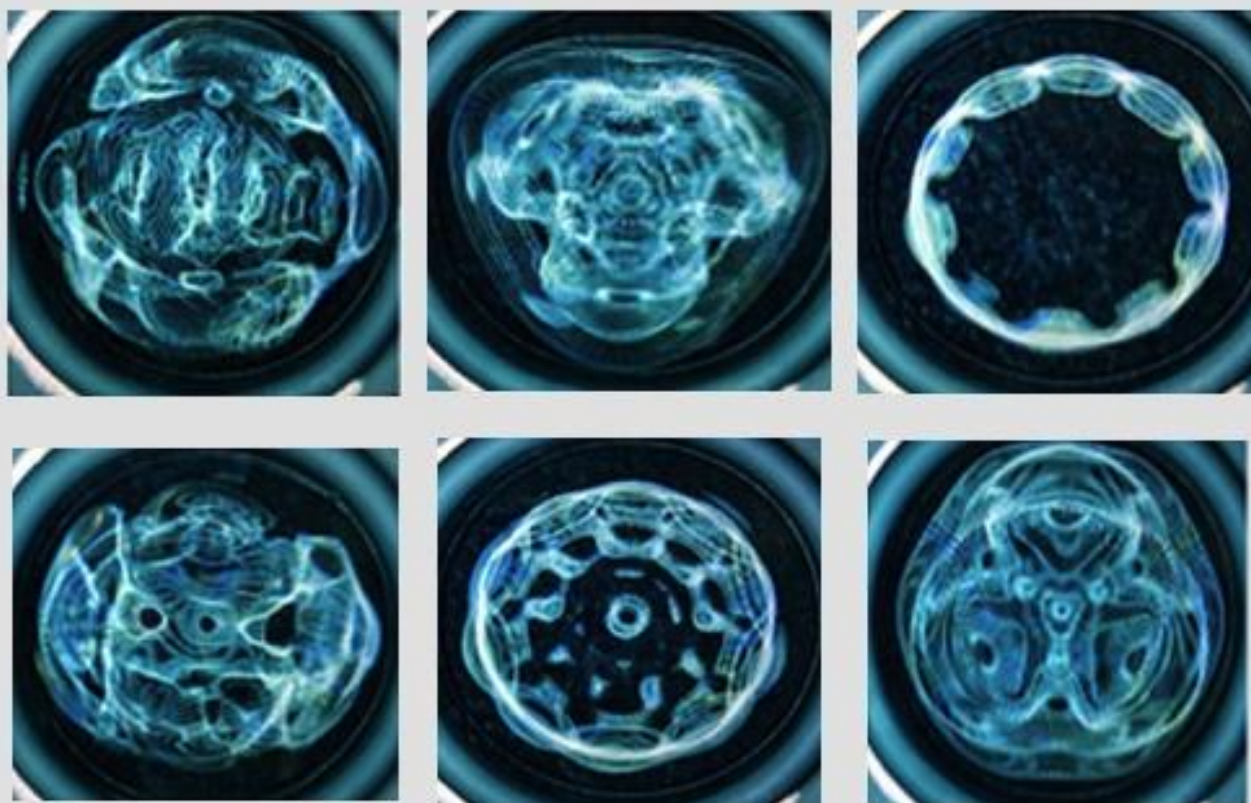
現代科学で、音は光よりもエネルギーの伝達の速度が「10 倍」と言われており、水の中で音は「4 倍」でエネルギーが伝達されることが明らかにされてます。大脳の 90% は「水分」であり、脳の栄養素は「音」だということも判明しています。

なので普段の日常生活での「音」が「顕在意識」に与える影響は甚大であり、光や電磁波や磁気波も結局は「音」の一種であり、わたし達の「心」に大きな影響を与えています。悪性の電磁波や磁気波などに囲まれて生きている場合、脳細胞がガン化していきます。

D I K A G

## 肉の心優位の場合の脳細胞の状態

### ガンになった脳の細胞が発する音を可視化した画像



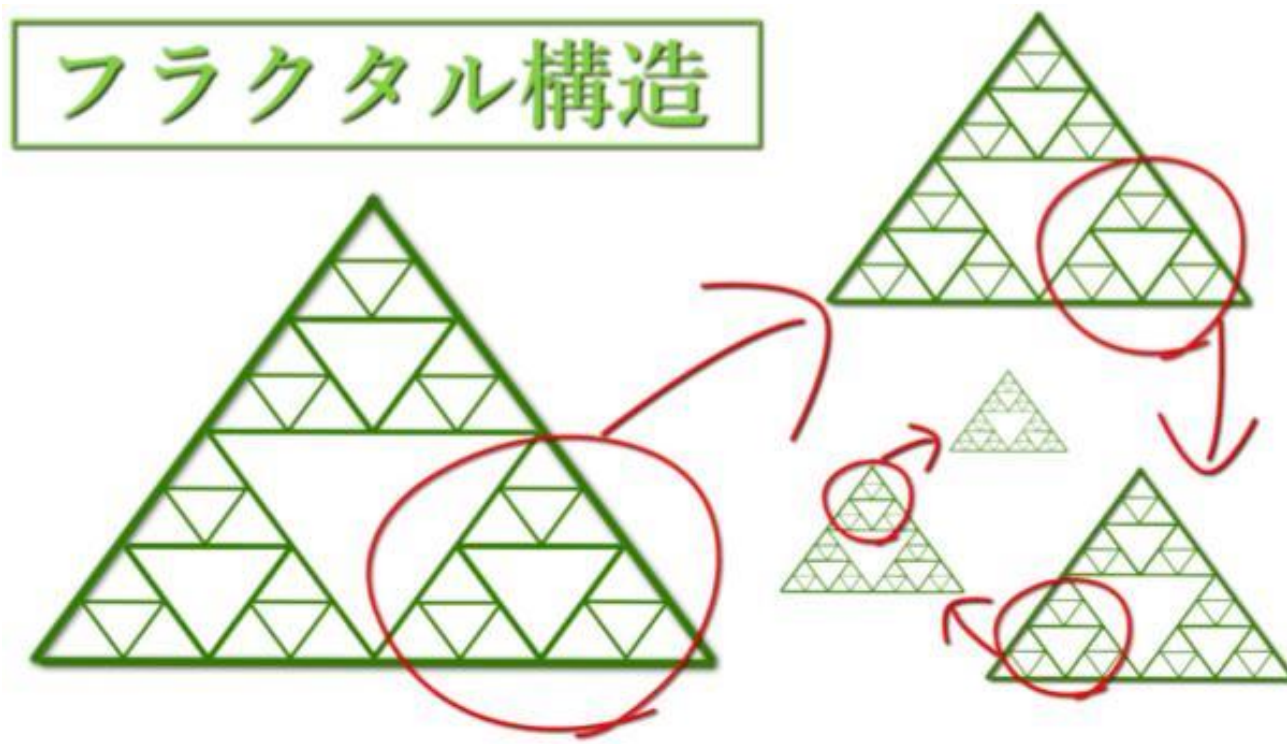
D I K A G

それは顕在意識が様々な要因で歪んでしまったからでしょう。農薬、添加物、化学物質、重金属、電磁波、これらが現代地球人類の病気の主な原因であり、これらが「細菌」と「ウイルス」の存在も生み出しています。

しかし、これらも結局は「霊的無知」からなる「利己主義」、「物質中心主義」により問題を引き起こしており、周波数の叡智についての正しい理解があれば、これらの問題を解決することも可能です。周波数の叡智の正しい適用は、地上人類の課題とも言えます。



音は「倍音」により物質次元を超えた影響を及ぼす



こうしたサイマティクスという水の<sup>かがく</sup>科学の研究というアプローチから、周波数の世界を研究する<sup>かがくしゃ</sup>科学者も地上世界に少数ながら存在しており、水面下では周波数に關しての様々な解析が進んでおります。

生命の形は「フラクタル構造」として、美しき數學的なパターンによって成り立っている事實は現代<sup>かがく</sup>科学でも徐々に解明されつつあります。フラクタル構造とは、<sup>ずけい</sup>圖形や<sup>ぶつたい</sup>物體の「一部」と「<sup>ぜんたい</sup>全體」が同じ形を繰り返す「自己相似性」を持つ構造のことです。

いくつかの<sup>てんたい</sup>天體の周波数を、「<sup>ホームトーン</sup>基音」を元に「<sup>インターバル</sup>音程」の組み合わせを<sup>か</sup>變えて複数を対象物に当てると、美しい形が次々と表れます。わたし達は無限に等しいほどの周波数の組み合わせで成り立っている存在です。

すべては周波数により形を成しているのが自然法則なのです

花などの植物の形を始め、形というのは「固有振動数」によって成り立っています。豹の模様なら 10101 ヘルツ、亀の甲羅なら 1088 ヘルツなど、万物の神祕は、周波数の世界に足を踏み入れることによってより魅力を増し、美しき<sup>いのち</sup>生命の尊さに触れていきます。

日本の古来の建築では、ふすまや障子越しに常に聴こえる風の音、小枝のそよぎ、葉の擦れ合う音、水の音の心地よい揺らぎのある世界。ありとあらゆる生命にエネルギーをくれる鳥のさえずりや虫たちのオーケストラなど、自然界の生命の音はわたし達を癒やしてくれます。

これらは「精霊」と「妖精」が自然界、生命界を管理し、維持し、万物の<sup>いのち</sup>生命を蘇生しようとしているからです。そして精霊と妖精を管理しているのが「下級天使」であり、鉱物、植物、どうぶつ達の番人をしています。

「その中で、最も重要なのは、「ソマチッド」は「<sup>妖精</sup>倍音」によって活性化するという事実です。音によるヒーリングは単音でもそれなりの意味があり、それなりのヒーリングの効果を発揮しますが、本質的には複合音として「<sup>オクターブ</sup>倍音」および「<sup>アコード</sup>和音」を発生させることにより音のヒーリングは眞の効果が生まれてきます」

和音は英語で「アコード」であり、「コード」とは日本語で「暗号」を表します。「和音」の意味とは「始まりの暗号」であり、倍音は英語で「オーバートーン」と言いますが、<sup>オクターブ</sup>倍音の本質とは「<sup>オーバートーン</sup>霊的世界と<sup>アンダートーン</sup>物質世界を繋げる暗号」を意味します。

シンギングボウル、別名チベタンボウルは、<sup>セブン</sup>7 メタルと言う金属素材（金・銀・水銀・銅・鉄・鈴・鉛）が「7チャクラ」に<sup>たいおう</sup>対応しており、ダンスのように<sup>かいてん</sup>回轉させることで、<sup>オクターブ</sup>倍音が発生し、<sup>オーバートーン</sup>霊的世界と<sup>アンダートーン</sup>物質世界を繋げる「磁場」が生まれます。

音楽と科学の分野には「<sup>かがく</sup>上方倍音」と「<sup>アンダートーン</sup>下方倍音」という法則がありますが、これはそのまま「<sup>オーバートーン</sup>霊的世界」と「<sup>アンダートーン</sup>物質世界」という意味になるのです。





わたし達の世界にも<sup>オクターブ</sup>倍音は溢れており、人の声、家庭やオフィスで使う機器、<sup>どら</sup>銅鑼の鐘、ディジュリドゥ、鳥のさえずり、虫の音など。そして音叉にも<sup>オクターブ</sup>倍音の<sup>バイブレーション</sup>振動が含まれています。「<sup>ホームトーン</sup>基音」と「<sup>オクターブ</sup>倍音」の関係性が「<sup>インターバル</sup>音程」をつくるからです。

音叉セルフヒーリングにおいて<sup>インターバル</sup>音程は「奏者の意志」を表します。<sup>インターバル</sup>音程とは2つの音の隔たりのことであり、2つの音の響きを合わせたものが、「和音」や「倍音」の響きになります。「<sup>インターバル</sup>音程」は「<sup>ホームトーン</sup>基音」との位置関係によって決まります。

音叉による「<sup>いのち</sup>生命の演奏」は、複数の音（フォーク、ヘヴィーフォーク、エナジーバー、ヒーリングパイプ）を同時に鳴らすことで、独自の響きと個性を持つ<sup>インターバル</sup>音程が生まれます。こうした音が、自分自身の「<sup>いのち</sup>生命の調律」へと繋がっていくのです。

なので、音のヒーリングで真の効果を發揮するには、倍音、和音による複合音が必ず必要になります。シンギングボウル、クリスタルボウルも倍音による癒し効果により物理次元を超えた多次元的なヒーリングが可能になります。倍音と和音を駆使した「多重波」によるヒーリングは、単音でサウンドツールを使用する何倍～何百倍もの効果の差を生み出します。

しかし、現在の地上世界での音叉ヒーリングは「フォーク」および「ヘヴィフォーク」を扱う音叉ヒーリングが殆どであり、「エナジーバー」「ヒーリングパイプ」というサウンドツールと融合した音叉ヒーリングを教えているスクールは、地上世界中を探してもありません。

当スクールと他のスクールの最大の違いは「あらゆるサウンドツールを複合して使う点」にあります。「サウンドツールを三位一體さんみいつたいで使用すること」により、生命いのちの演奏を通した生命いのちの調律は眞の効果を發揮していきます。

逆をいうならば、エナジーバーやヒーリングパイプを使用するか、使用しないかが體感たいかんや効果の差をかなり左右してしまいます。それ以外でも、「調和」のために複合できるものは何でも複合してしまうというのが当スクールの考え方になります。

音と音の「複合波」がかなり大切です。ヘヴィフォークタイプか、フォークタイプだけだと、酷い詰まりがある部分だと浄化が難しいケースがあります。この詰まりは、感情だったり、物理的だったりケースは様々ですが、こうしたケースは非常に多くあります。

しかし、複数を同時に奏でることで、異なる周波数はもちろん、同じ周波数でも「多重波」が生まれ、顯在意識D I K A Gの複雑に入り組んだ古い情報や思考習慣を粉碎、突破できるようになります。これが「靈性の進化」のために必要なことなのです。

音治療の本質とは、カラダや精神面の深い安らぎだけでなく、目的として使うサウンドツール次第で靈的次元を高めたり、神意あいの波動を高めたり、意識を明るく前向きにさせたりと、魂レベルの調整を行うことに本質があります。

世界中のヒーリングメソッドを調べてきた中で、音ほど魂レベルに響かせ、生き方を新生させるメソッドは他には知りません。それは、理性的な判断が介在せず、直接脳の深部にエネルギーが届き、心や魂に訴えかける力があるからだと感じています。

## 惑星地球と地球人類を甦らせるために



音叉ヒーリングの使用はなにも人間だけに限定する必要は一切ありません。例えば、どうぶつ達への治療に導入している人達もいますし、わたしもどうぶつ達のヒーリングに使用しています。経絡、<sup>ツボ</sup>経穴は、どうぶつ達それぞれ、人間と同じように存在します。

また、音叉を当てずとも、鳴らしているだけでもどうぶつ達はその音の波動に癒されています。どうぶつ達の波動のキャッチ能力は、基本的に人間より上です。音の周波数が自然界と共鳴し、どうぶつ達も自然に癒されていくのでしょうか。普段は凶暴だというペットも、音叉の波動を浴びている間は大人しくなると、どうぶつと暮らしている方は必ず言います。

人間とどうぶつの基本的な関係は「高級天使」と「下級天使」の管理下の違いだけで、本来は<sup>あい</sup>神意による関係性を築くことが原則です。そしてその関係を築く役目は、一方的に人間に負わされています。

人間に他の<sup>せいめいたい</sup>生命體、鉱物、植物、どうぶつを支配する能力が与えられているということは、人間には「神の代理者」として、他の<sup>せいめいたい</sup>生命體を調和、協調関係、分かち合いすることが人間の「責任」と「義務」であることを意味しています

なぜなら人間は、大<sup>たいれい</sup>靈によって高度な知性と精神、そして顯<sup>D I K A G</sup>在意識の自由意志という特権が与えられているからです。これまで地上世界の人間は「靈的無知」ゆえに、どうぶつ達と正しい関係を築くことができませんでした。

それどころか、大<sup>たいれい</sup>靈の自然法則に反する「どうぶつ虐待」という間違っただけの行爲に走ってきました。地上世界でどうぶつ虐待は常態化し、地上世界の人間は日々大きな罪を重ねています。これまでの地球の地上世界の實情は、そうした神の計画から大きく外れていました。

現在では、本来は神意<sup>あ い</sup>の対象であるはずのどうぶつ達が人間の食料にされています。神の計画の中には、どうぶつ達を殺して人間の食料にするというようなことは含まれていません。大<sup>たいれい</sup>靈がどうぶつ達に生命を与えたのはであって、人間が生命を与えたのではありません。

人間と同じように、どうぶつの生命は大<sup>たいれい</sup>靈のものなのです。したがって人間には、どうぶつ達の生命を奪う権利はなく、どうぶつ達を殺して食料とすることも許されていません。こうしたことを考えると、現在の地球の地上世界の人間がいかに異常な状態かが分かります。

また、人間に飼われているどうぶつ達の9割以上は精神が病んでしまっています。どうぶつ達は飼い主のせいでノイローゼになってしまっています。理由は、飼い主の勝手などどうぶつ達への解釈によるコミュニケーション不足が最大の原因です。

しかし、飼い主とペットが、本質的な部分でコミュニケーションを取っている場合は、例外のようで、調和と神意<sup>あ い</sup>のサイクルの表現になるようです。そうした本質的な部分でのコミュニケーションを促すという意味でも音叉は非常に有用です。

どうぶつ達の心を癒すことにより、地球人類も蘇生の方向に向かいます。どうぶつ達も我々人間と同じ生命であり、人間の都合で勝手に傷つけていい道理はありません。そうした自然法則に反した行爲は必ず当人に苦しみとなって返ってきます。それが法則だからです。





どうぶつ達を食料と考え殺害することは、最も自然法則に反した<sup>エゴ</sup>EGH<sup>0</sup>的な行爲です。どうぶつ虐待や肉食は、人間の靈性の低さがもたらす「調和の欠如」という「<sup>あい</sup>神意という<sup>せつり</sup>攝理への違反行爲」です。

こうしたあまりにも常軌を逸した<sup>エゴ</sup>EGH<sup>0</sup>的な行爲に対して、人間はその罪に見合った罰としての苦しみを必ず背負うことになります。<sup>あい</sup>神意という<sup>せつり</sup>攝理違反という「罪」は、苦しみという「罰」を通して償うことになります。

その償いの苦しきは、さまざまな病氣という形で必ず現れます。肉食が病氣の大きな原因であることは遠い地球の未来で<sup>いがく</sup>醫學の常識になっていきます。肉食が必要などという現在の間違った<sup>いがく</sup>醫學の見解は根本から修正されるようになります。

また、現代地球文化では新しい薬品や商品を開発するために「どうぶつ実験」が盛んに行われています。しかし、そうした行爲も完全に間違いです。どうぶつ実験などという虐待をしなくても、人間の病氣を癒す方法はいくらでもあります。

弱い立場のどうぶつ達を利用しなくても、もっと治療効果のある療法は存在します。海水、鉱物、植物、そして音叉セルフヒーリングもその一つです。シルバーバーチは、どうぶつ実験についてこのように意見を述べています。

——いわゆるどうぶつ実験では本当に役立つものは得られないということを人類が理解する段階はもう来ているのでしょうか。そのことに理解がいけば、それは道徳的ならびに靈的生活における大きな進歩を意味することになるのでしょうか——

どうぶつ実験によって何一つ役立つものが得られないというわけではありません。が、その手段は間違っていると申し上げているのです。何の罪もないどうぶつに残酷な仕打ちをすることは靈的なことすべてに反するからです。人間は自分のすることに責任を取られます。

動機は正しいといえるケースも沢山ありますし、それはそれとして靈的發達に影響を及ぼします。攝理とはそういうものなのです。がしかし、神は、子等がどうぶつへの略奪と残忍な行爲によって健康になるようには計画しておられません。それは改めて強調する必要を認めないほど明らかなことでしょう。

がくしゃ  
學者が道を間違えているのはそのところです。人間の方がどうぶつより大切な存在である。よってそのどうぶつを実験台として人間の健康と幸福の増進をはかる権利がある、という弁解をするのですが、これは間違っております。共存共榮こそが攝理なのです。

『シルバーバーチの靈訓（八）』 p.191～p.192

どうぶつ達の生命も、等しく平等であり、わたし達人間と何も変わりません。その神意すべき仲間、どうぶつ達にも、深い癒しが必要であることを忘れてはなりません。

ある日のシルバーバーチの交霊會<sup>こうれいかい</sup>で、一人の参加者がシルバーバーチに「イエスは どうして どうぶつへの神意<sup>あ い</sup>を説かなかったのですか？」と質問しました。

それに対してシルバーバーチは——「(2000 年以上前の地上人類は) 当時はまだ人々の靈性が低く、どうぶつに対する神意<sup>あ い</sup>を示す段階にまで至っていなかったのです」と答えています。イエスの時代には、人間同士の神意<sup>あ い</sup>の重要性を明らかにすることで精いっぱいだったのです。

自然界の生命はすべてが複雑にからみ合っており、人間の責任は、人間どうしを超えて草原のどうぶつや空の小鳥にまで及んでいます。抵抗するすべを知らない、か弱い存在に苦痛を与えることは、ぜひとも阻止しなくてはなりません。(中略) 小鳥やどうぶつに対して平気で残酷なことをする者は、人間に対しても平気で残酷なことをするものです。

『シルバーバーチの靈訓 (八)』 p.204～p.205

スピリチュアリズムは、地上人類史上初めての本格的などうぶつ福祉運動であり、スピリチュアリズムは、人間だけを悲劇から救済することだけを目的としているわけではありません。人間を含めた、地球上のすべてのどうぶつ達を悲劇から救済することも目的としています。

人間が<sup>エ</sup>EGH<sup>ゴ</sup>意識に走り、自分たちの利益と幸福だけを追い求めて他のどうぶつ達を犠牲にするなら結局、神が人間のために用意してくれた幸福を手にはできなくなります。地上人類はそこを正しく理解し、生き方を調和に改める必要があるのです。

スピリチュアリズムの地球人類救済計画、ならびに地球人類の靈性の向上のための最後の關門は、地球人類の悲劇である「地球環境破壊、どうぶつ虐待」の問題をどう解決するかが最大の鍵です。音叉による生命<sup>いのち</sup>の調律は、その問題を解決するための糸口になり、万物を尊ぶ生き方へのシフトを促します。





現在の地球人類が抱える様々な問題の解決策は、「地球人類が靈性を高める努力」以外にはありません。「地球環境破壊、どうぶつ虐待」の問題の解決は、人々が自然法則に適った生き方をして初めて可能になります。

環境問題とも密接に関わっている農業ですが、農業の問題は深刻な健康被害を生み出しています。地球人類の未来の農業は、靈的真理の普及と、音叉による生命の調律を通して、靈性を高めた上で「<sup>精</sup>微生物」と「<sup>妖</sup>ソマチッド」を味方につける「靈性農業」にしていかなければなりません。

音叉は使う周波数次第ですが、生命の根本原理に関わる「<sup>精</sup>微生物」と「<sup>妖</sup>ソマチッド」を活性化させるので、自然界にもよい影響を与えるのは当然です。地上の人間が「<sup>大</sup>FUGEHUKON」の「<sup>自 然 法 則</sup>FUGEHEKIN」に適った生き方を心がけ、調和の実践を意識していたならば、<sup>精</sup>微生物と<sup>妖</sup>ソマチッドと最も親しい関係を築くことが出来ます。

人間が「<sup>大</sup>FUGEHUKON」の「<sup>自 然 法 則</sup>FUGEHEKIN」に忠實に従っていれば、<sup>妖</sup>ソマチッドの協力のもとで、ある程度まで自然界をコントロールすることが可能です。「音と<sup>せいめいたい</sup>微小生命體が相互に調律し合う」ことで、わたし達は自然界を蘇生させることも出来るのです。





音叉により宇宙と人をつなげるならば、地球と人をつなげることも可能です。また、人を癒せるならば地球を癒すことも可能です。こうした柔軟な発想は世界各地で水面下で拡がり、それを実践している方々は少数ながらも存在します。

アキュトニクス いがく  
Acutonics統合医学研究所では、音叉を使った植物の栽培法のレクチャーを教えています。音叉の振動音を植物に与えることにより、植物の成長が促進され、元気になったり収穫量が増えたり早まったりします。

種に音叉の音を浴びせる、土（とその容器）に音叉の振動を伝えるなど、様々なやり方で音叉の振動や周波数を植物に<sup>つた</sup>えます。もちろん使用する音叉はどれでも良いわけではなく、それぞれの方法論で決まっています。

また、ワイン生産にもサウンドツールを活用し、それらがどのような影響を与えるのかの研究もされており、それに対する結果もきちんと出ております。



こうした背景から農業への<sup>おうよう</sup>應用にもサウンドツールが有用なのは間違いありませんが、現実的にはまだまだ地上世界にその考えは普及はされていません。それどころか、現代<sup>かがく</sup>科學で証明されていることを疑う人間が殆どです。

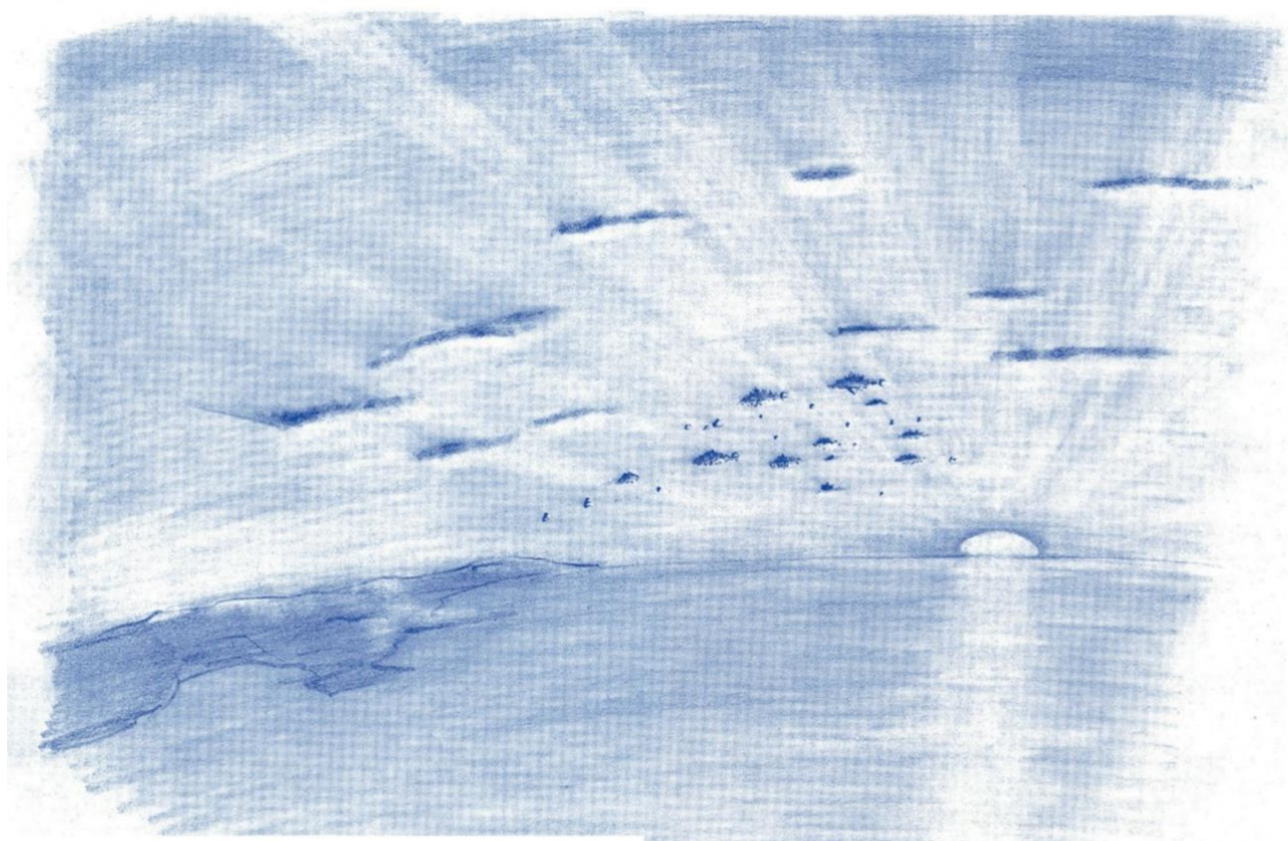
靈的眞理の普及と、音叉による<sup>いのち</sup>生命の調律の普及が地上世界で進んでいったならば、地上世界の悲劇の問題を根本的に解決できます。靈的眞理の普及は「<sup>ミ</sup>小規模と<sup>マ</sup>大規模の戦争」、「教育のマインド・コントロールによる魂の牢獄」、「<sup>せつり</sup>分かち合い意識の欠如による飢餓、貧困」を解決に導きます。

そして、音叉による<sup>いのち</sup>生命の調律の普及は「精神性の退廃、墜落による<sup>D I K A G</sup>顯在意識の<sup>エ</sup>EGHO意識の増大」、「地球環境破壊、どうぶつ虐待」、「調和の<sup>せつり</sup>攝理に反した行爲による病人の激増」の問題を解決に導きます。

これは決して理想論ではなく、あくまでも現実的にこの話をしています。宇宙と人を繋ぐ方法が現実にあることを知り、意識を再び目覺めさせ、この大宇宙の聖なる原則を<sup>たいけん</sup>體驗する方法が既にスピリチュアリズムを通して確立されているからです。

あとは、地上人生をかけて眞理への信仰實踐と、<sup>いのち</sup>生命の調律の普及をするだけです





和平へ向けていろいろと努力が爲されながら、ことごとく失敗しています。が、唯一試みられていないのは「靈的眞理」の適用という方法です。それが爲されないかぎり戦争と流血が終わることはなく、ついには人類が誇りに思っている物質文明も破綻をきたすことになるでしょう。

これが先ほどのシルバーバーチの言葉ですが、現代地球文化では、貪慾、強慾の類により、本当に必要な方々に、公平に豊かさが行き渡らないシステムになってしまっています。そして、シルバーバーチは利他、奉仕の實踐について、このように述べています。

肝心なことは、それを人生においてどう<sup>たいげん</sup>體現していくかです。心が豊かになるだけではいけません。個人的満足を得るだけで終ってはいけません。今度はそれを他人と分かち合う義務が生じます。分かち合うことによって靈的に成長していくのです。

『シルバーバーチの靈訓（一）』 p.118

ここで最初の話に戻りますが、人生で一番大切なことは「靈的成長」であり、靈的成長は「<sup>デヴィック</sup>DEVIKの實踐」を通してでしか不可能です。そしてシルバーバーチは、このように大事なことを述べています。

肝心なことは、<sup>デヴィック</sup>DEVIKの實踐を地上人生においてどう<sup>たいげん</sup>體現していくかです。自分自身の<sup>D I K A G</sup>肉の心が豊かになるだけではいけません。<sup>D I K A G</sup>顯在意識の<sup>エゴ</sup>EGHO意識による個人的満足を得るだけで終ってはいけません。

今度は靈的眞理を他人と分かち合う義務が生じます。他人と靈的眞理を分かち合うことによって靈的に成長していくのです。利他、奉仕、分かち合い、協調關係、平和、これらはすべて<sup>デヴィック</sup>DEVIKの意味に含まれます。人生とは<sup>デヴィック</sup>DEVIKを通して靈性を進化させていく、これが神の自然法則です。

靈的眞理や音叉による<sup>いのち</sup>生命の調律を一部の特定な人だけしか受け取れない<sup>しゃかい</sup>社會では、この先の地球人類の未來も絶望しか待っていません。個人的満足を得るだけでは駄目なのです。本当に苦しみ、病める人々にこそ希望が行き渡らなくて<sup>あい</sup>神意を語るのはおかしい話です。

惑星地球文化の中核である「<sup>かがく</sup>科學」、「<sup>いがく</sup>醫學」、「政治」、「經濟」、「教育」のすべての分野に「<sup>大</sup><sup>靈</sup>FUGEHUKON」の「<sup>自然法則</sup>FUGEHEKIN」が適用され、地獄のような地上世界を改革する方法はすでに確立されています。

シルバーバーチの靈訓の一節に、「地上生活なんかいい加減に送ればよいと言っているのではありません。あなたが送るべき全生活のほんのひとかけらに過ぎないことを申し上げているのです。その地球をよりよい生活の場とするために努力なさってください」とあります。これが最も大切なことなのではないでしょうか。



いつの日か、地上人類も「無償と自己犠牲を通した奉仕の實踐」、すなわちDEVICK<sup>デヴィック</sup>の實踐という神意<sup>あ い</sup>こそが地上世界の悲劇に終止符を打つことに気づく日が必ず來ます。調和の伴った神意<sup>あ い</sup>こそが大靈<sup>たいれい</sup>の顯現だからです。「神の意志、調和を顯現することが神意<sup>あ い</sup>の本質」なので

す。

靈的眞理を知り、靈的眞理の眞髓である「周波數」を學び、音叉による生命<sup>いのち</sup>の調律を毎日の日課とし、DEVICK<sup>デヴィック</sup>の實踐を決心し、それを具現化しようと努力し、日常生活のあらゆる問題に利他、奉仕、無私無欲の精神で生きる人間が増えるにつれ、地上生活に平和と調和が訪れます。

それ以外に地上世界と地球人類を救う方法など存在しません。平和は利他、奉仕、分かち合い、協調關係からしか生まれません。地上人類すべての人が奉仕の精神に目覺め、それを決心實行に移すようになるまでは平和は訪れません。

人生の道に迷った時、いったん活動を休止し、靜寂の世界に入ることが大切です。そして靈的世界からの指導と援助を求めて禱<sup>いの</sup>るのです。もしも靈的眞理に対する理性的的信仰による絶対的確信があるならば、与えられる靈力とインスピレーションと援助に限界はありません。

そして、わたし達はひたすら人々の役に立つ生き方を心掛け、實踐しているかぎり、常に大靈<sup>たいれい</sup>の保護と導きがあります。この叡智を知ることが出來たのは偶然でなく、皆さんの背後靈<sup>SEPOUW</sup>による導きに他なりません。後は、皆さんが地上人生をどのように生きたいのかだけです。

to be continued（後編に續<sup>つづ</sup>く）

音叉によるセルフヒーリングテキスト入門編 前編（理論編）

第一刷 2025 年 9 月 1 日

著者 廣瀬仁

【プロフィール】

1986 年生まれ。茨城県出身。2011 年にシルバーバーチの靈訓と音叉ヒーリング出会い、スピリチュアリズムの靈的眞理と音叉による生命の調律を實踐形式で独學で學んできた。また、健康に關しても追窮してきて、靈的眞理に適ったホリスティック健康學の理論を完成させる。地上人生で一番大切なことは靈優位による利他、奉仕の實踐を通した靈性の進化と確信を持ち、その思想を信仰實踐している。

【自己表現プロジェクト】

〒442-0807 愛知県豊川市谷川町洞 163-2 ペルシーモ 203

ホームページアドレス <https://self-expression.jimdosite.com/>

遠隔ヒーリング系 YouTuber 戸田英子が贈る【奇跡の村 ch】

<https://youtube.com/@enkaku-healing?si=KR4RFMflw2C5fAke>